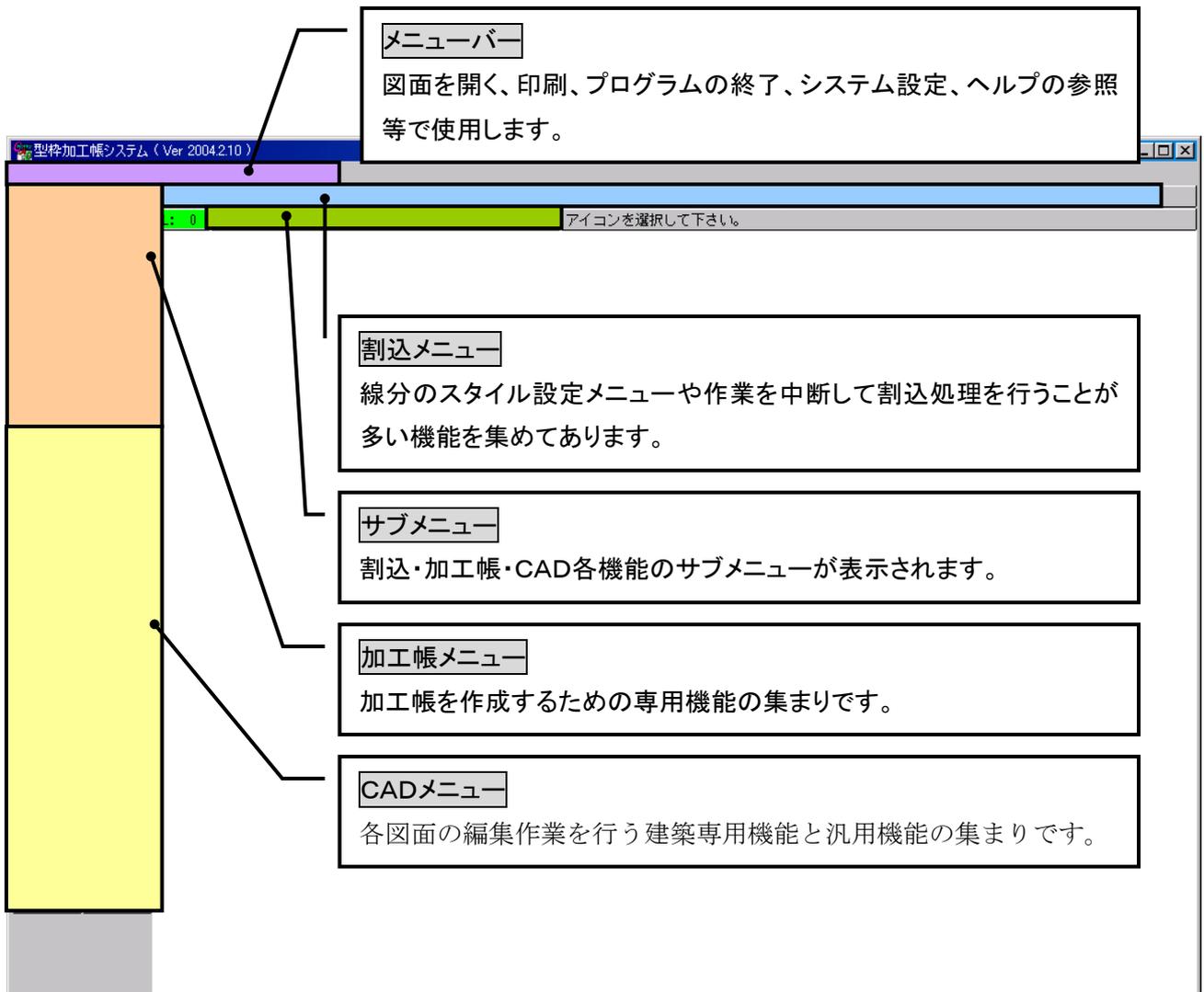


加工帳CADシステム 機能説明

株式会社シーワークス

各メニューの説明

各メニューの呼称



画面上には上部と左側にメニューが配置されていますがこれら各メニューの呼び方と簡単に役割を説明します。

各メニューの説明

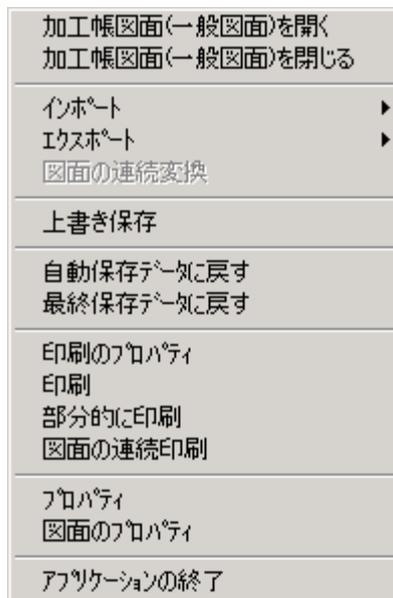
上部メニューの説明（ファイル・ウインドウ・他）



ファイル ウインドウ 図面切替 システム設定 ヘルプ

1. ファイル

図面の作成・呼出・終了・保存・印刷・各種システム設定等があります。



2. ウインドウ

複数図面を並べて表示、または重ねて表示したい場合に使います。

3. 図面切替

複数枚図面を開いている場合に編集図面を切替える場合に使います。

4. システム設定

システムの初期値・ユーザー設定と処理物件固有の設定を行います。

5. ヘルプ

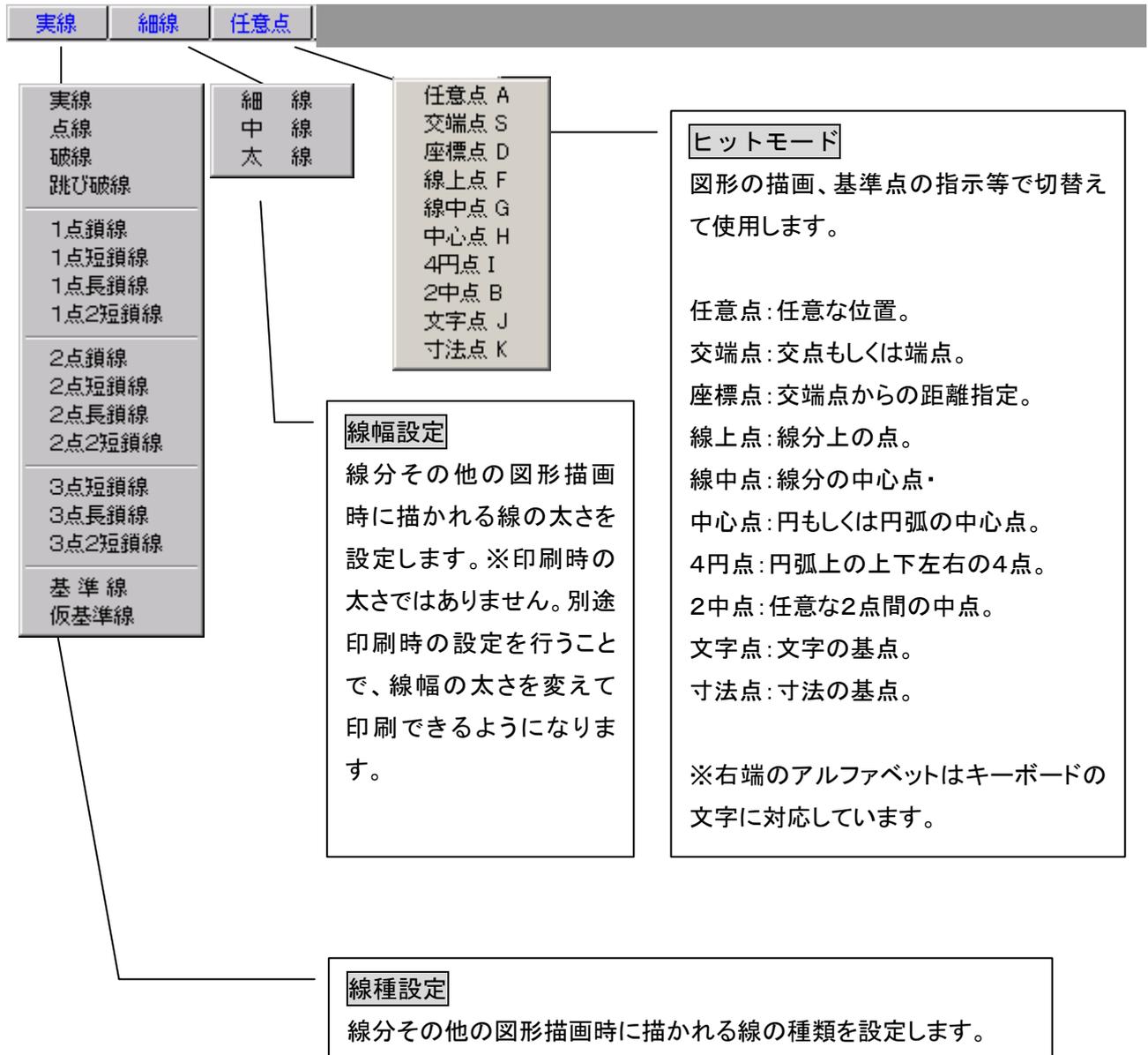
PDFファイルで取扱説明書を表示します。アクロバットリーダーが必要です。

各メニューの説明

上部メニューの説明（割込編集用メニュー）

左側のメニューは1つずつ選択して使用できます。

上部のメニューは、左側のメニュー使用時にも選択できる割込編集メニューです。



各メニューの説明

左メニューバー（加工帳メニュー）

加工帳を作成するための専用コマンド群が配置されています。詳細は各機能の説明をご覧ください。



柱加工帳
梁加工帳
壁割付
窓枠加工帳
スラブ割付
雑型枠
加工帳を開く
型枠数量

左メニューバー（2次元編集メニュー）

各図面の編集作業を行う建築専用機能と汎用機能が配置されています。詳細は各機能の説明をご覧ください。

サブメニュー 1



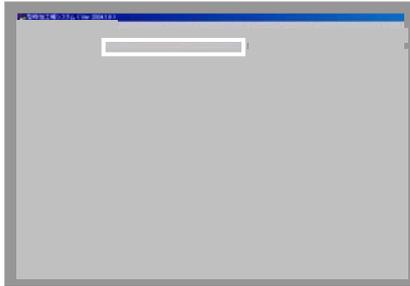
---2次元CAD編集---	
【線分】	栈木編集
四角	図面合成
線移複写	図形登録
線結合	図形呼出
線延長	範囲移動
線カット	範囲複写
中間削除	範囲削除
線分割	ストレッチ
線包絡	レイヤー編集
線変形	【文字】
矢印	注釈文字
面取り	【円】
仕上線	円弧
△印	多角形
ルッチク	雲マーク
【通り芯】	接線
階高芯	ケルプ化
柱	用紙縮尺
壁	図面回転
階段	データの整理

各メニューの説明

サブメニュー

割込・加工帳・CAD各機能を選択したときにそれぞれのサブメニューが表示される領域です。

下の例は線分機能のサブメニューです。



サブメニューに表示されたメニューをクリックすると(例として一般線をクリック)、下記のようなメニューがプルダウンで表示されます。

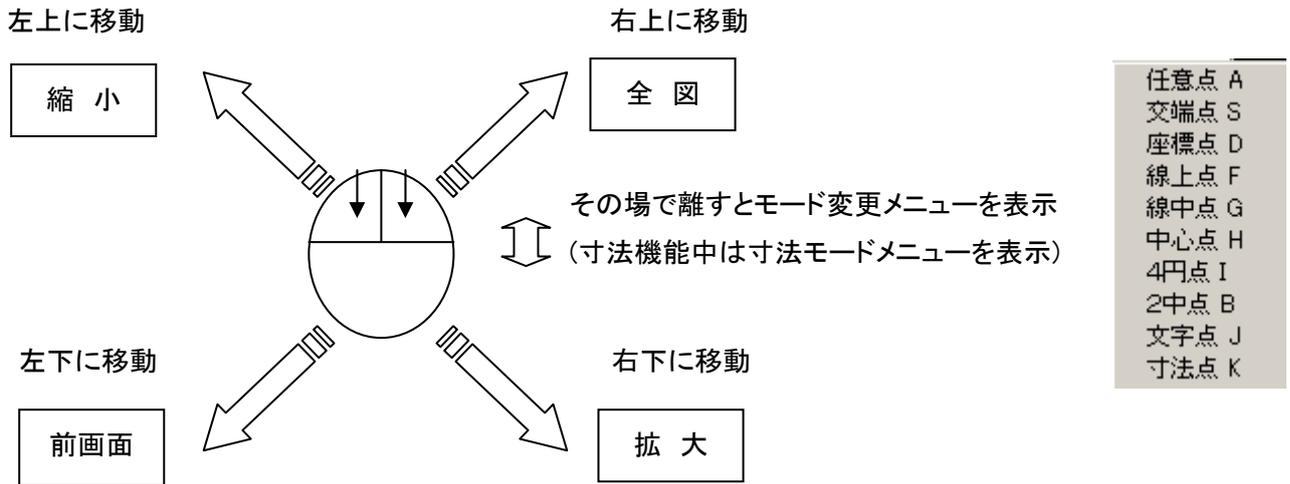


画面の操作（拡大縮小）について

マウス操作

ここで説明するのはCAD画面での画面操作です。各加工帳メニューで開くダイアログボックスで表示される絵には適用されませんのでご注意ください。そちらは「作図イメージ」ボタンをクリックしてその中にあるボタンと下側と右側にあるスクロールバーにて行います。

図面領域内でマウスの左右のボタンを同時に押したままドラッグします。
ドラッグ移動する方向によって機能が異なります。

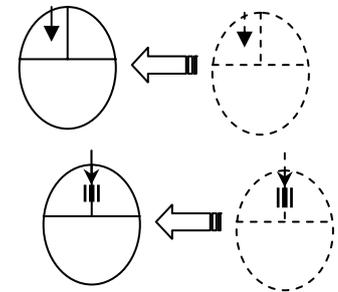
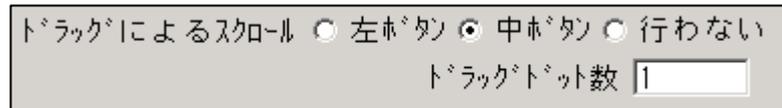


1. 左ボタン or 中ボタンでクリック & ドラッグ

拡大縮小は行わずドラッグ移動したただ画面が移動します。

インテリマウス等、左右ボタンの間にホイールまたは可動式ボタン付マウスの場合は画面制御に割付けることができます。2ボタンマウスの場合は左ボタンで操作します。

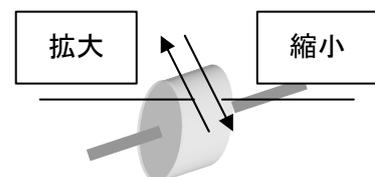
初期値は左ボタンになっていますので中ボタンへの切り替えはファイル→プロパティ→環境設定タブの項目を下記のように設定して下さい。



※ 左ボタンの場合は選択にも使用しますのでドラッグドット数を小さくすると選択時に画面が動いてしまいますので注意してください。初期値の60はボタンを押したまま60ドット動いたら画面を動かさずということです。

2. センターホイール・ボタンによる拡大・縮小

ホイール付マウスのホイールを↑に廻すと画面が拡大、↓に廻すと縮小します。ボタンの場合も上下方向に倒すと同様の結果になります。



画面の操作について

ファンクションキーによる画面操作

キー操作に慣れている方のためにマウスと両方が使えるようにしてあります。

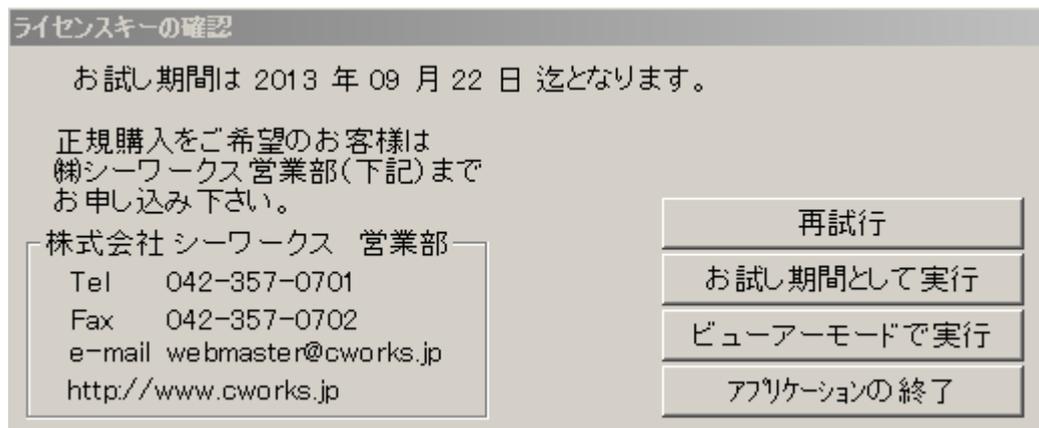
Home	全図の状態を表示します。
F 1	F 1 キーを押した後、2 点指示で囲って画面を拡大します。
F 7	マウスポインタのある位置を画面中央に移動して 2 倍に拡大表示します。
F 8	マウスポインタのある位置を画面中央に移動して 1 / 2 に縮小表示します。
F 9	拡大縮小はせずにマウスポインタのある位置を画面中央に移動します。
F 1 1	現在表示している画面を再描画します。
Page Up	画面を 2 倍に拡大します。
Shift + Page Up	少しずつ拡大します。
Page Down	画面を 1 / 2 に縮小します。
Shift + Page Down	少しずつ縮小します。
← · ↑ · ↓ · →	画面を矢印の方向へ移動します。
Shift + ← · ↑ · ↓ · →	少しずつ画面を矢印の方向へ移動します。
ALT	押したままクリックすると任意点の指示ができます。
Ctrl	押したままクリックすると交端点の指示ができます。

お試し期間と使う・ライセンス購入して使う

お試し期間として使う（1 か月間使えます）

インストール後、デスクトップにできたショートカットアイコンをダブルクリックして起動、もしくはスタート→プログラムでCADを起動します。

ライセンスキーを装着されていない場合、下記の画面が表示されます。



お試し期間として実行、をクリックしてから、1ヶ月間は製品版同様にお使い頂けます、期間終了後は、お使いいただけませんので、お早めに購入手続きをお願いします。

株式会社シーワークス 営業部

TEL 042-357-0701

FAX 042-357-0702

<http://www.cworks-cad.jp/> ホームページよりご購入頂けます。

※ビューアーモードで実行、とすると、作成された図面を閲覧、印刷のみ可能となります。
編集はできません。

ライセンス購入された場合

ライセンスキーを USB ポートに装着後、ライセンスキーの端部がグリーンに点灯します。

そのままCADを起動すると、お試し期間ではなく、お使い頂けるようになります。

ライセンスキーを装着しても、お試し期間等の表示が出る場合は、再度抜き差ししてお試し下さい。

データ保存先 新規データの作成 初期設定

新規データの作り方（加工帳CADを直接起動）

型枠加工帳CADアイコンをクリックして起動すると、(図 1)の画面が表示されます。データの保存先を作成、選択することができます。

通所のインストールでは、Cドライブの Cworks32 というフォルダにプログラムがインストールされます。初期のデータ保存先として、Cworks32 というフォルダの中に加工帳というフォルダが作成されています。その中に保存されます。(変更することも可能です)

大分類(請負元等の名前で作成) > 物件 > 加工帳図面 という構成となります。(図 2)

大分類名には、取引先、担当者等、物件名には、物件、請負元等、加工帳図面名には工事名や工事名や階数を入れるなど、自由にお使いください。

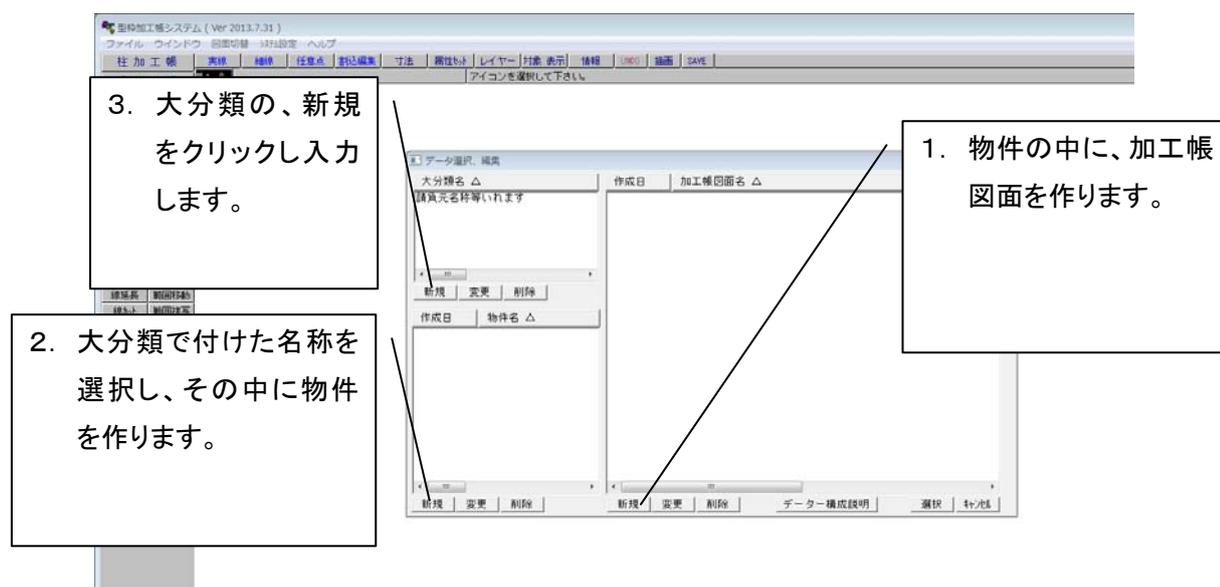


図 1

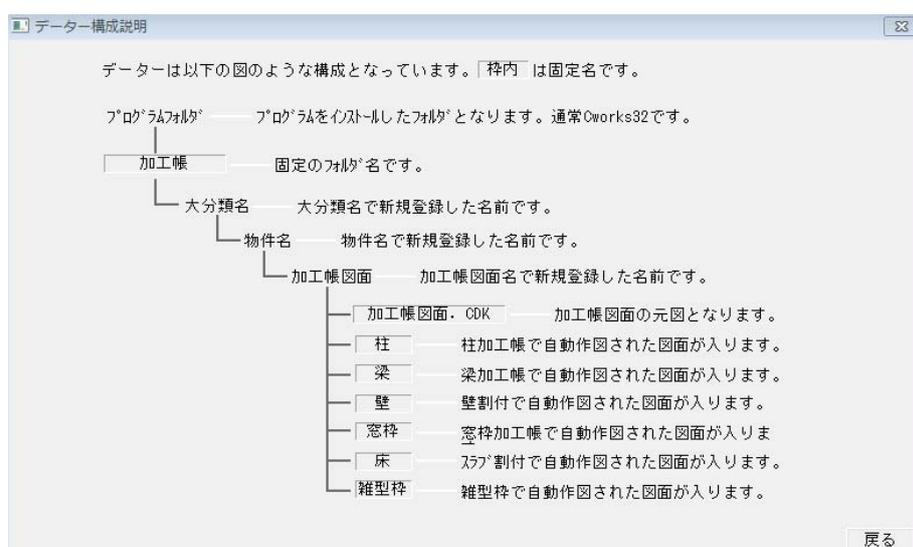


図 2

データ保存先 新規データの作成 初期設定

新規データの作り方（共通物件管理システムより起動）

CworksCAD メニューアイコンをクリックして起動すると、(図 3)の画面が表示されます。データの保存先を作成、選択することができます。

通常のインストールでは、Cドライブに Cworks32 というフォルダにプログラムがインストールされます。

初期データ保存先として、Cworks32 というフォルダの中に CwData というフォルダが作成されています。その中に保存されます。

データフォルダの右側にある、フォルダ変更のボタンをクリックして、保存先を変更することも可能です。

フォルダ1(請負元等の名前で作成)＞フォルダ2(物件名等で作成)＞物件フォルダ(加工帳図面名で作成) という構成となります。

フォルダ1 やフォルダ2 をクリックして、これらの名称を変更することも可能です。

フォルダ1には、取引先、担当者等、フォルダ2には、物件、請負元等、物件名には、工事名や工事名や階数を入れるなど、自由にお使いください。

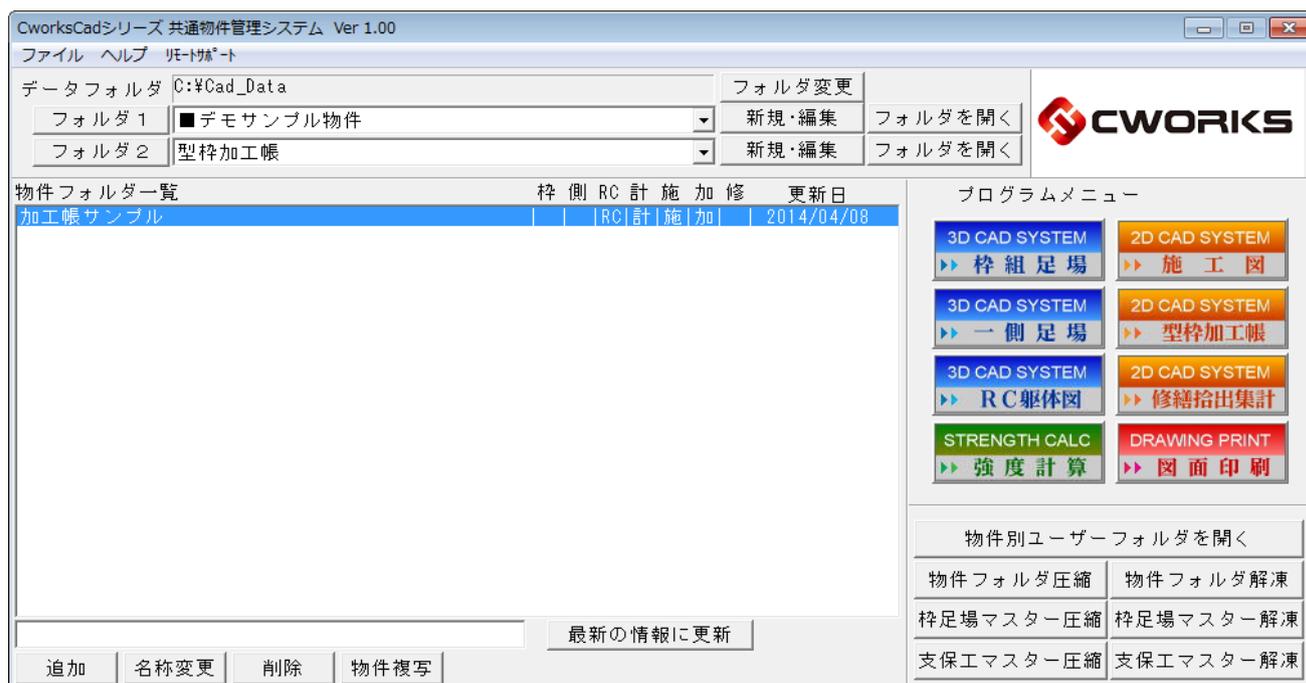


図 3

新規図面の作成 用紙縮尺設定

新規で加工帳を開くときに、はじめに用紙縮尺を設定する画面が表示されます。
用紙、縮尺を設定し、決定ボタンをクリックします。(後で変更することも可能です)

新規図面【 C:\CADDATA\デモサンプル物件\加工帳\加...

用紙

A0横 A0縦 A1横 A1縦
 A2横 A2縦 A3横 A3縦
 A4横 A4縦 B4横 B4縦
 B5横 B5縦 I-サマ横 I-サマ縦

縮尺

1/10 1/20 1/30 1/40
 1/50 1/60 1/100 1/200

レイヤ-テンプレート

初期図面情報として登録

新規図面の作成 図枠設定

図面枠のサンプルとして、A3図面枠を入れています。

図面枠を使用されない場合は、図枠不使用、をクリックしてください。

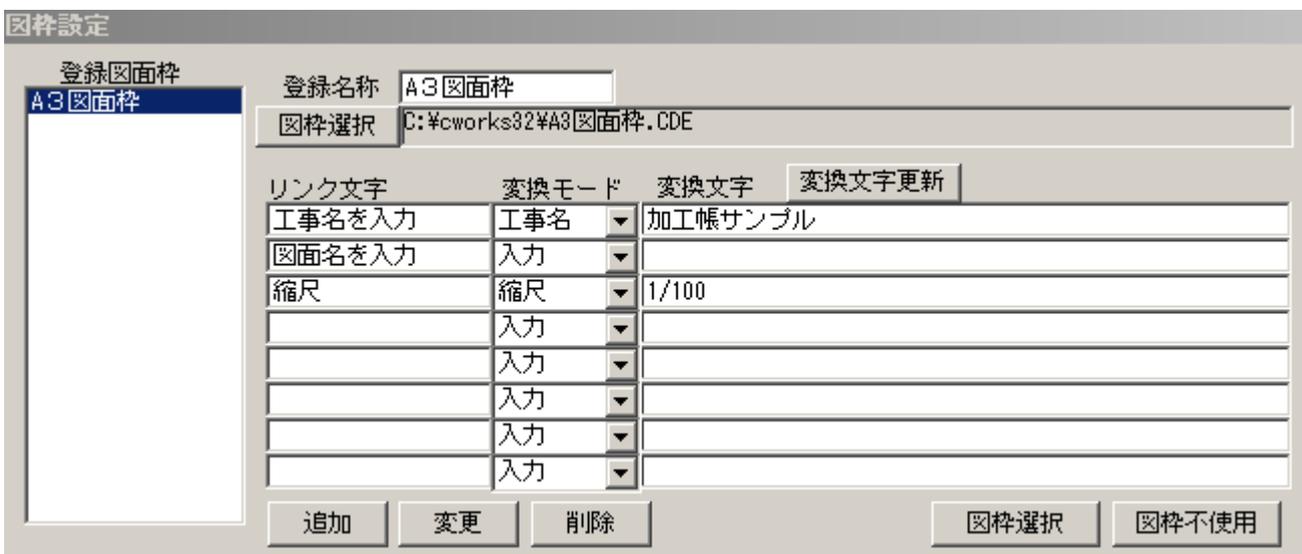
新図図面が作成されます。



リンク文字	変換モード	変換文字

図枠を使われる場合は、図枠(例 A3図面枠)をクリックし、変換文字の図面名を入れて、図枠選択をクリックします。

新規図面が作成されます。



リンク文字	変換モード	変換文字
工事名を入力	工事名	加工帳サンプル
図面名を入力	入力	
縮尺	縮尺	1/100
	入力	

データ保存先 新規データの作成 初期設定

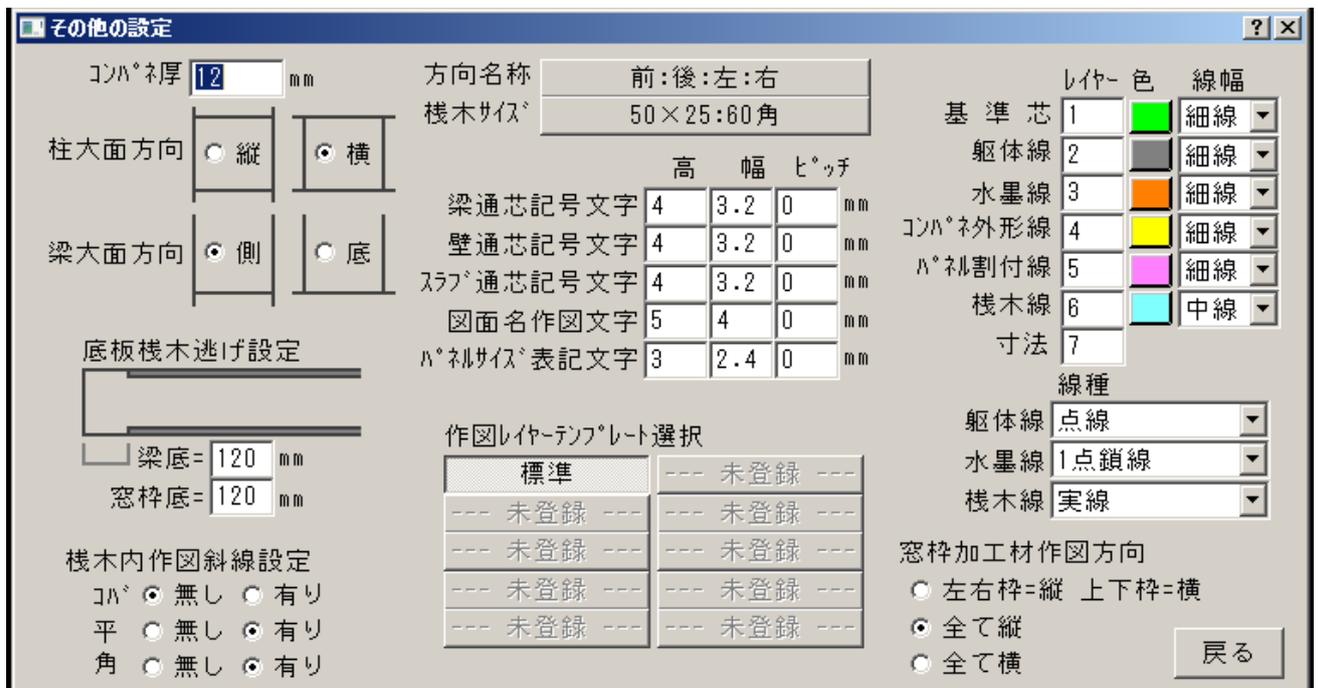
システム設定 (階高 棧木 各加工帳基本設定)

図面単位の基本設定は、システム設定にて行います。

初期図面作成時に表示されます。

また、図面作成途中でも、画面上部にある、システム設定 をクリックすると設定画面が表示されます。

その他の設定 をクリックすると、その他の設定画面が表示されます。



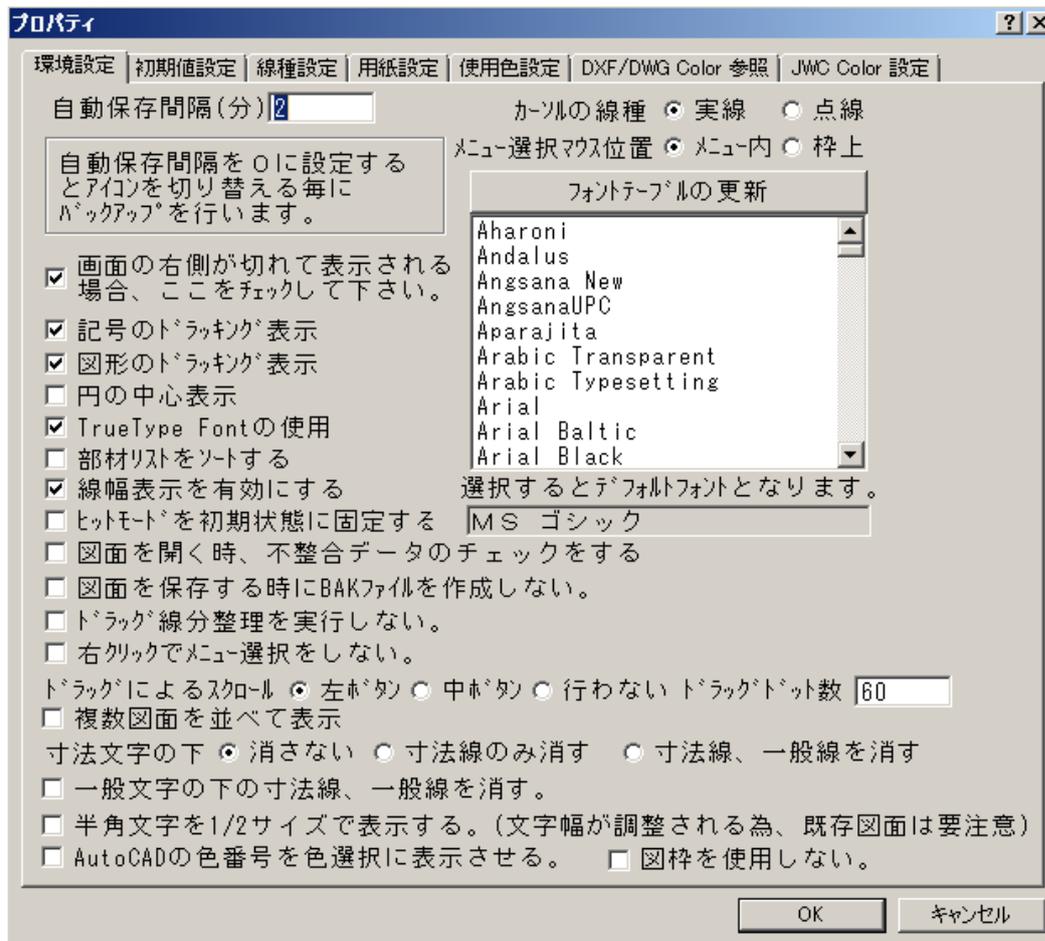
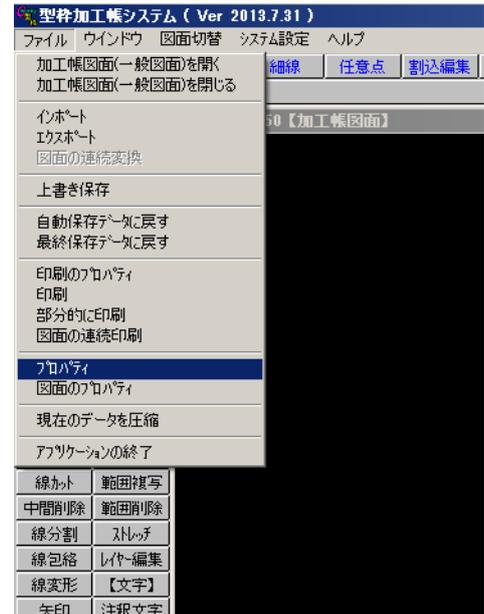
初期設定画面 プロパティ設定

初回起動時に、プロパティ画面が表示されます。

表示されない場合は、左上の、ファイル→プロパティ をクリックして、表示させることができます。

初めに、フォントテーブルの更新ボタンをクリックしてください。

その他の初期設定関係も、プロパティで設定できます。



システム設定

各初期値設定

システム設定では大きく分けて下記の内容を設定します。

1. 使用する栈木の寸法や標準取り合い、加工帳に表記内容の設定
2. 物件固有の階高、標準スラブ厚等の設定

初めに設定しておくことで毎回同じ項目を選んだり、入力することをなくして作業時間の短縮します。

- 階高** 工事するフロア高さを入力します。このサイズが柱型枠・壁型枠の基準になります。
- スラブ厚** 最も多いスラブの厚みを設定します。スラブ厚の入力がある場合はここで入力した数値が初期値として表示されます。
- 上部スラブレベル** 作業階上基準の標準スラブレベルを入力します。スラブレベルの入力がある場合はここで入力した数値が初期値として表示されます。
- 下部スラブレベル** 作業階下基準の標準スラブレベルを入力します。柱加工帳と壁加工帳の作成時に初期値として表示されます。
- 寝巻高** 敷き栈木のことです。
- 水墨レベル** 下基準からのレベルを入力します。一般的には1000ですが必要ない場合は0にして下さい。

加工帳作成の前に 図面を取り込んで使う場合は

加工帳作成の前に（システム設定の確認）

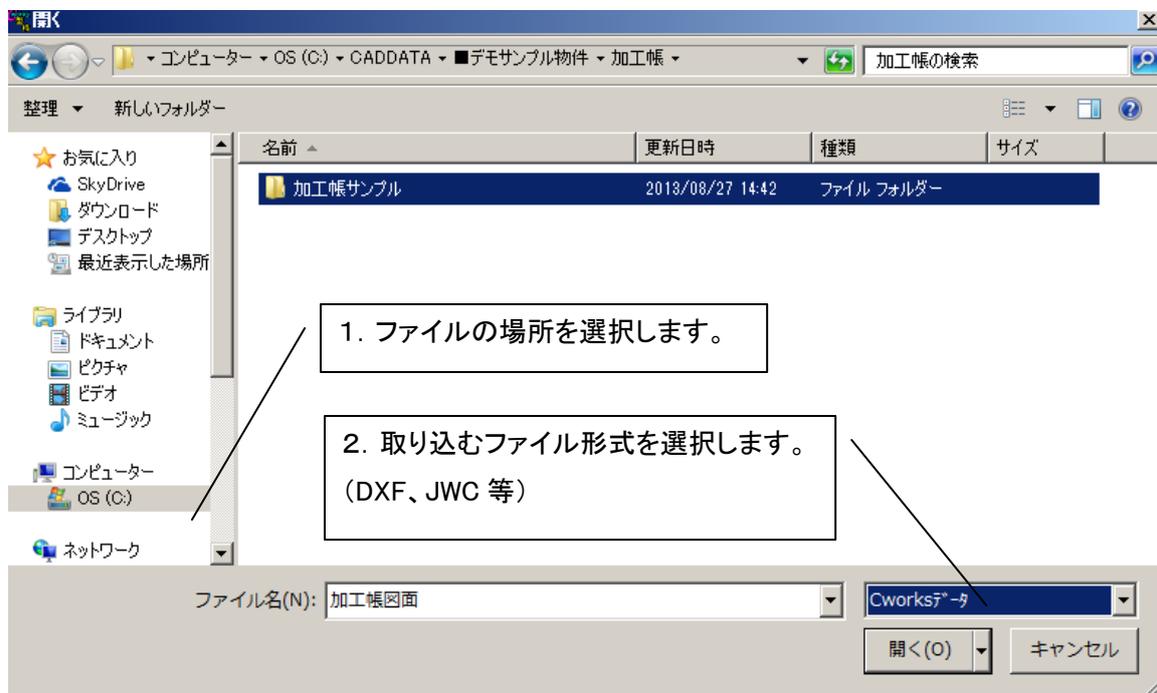
加工帳を作成する前に、初回作成時に開かれる、システム設定で階高・標準スラブ厚等の設定が正しくされているかを確認してください。上部のシステム設定メニューからも開けます。



躯体図のCADデータを使って作成する場合（図面の取り込み）

加工帳は躯体図のCADデータ（DXFデータ、JWCデータ推奨）から作成する方法と、図面を見ながら作成する方法があります。

躯体図面を取り込んで行う場合は、画面上に躯体図面を表示させてから行います。躯体図データの取り込みがまだの場合、画面左上のファイル→インポート→ファイルを選択します。



図面が画面上に取り込まれたら、この図面をもとに加工帳作成を行います。

※ 取り込み可能なデータ形式へ変換頂く必要がある可能性もございます。

Autocadの場合は、2000形式のデータで、JWCADの場合は、JWCファイル形式で保存したデータで取り込みを行って下さい。

【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

柱加工帳メニューして柱設定ダイアログを表示

柱加工帳メニューをクリックして柱設定ダイアログを表示します。

最上部にある名称に作成する柱の固有名を入力します。(例:3A、X2-Y3)

大面方向の縦・横を確認して、異なっていれば変更して下さい。納まり上、一箇所のみ大小を変更したい場合は、柱の出来形を表示するところを変更出来ます。

設定方法の図面から入力を選択します。

柱設定

名称 3A、X2-Y3

柱データの読み込み、削除

大面方向

縦 横

面設定方法

図面から入力

数値で入力

スラブレベル -50 mm

スラブ厚 200 mm

下部レベル -50 mm

図面から入力

前

電卓

図面から入力

左 柱 右

スラブレベル -50 mm

スラブ厚 200 mm

下部レベル -50 mm

図面から入力

後

スラブレベル -50 mm

スラブ厚 200 mm

下部レベル -50 mm

用紙 A4横

縮尺 1/20

作図イメージ

保存して次を処理

保存して終了

保存しないで終了

スラブレベル, 下部レベルはFLレベルより下がる場合はマイナス入力です。

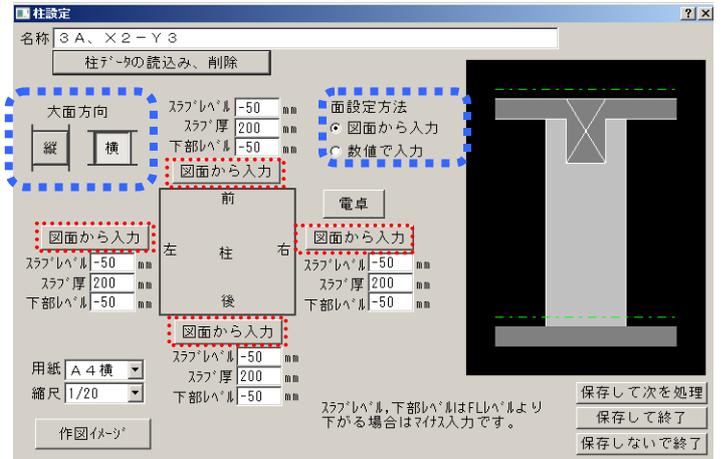
【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

図面から入力する

1. 作成面の指定

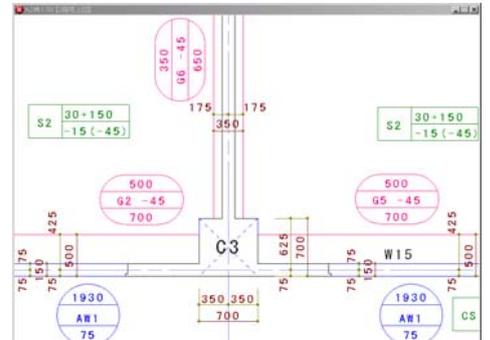
作成する方向の各面ごとにスラブレベル・スラブ厚・下部（スラブ）レベルに初期値が表示されています。変更する必要がある箇所は修正して下さい。左右のスラブレベルが違う場合は梁のレベルに合わせて下さい。勾配、段差の設定は最後に修正します。

これから作成する方向を4つの「**図面から入力**」から選んでクリックします。



2. 画面の調整

作成する柱と接する梁・壁・スラブの情報が（高さ、厚み、レベルがわかるように）が参照できるように画面を拡大して下さい。特に梁記号に注意してください。



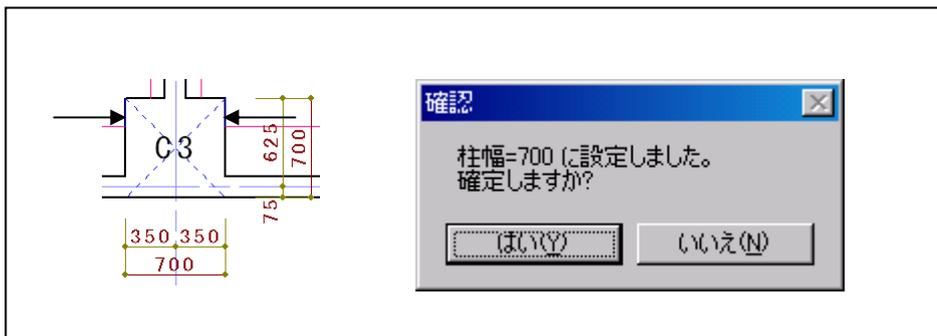
3. 柱幅の設定

サブメニューの「**柱**」が選択された状態になっています。



柱の線分2本を指示します。

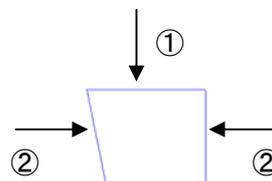
指示した柱幅が表示されます。柱寸法と同じであることを確認してください。



異形柱の場合はサブメニューの「**2線**」を「**面+2線**」に切替えます。



- ① 最初に作成する面を指示します。
- ② 次にとり合う2面を指示します。



【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

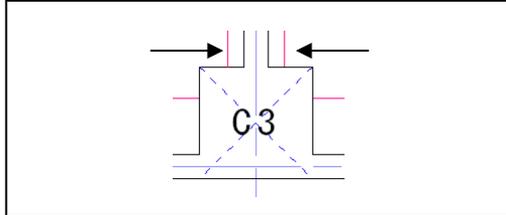
4. 梁の設定

サブメニューは **梁** が選択された状態に変わっています。



作成している柱面に梁が無い場合は、サブメニューの **壁** をクリックして**壁の設定**へ進みます。

壁も無い場合は **戻る** をクリックして次の面を作成します。



作成する面に梁がある場合は梁の線分2本を指示します。

梁成は線データからは読み取れませんので記号を参照しながらダイアログに増打（ふかし）込みの寸法で入力します。予め設定したスラブレベルと梁レベルが異なる場合は更にその差を含めた数値となります。

The image shows a software dialog box for creating a beam. On the left, there are input fields for 'スラブレベル' (Slab Level) at -15 mm, 'スラブ厚' (Slab Thickness) at 180 mm, and '下部レベル' (Bottom Level) at -15 mm. Below these are buttons for '図面から指示' (Indicate from drawing) and '入力指示' (Input instruction). The main input field is labeled '梁成' (Beam Creation) and contains the value '680'. To the right of this field is a '電卓' (Calculator) button. At the bottom are '決定' (OK) and '中止' (Cancel) buttons. A callout box above the dialog shows the calculation: $650 + 45 - 15 = 680$. To the right of the dialog is a diagram of a beam cross-section with three levels indicated: '基準レベル' (Reference Level) at the top, '設定スラブレベル' (Set Slab Level) in the middle, and '梁天端レベル' (Beam Top Level) at the bottom. A vertical dimension line on the left of the beam is labeled 'この寸法を入力' (Input this dimension). A dashed line connects the '設定スラブレベル' to the '680' value in the dialog. A circular callout highlights the beam width dimensions: 350, 66, 45, and 650.

【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

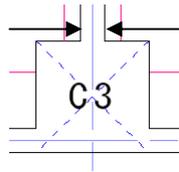
5. 壁の設定

サブメニューの表示が「壁」に変わっています。



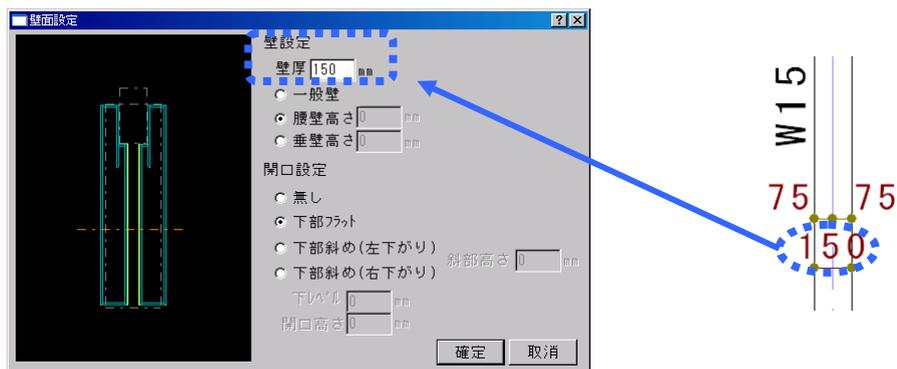
壁が無い場合は、サブメニューの「戻る」をクリックして次の面を作成します。

作成する面に壁がある場合は壁の線分2本を指示します。



壁の線2本を指示し終わると下記の画面を表示します。

壁厚が図面の寸法どおりであることを確認します。



「確定」をクリックすると柱面設定ダイアログに戻ります。

ただし、最初に柱名を入力していないと入力のダイアログが出てきますので入力してください。これは後に加工帳を呼び出して編集、印刷する場合識別する為です。



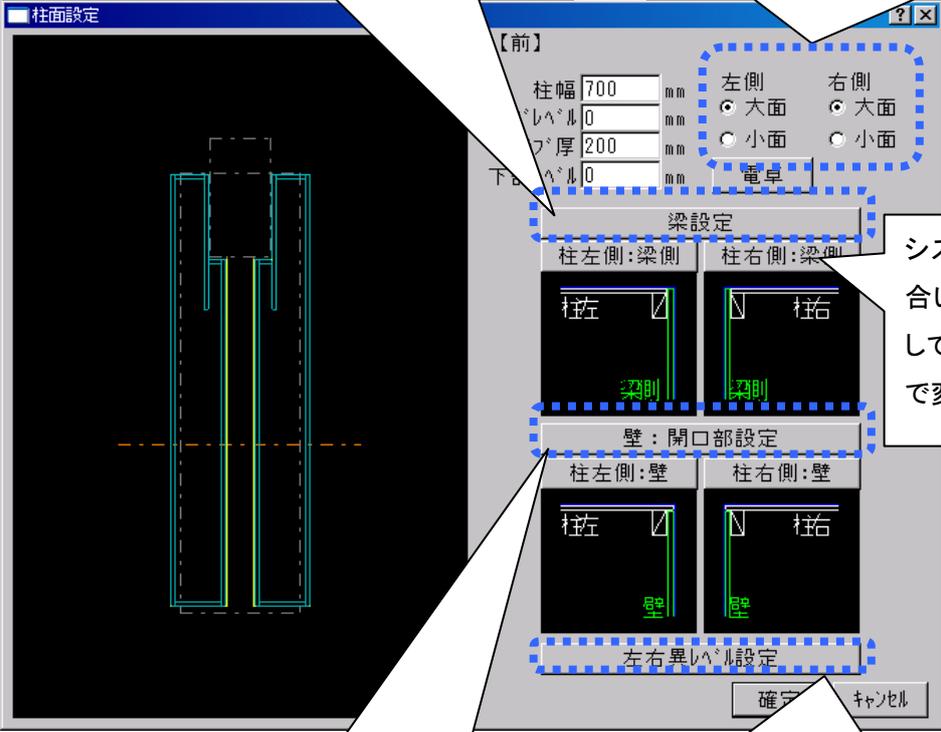
【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

6. 柱設定ダイアログ表示

次に柱面設定ダイアログが表示され、指示した内容により作成された面を表示します。

梁設定は画面から読み取る以外の情報は
ありません。

大面・小面の切替えが出来ます。取り合う面も変更
して下さい。自動では変更されません。



システム設定で決めた各取り
合い部分の棧木納まりを表示
しています。必要があればここ
で変更できます。

腰壁・下がり壁・端部開口付の場合などは
クリックして設定します。

上、下それぞれに対して左右のレベル違い、傾斜対応が
この中で可能です。

追加・変更箇所がなければ右下の**確定**をクリックします。

最初の画面に戻ります。他の面も作成する場合は、残りの**図面から入力**をクリックして繰り返します。

作業している柱で作成するすべての面を入れ終わったら下にあるボタンを押して次の処理に進みます。

【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

柱加工帳メニューして柱設定ダイアログを表示

柱加工帳メニューをクリックして柱設定ダイアログを表示します。

最上部にある**名称**に作成する柱の固有名を入力します。(例:3A、X2-Y3)

大面方向の縦・横を確認して、異なっていれば変更して下さい。納まり上、一箇所のみ大小を変更したい場合は、柱の出来形を表示するところで変更出来ます。

面設定方法の**数値で入力**を選択します。

柱設定

名称 3A、X2-Y3

柱データの読み込み、削除

大面方向

縦 横

面設定方法

図面から入力

数値で入力

数値で入力

電卓

数値で入力

前

左 柱 右

後

数値で入力

スラブレベル -50 mm

スラブ厚 200 mm

下部レベル -50 mm

スラブレベル -50 mm

スラブ厚 200 mm

下部レベル -50 mm

スラブレベル -50 mm

スラブ厚 200 mm

下部レベル -50 mm

スラブレベル -50 mm

スラブ厚 200 mm

下部レベル -50 mm

用紙 A4横

縮尺 1/20

作図イメージ

保存して次を処理

保存して終了

保存しないで終了

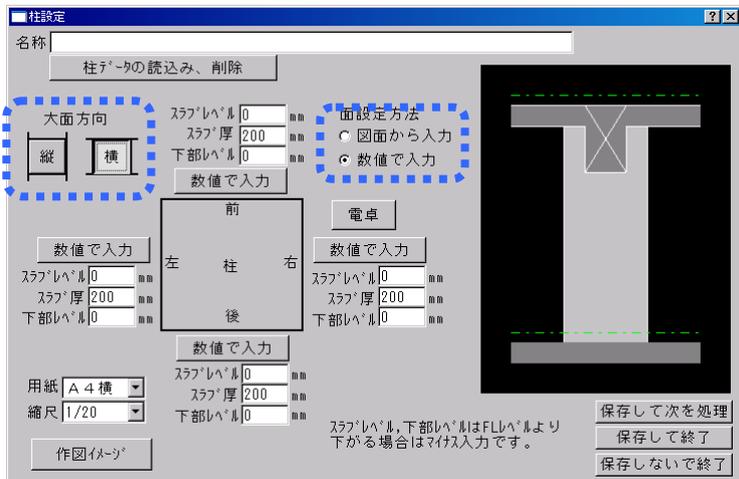
スラブレベル, 下部レベルはFLレベルより下がる場合はマイナス入力です。

【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

1. 作成面の指定

作成する方向の各面ごとにスラブレベル・スラブ厚・下部（スラブ）レベルに初期値が表示されています。変更する必要がある箇所は修正して下さい。左右のスラブレベルが違う場合は梁のレベルに合わせて下さい。勾配、段差の設定は最後に修正します。

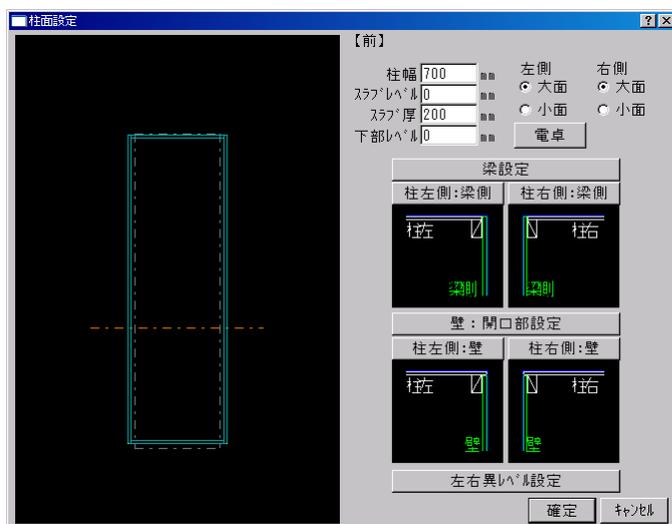
これから作成する方向を4つの「数値で入力」から選んでクリックします。



2. 柱面設定

柱設定のダイアログが開きます。

1. 柱幅を入力します。
2. スラブレベル・スラブ厚は初期値が設定されていますが、異なる場合は書き換えます。
3. 大面・小面の違いがあれば変更します。
4. 梁も壁もなければそのまま確定します。
5. 梁がある場合は梁設定をクリックして進みます。
6. 壁がある場合は壁設定をクリックして進みます。
7. すべて設定がおわったら確定します。



【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

3. 梁設定

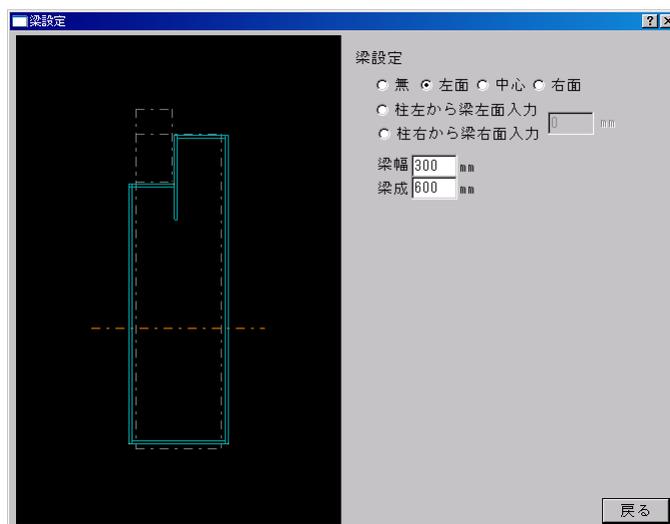
1. 梁成(※注)・梁幅を入力します。
2. 梁の付く位置を左面・中心・右面より選択します。寄りを設定したい場合はその下の柱左から～ か 柱右から～ を選択して寄り寸法を入力します。

(例)

柱左から梁左面入力
 柱右から梁右面入力

100 mm

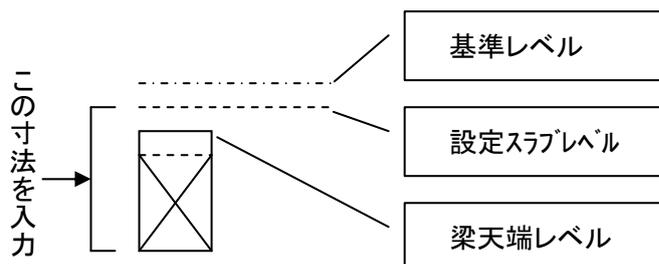
梁幅 300 mm
梁成 600 mm



3. 入力が終わりましたら **戻る** をクリックして柱設定に戻ります。

※注 梁成の入力について

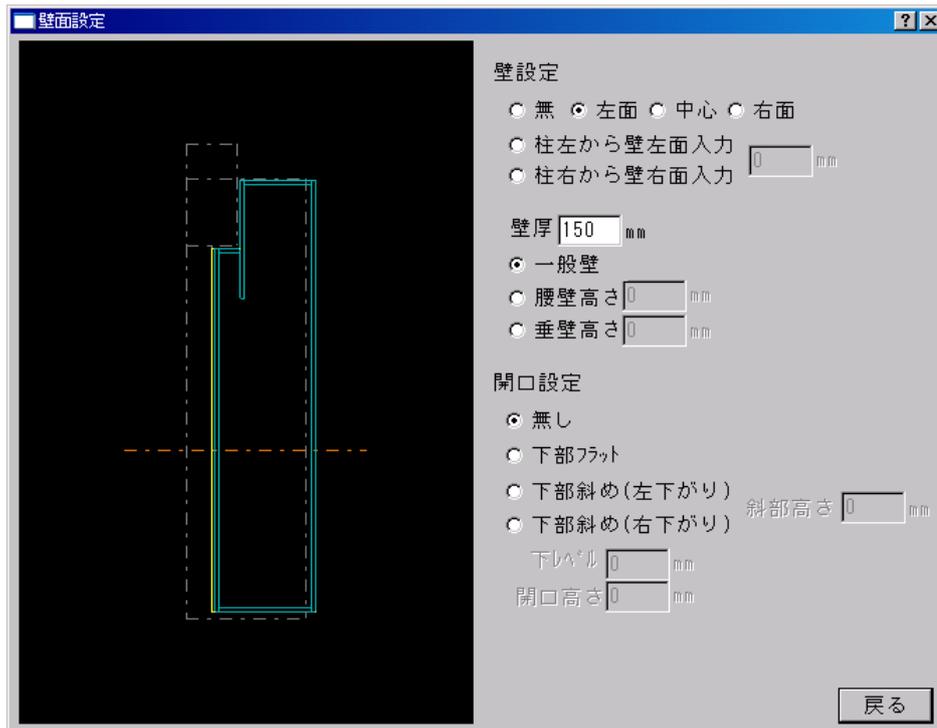
梁成の入力には設定したスラブレベルから梁下端までの距離を入力してください。



【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

4. 壁設定

1. 壁厚を入力します。
2. 壁の付く位置を左面・中心・右面より選択します。寄りを設定したい場合はその下の柱左から～ か柱右から～ を選択して寄り寸法を入力します。
3. 初期値は一般壁ですが腰壁の場合は選択して下基準からの高さを、垂壁の場合は上基準からの下がり値を入力します。また、端部開口付の場合は一般壁に開口設定を行います。
4. 入力が終わりましたら **戻る** をクリックして柱設定に戻ります。



【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

5. 全体の確認

次に柱面設定ダイアログが表示され、指示した内容により作成された面を表示します。

梁設定は画面から読み取る以外の情報はありません。

大面・小面の切替えが出来ます。取り合う面も変更して下さい。自動では変更されません。

システム設定で決めた各取り合い部分の棧木納まりを表示しています。必要があればここで変更できます。

腰壁・下がり壁・端部開口付の場合などはクリックして設定します。

上、下それぞれに対して左右のレベル違い、傾斜対応がこの中で可能です。

追加・変更箇所がなければ右下の**確定**をクリックします。

The dialog box '柱面設定' (Column Surface Setting) contains the following fields and sections:

- 3【前】
- 柱幅: 700 mm
- スラブレベル: 0 mm
- スラブ厚: 200 mm
- 下りレベル: 0 mm
- 左側: 大面, 小面
- 右側: 大面, 小面
- 電卓
- 梁設定: 柱左側: 梁側, 柱右側: 梁側
- 壁: 開口部設定: 柱左側: 壁, 柱右側: 壁
- 左右異い設定
- 確定, キャンセル

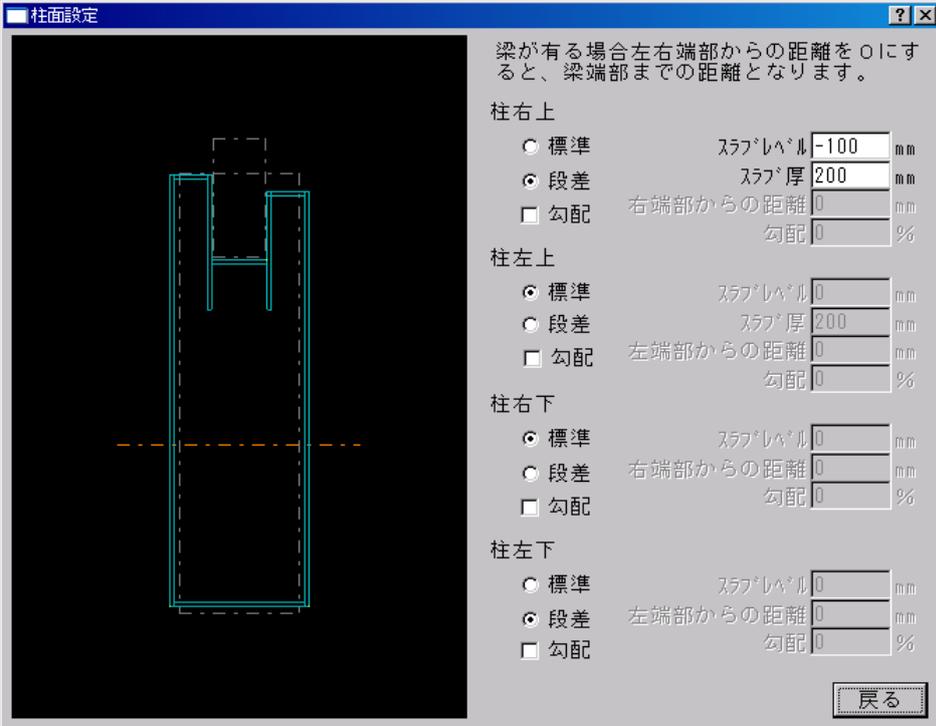
【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する

7. 段差・勾配の設定

段差の設定

梁の左右などでレベルが異なる場合はこの画面で設定が可能です。

段差の場合は段差にマークしてスラブレベルとスラブ厚を記号から読み取り入力します。



梁が有る場合左右端部からの距離を 0 にすると、梁端部までの距離となります。

柱右上

- 標準
- 段差
- 勾配

スラブレベル: -100 mm
スラブ厚: 200 mm
右端部からの距離: 0 mm
勾配: 0 %

柱左上

- 標準
- 段差
- 勾配

スラブレベル: 0 mm
スラブ厚: 200 mm
左端部からの距離: 0 mm
勾配: 0 %

柱右下

- 標準
- 段差
- 勾配

スラブレベル: 0 mm
右端部からの距離: 0 mm
勾配: 0 %

柱左下

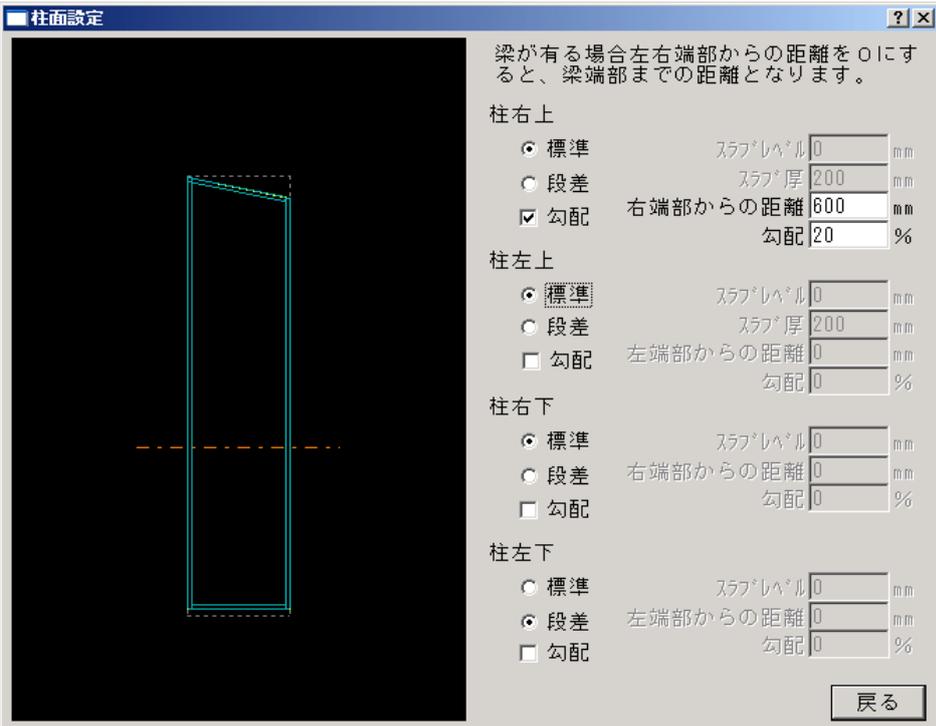
- 標準
- 段差
- 勾配

スラブレベル: 0 mm
左端部からの距離: 0 mm
勾配: 0 %

戻る

勾配の設定

勾配を設定する場合も勾配にチェックをして端からの距離と勾配率を入力してください、



梁が有る場合左右端部からの距離を 0 にすると、梁端部までの距離となります。

柱右上

- 標準
- 段差
- 勾配

スラブレベル: 0 mm
スラブ厚: 200 mm
右端部からの距離: 600 mm
勾配: 20 %

柱左上

- 標準
- 段差
- 勾配

スラブレベル: 0 mm
スラブ厚: 200 mm
左端部からの距離: 0 mm
勾配: 0 %

柱右下

- 標準
- 段差
- 勾配

スラブレベル: 0 mm
右端部からの距離: 0 mm
勾配: 0 %

柱左下

- 標準
- 段差
- 勾配

スラブレベル: 0 mm
左端部からの距離: 0 mm
勾配: 0 %

戻る

【柱加工帳を作成する】数値で入力して作成する



8. 作図イメージの確認

9.

10. 保存と終了

作図イメージ

寸法・文字が表示され作図状態を確認出来ます。用紙・縮尺を変更しながら完成イメージを見ることが出来ます。

保存して次を処理

作成した柱加工帳を保存します。画面はそのままで次の柱を作成できます。

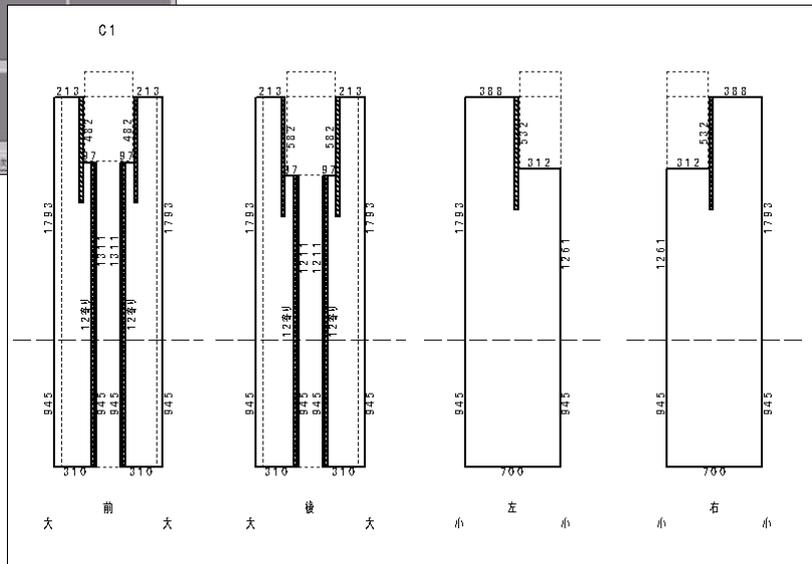
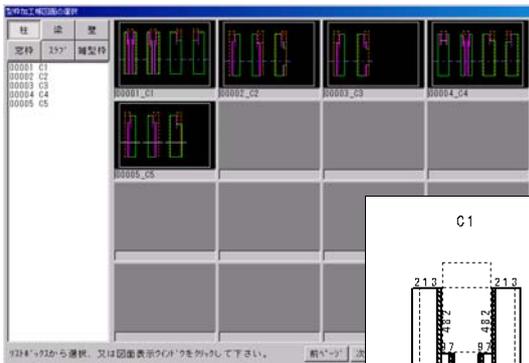
保存して終了

作成した柱加工帳を保存してこのメニューを終了します。

保存しないで終了

現在作業中の柱加工帳を保存しないで終了します。

※ 作成した柱加工帳は加工帳を開くから呼び出します。



柱加工帳の作成

【柱加工帳の作成】 図面データを使って作成する

柱加工帳メニューして柱設定ダイアログを表示

柱加工帳メニューをクリックして柱設定ダイアログを表示します。

最上部にある**名称**に作成する柱の固有名を入力します。(例:3A、X2-Y3)

大面方向の縦・横を確認して、異なっていれば変更して下さい。納まり上、一箇所のみ大小を変更したい場合は、柱の出来形を表示するところで変更出来ます。

設定方法の**図面から入力**を選択します。

柱設定

名称 3A、X2-Y3

柱データの読み込み、削除

大面方向

縦 横

スラブレベル -50 mm

スラブ厚 200 mm

下部レベル -50 mm

図面から入力

面設定方法

図面から入力

数値で入力

電卓

図面から入力

スラブレベル -50 mm

スラブ厚 200 mm

下部レベル -50 mm

図面から入力

スラブレベル -50 mm

スラブ厚 200 mm

下部レベル -50 mm

用紙 A4横

縮尺 1/20

作図イメージ

スラブレベル、下部レベルはFLLレベルより下がる場合はマイ付入力です。

保存して次を処理

保存して終了

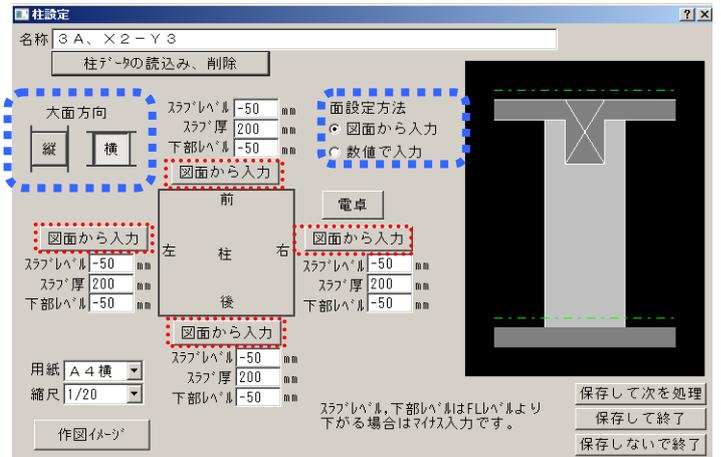
保存しないで終了

【柱加工帳の作成】図面データを使って作成する

図面から入力する

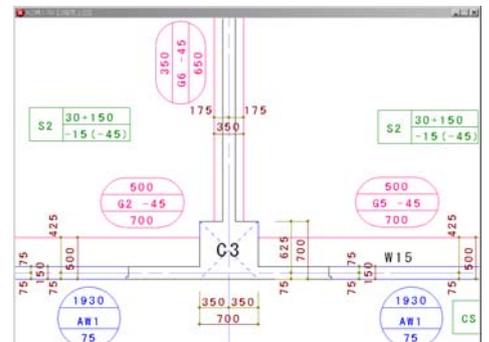
1. 作成面の指定

作成する方向の各面ごとにスラブレベル・スラブ厚・下部（スラブ）レベルに初期値が表示されています。変更する必要がある箇所は修正して下さい。左右のスラブレベルが違う場合は梁のレベルに合わせて下さい。勾配、段差の設定は最後に修正します。
これから作成する方向を4つの「**図面から入力**」から選んでクリックします。



2. 画面の調整

作成する柱と接する梁・壁・スラブの情報が（高さ、厚み、レベルがわかるように）が参照できるように画面を拡大して下さい。特に梁記号に注意してください。



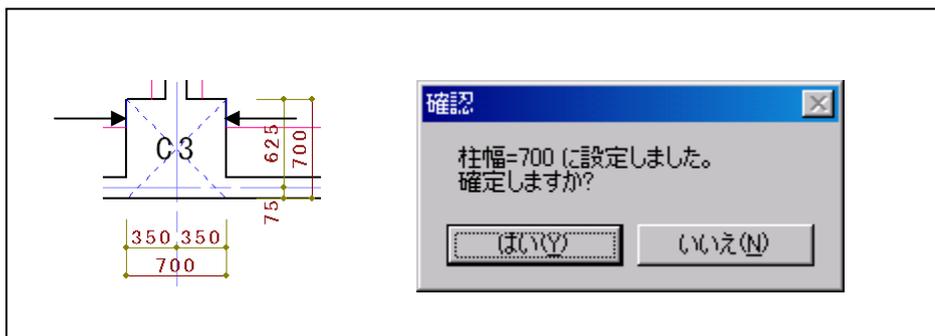
3. 柱幅の設定

サブメニューの「**柱**」が選択された状態になっています。

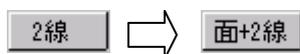


柱の線分2本を指示します。

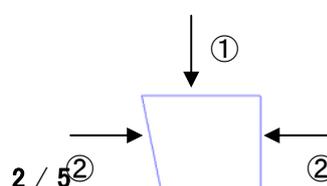
指示した柱幅が表示されます。柱寸法と同じであることを確認してください。



異形柱の場合はサブメニューの「**2線**」を「**面+2線**」に切替えます。



- ① 最初に作成する面を指示します。
- ② 次にとり合う2面を指示します。



【柱加工帳の作成】 図面データを使って作成する

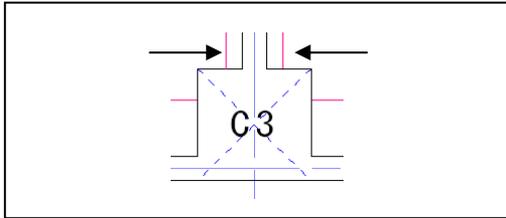
4. 梁の設定

サブメニューは「**梁**」が選択された状態に変わっています。



作成している柱面に梁が無い場合は、サブメニューの「**壁**」をクリックして**壁の設定**へ進みます。

壁も無い場合は「**戻る**」をクリックして次の面を作成します。



作成する面に梁がある場合は梁の線分2本を指示します。

梁成は線データからは読み取れませんので記号を参照しながらダイアログに増打（ふかし）込みの寸法で入力します。予め設定したスラブレベルと梁レベルが異なる場合は更にその差を含めた数値となります。

The image shows a software dialog box for setting beam dimensions. On the left, there are input fields for 'スラブレベル' (Slab Level) set to -15 mm, 'スラブ厚' (Slab Thickness) set to 180 mm, and '下部レベル' (Bottom Level) set to -15 mm. Below these are buttons for '図面から指示' (Indicate from drawing) and '入力指示' (Input instruction). The main input field is labeled '梁成' (Beam length) and contains the value '680'. To the right of this field is a '電卓' (Calculator) button. At the bottom are '決定' (OK) and '中止' (Cancel) buttons. A callout box points to the '680' value with the calculation $650 + 45 - 15 = 680$. To the right of the dialog box is a diagram showing three horizontal levels: '基準レベル' (Reference Level), '設定スラブレベル' (Set Slab Level), and '梁天端レベル' (Beam Top Level). A vertical dimension line between the '設定スラブレベル' and '梁天端レベル' is labeled 'この寸法を入力' (Input this dimension). A circular callout highlights the calculation $350 - 45 = 650$ in red.

【柱加工帳の作成】 図面データを使って作成する

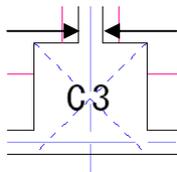
5. 壁の設定

サブメニューの表示が「壁」に変わっています。



壁が無い場合は、サブメニューの「戻る」をクリックして次の面を作成します。

作成する面に壁がある場合は壁の線分2本を指示します。



壁の線2本を指示し終わると下記の画面を表示します。

壁厚が図面の寸法どおりであることを確認します。



「確定」をクリックすると柱面設定ダイアログに戻ります。

ただし、最初に柱名を入力していないと入力のダイアログが出てきますので入力してください。

これは後に加工帳を呼び出して編集、印刷する場合識別する為です。



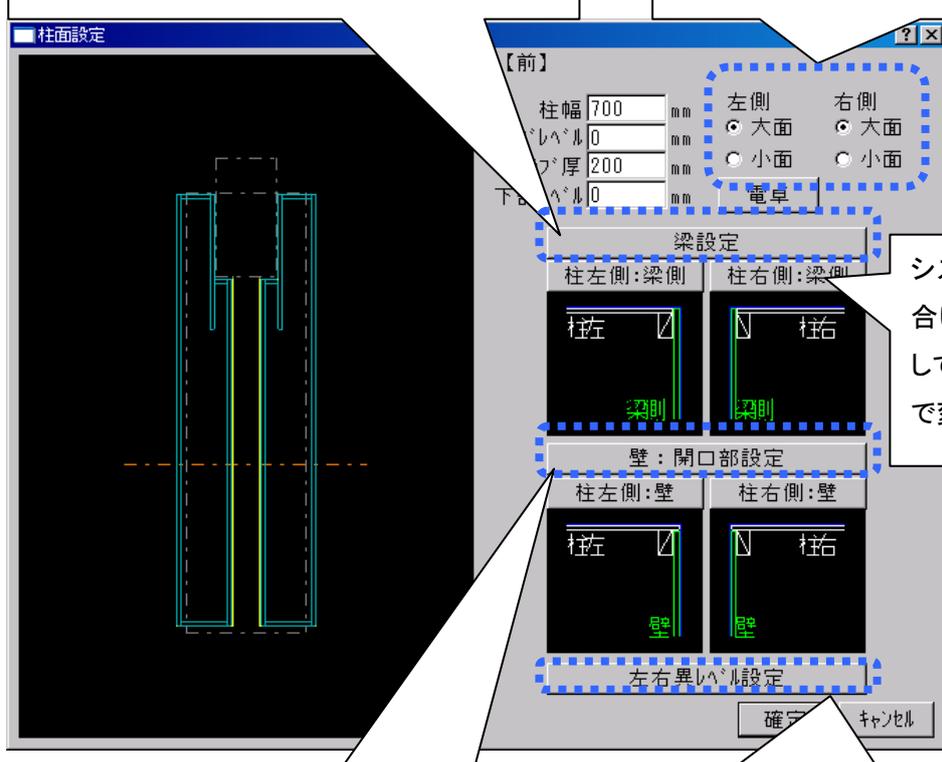
【柱加工帳の作成】 図面データを使って作成する

6. 柱設定ダイアログ表示

次に柱面設定ダイアログが表示され、指示した内容により作成された面を表示します。

梁設定は画面から読み取る以外の情報は
ありません。

大面・小面の切替えが出来ます。取り合う面も変更
して下さい。自動では変更されません。



システム設定で決めた各取り
合い部分の棧木納まりを表示
しています。必要があればここ
で変更できます。

腰壁・下がり壁・端部開口付の場合などは
クリックして設定します。

上、下それぞれに対して左右のレベル違い、傾斜対応が
この中で可能です。

追加・変更箇所がなければ右下の**確定**をクリックします。

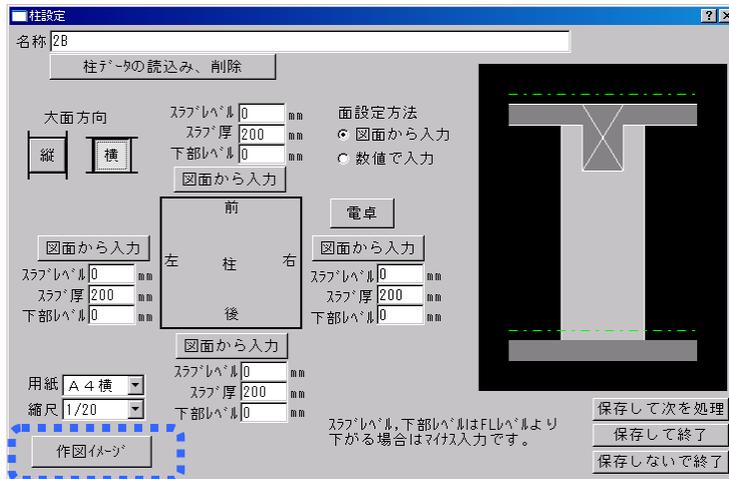
最初の画面に戻ります。他の面も作成する場合は、残りの**図面から入力**をクリックして繰り返します。

作業している柱で作成するすべての面を入れ終わったら下にあるボタンを押して次の処理に進みます。

【柱加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

柱加工帳の作図イメージ確認

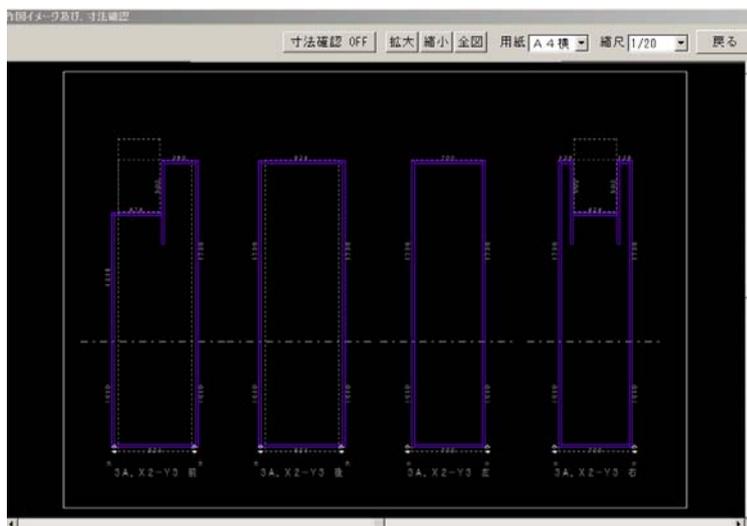
データ入力後に柱加工帳の作図イメージ確認、用紙縮尺変更ができます。



作図イメージ

寸法・文字が表示され作図状態を確認出来ます。用紙・縮尺を変更しながら完成イメージを見ることが出来ます。

作図イメージ、をクリックすると、下記の画面が表示されます。用紙や縮尺を変更したり、拡大縮小等ボタンをクリックして確認することができます。



【柱加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

柱加工帳のデータ保存

データ入力後は、データを保存します。



保存して次を処理

作成した柱加工帳を保存します。画面はそのまま次の柱を作成できます。

保存して終了

作成した柱加工帳を保存してこのメニューを終了します。

保存しないで終了

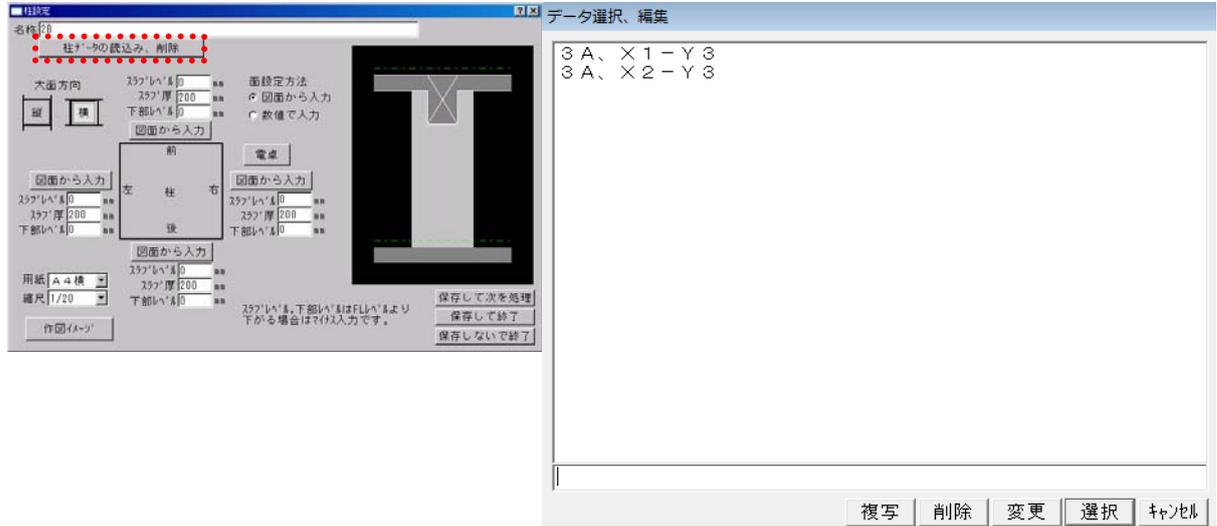
現在作業中の柱加工帳を保存しないで終了します。

【柱加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

既存データを編集する（複写、削除、名称変更）

以前に作って保存してある柱加工帳の呼び出し、名前の変更、複写、削除が行えます。

柱データの読み込み、削除をクリックしてリストを表示させます。

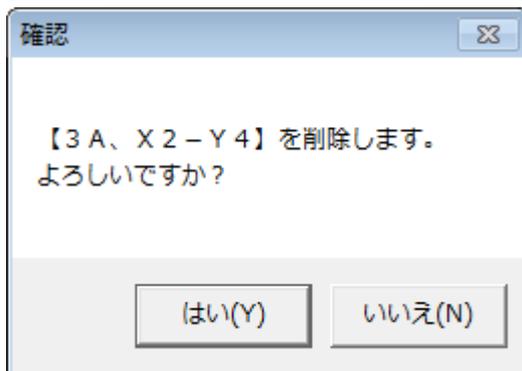


呼び出し 保存してある加工帳リストから選び、**選択**をクリックします。

複写 リストから選び、**複写**をクリックすると複写する柱加工帳の名前を聞いてきますので入力して**決定**をクリックします。その後、**選択**で呼び出して編集した後、保存して下さい。



削除 リストから選び、**削除**をクリックすると確認メッセージが出ます。



はい(Y)をクリックすると選択した壁割付データが削除されます。

名称変更 リストから選び下段に表示されている名前を書き換えてから**変更**をクリックします。

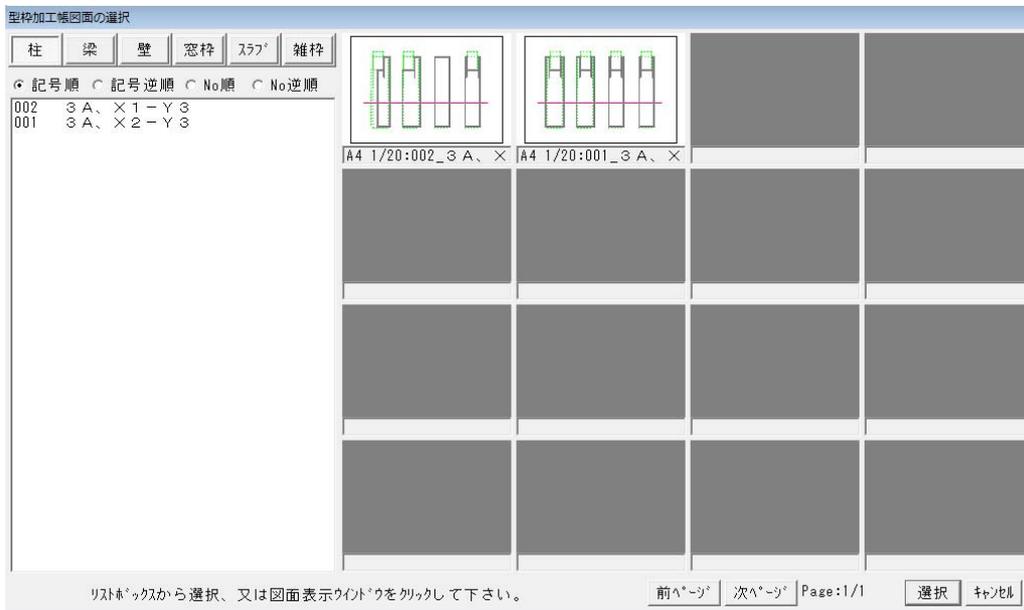
【柱加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

保存した加工帳データを開く方法（編集、印刷）

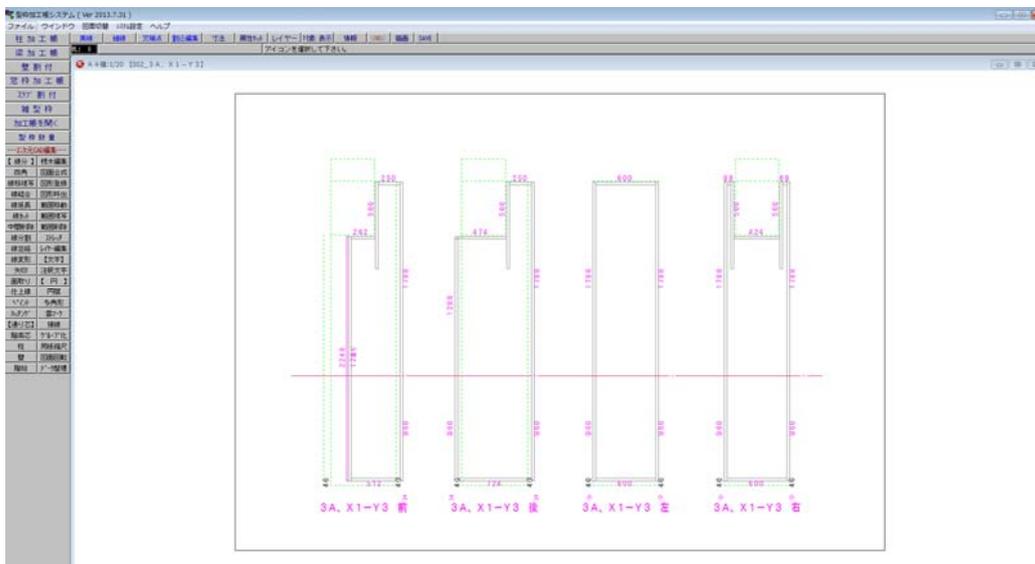
左メニューの加工帳を開く、で保存した加工帳データを開くことができます。

型枠加工帳図面の選択画面が開きます。

柱のボタンをクリックすると、下の枠内に加工帳名称、右に作成した柱加工帳イメージ表示されます。



画面に表示させたい柱加工帳をクリックします。



加工帳が開きます。

開いたデータは二次元データとして、線分や文字を編集したり、印刷することができます。

※加工帳を開いて編集したデータを再度柱加工帳で編集すると、上書きされてしまいます。

ご注意ください。

梁加工帳の作成（数値を入力して作成する）

梁加工帳メニューをクリックして梁設定ダイアログを表示

梁加工帳メニューをクリックして梁設定ダイアログを表示します。

最上部にある**名称**に作成する梁の固有名を入力します。(例:Y1-X2X3、3-BC)

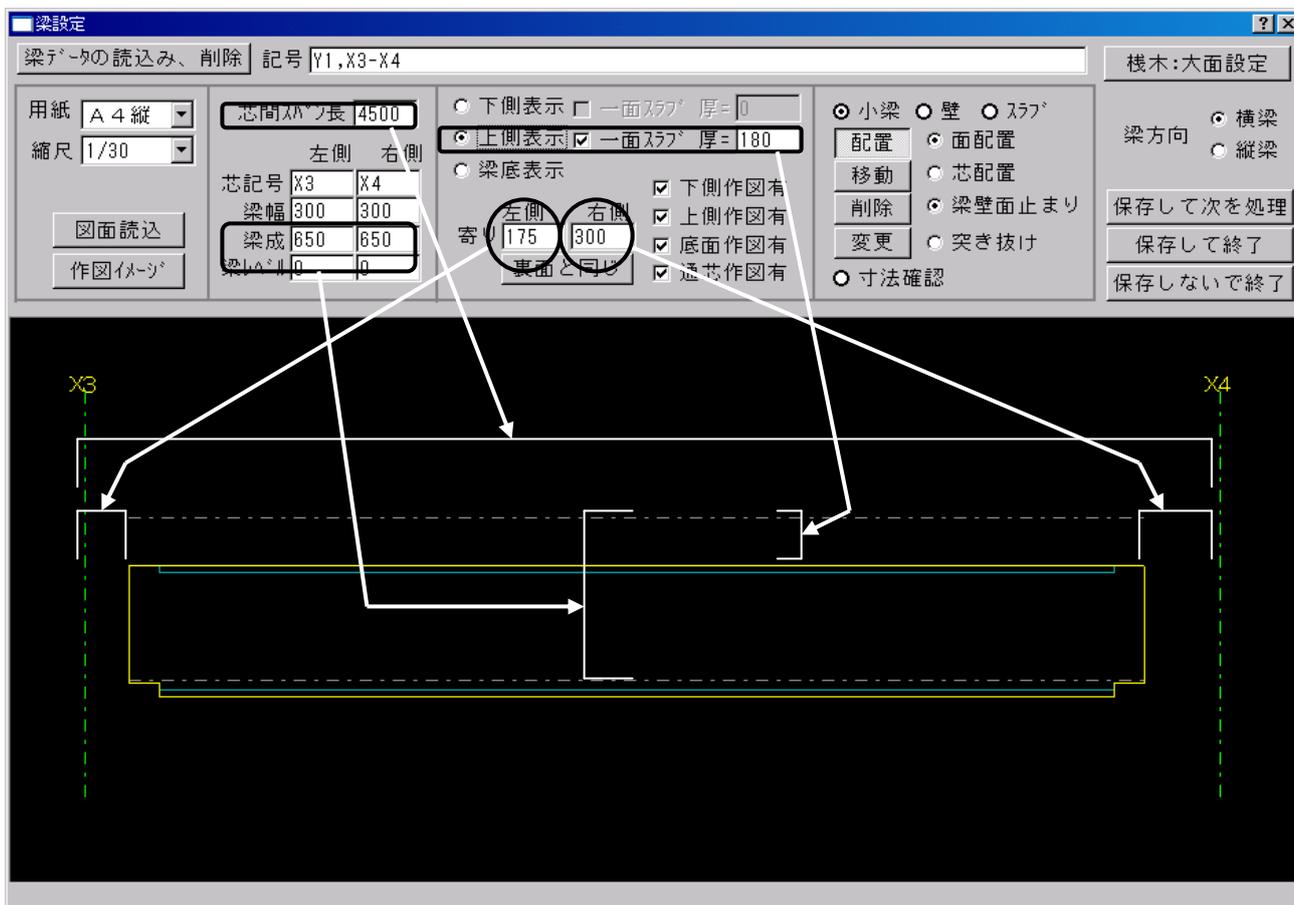
梁加工帳の作成（数値を入力して作成する）

数値を入力して梁加工帳を作成する

1. 基本情報の設定

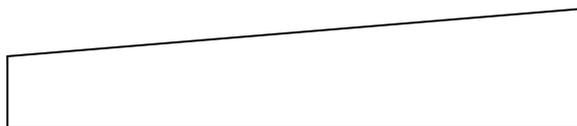
梁設定画面の各項目を入力して記号、基本形状等を設定します。

通り芯に対して斜めでなければ下側表示で設定した寄りを上側表示で裏面と同じをクリックして取り込みます。



梁成とレベルによる傾斜の例

芯間スパン長	5000	
	左側	右側
芯記号	1	2
梁幅	300	300
梁成	500	700
梁レベル	-200	0



芯間スパン長	5000	
	左側	右側
芯記号	1	2
梁幅	300	300
梁成	500	700
梁レベル	0	0



梁加工帳の作成（数値を入力して作成する）

梁加工帳の作成（数値を入力して作成する）

2. 隣接部材の設定

次にこの梁に接する部材を配置します。

① 小梁

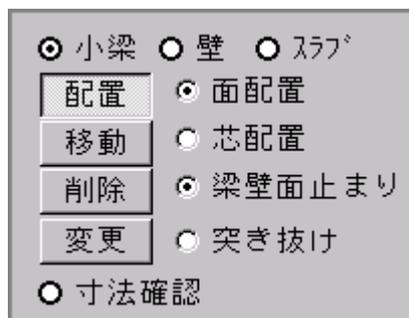
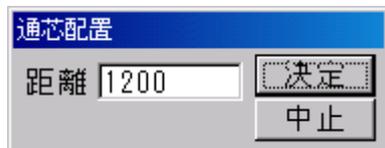
配置

上側表示か下側表示を選択して小梁を配置する面を決定します。次に面配置か芯配置を選択します。

面配置 梁面までの距離入力で小梁を配置します。

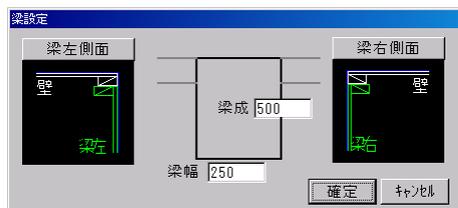
芯配置 梁芯までの距離入力で小梁を配置します。

通り芯または躯体の縦線を配置方向からクリックして、梁面もしくは梁芯までの距離を入力します。

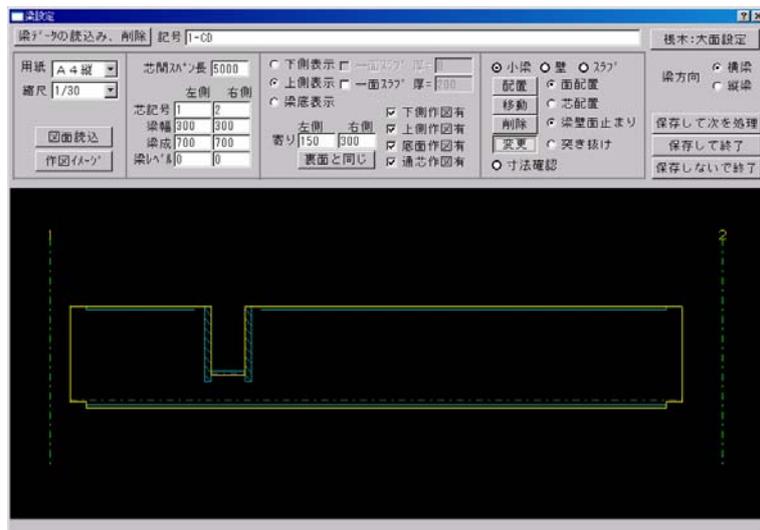


ま

梁成・梁幅を入力します。取り合いの変更があれば行い、**確定**をクリックします。



指示した位置に小梁が配置されます。



移動

配置してある小梁を移動します。

クリックの位置が梁のセンターより右か左かによって移動方向が変わります。

梁加工帳の作成（数値を入力して作成する）

- 削除** 配置してある小梁を削除できます。
- 変更** 配置してある小梁の内容を変更できます。

② 壁

配置

梁とほぼ同様です。上側表示・下側表示・梁底表示何れかを選択して壁を配置する面を決定します。面配置か芯配置を選択します。

面配置 壁面までの距離入力で壁を配置します。

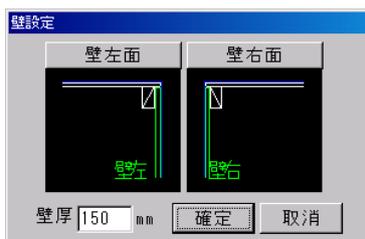
芯配置 壁芯までの距離入力で壁を配置します。

<上側表示・下側表示の場合>

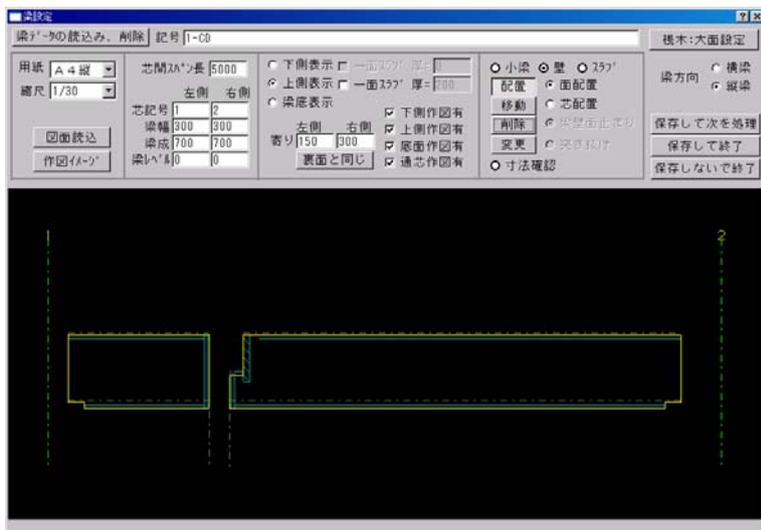
は通り芯または躯体の縦線を配置方向からクリックして距離を入力します。



壁厚を入力します。取り合いの変更があればいい、**確定**をクリックします。

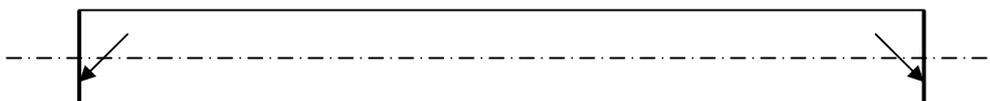


指示した位置に壁が配置されます。



<梁底の場合>

通り芯または画面縦方向の躯体線を認識しますが梁底妻面の2線分を選択して面配置の場合は梁面を、芯配置の場合は梁芯を選択し、壁厚を入力して**決定**します。



梁加工帳の作成（数値を入力して作成する）

移動・**削除**・**変更**は梁を参照してください。

梁加工帳の作成（数値を入力して作成する）

③ スラブ

配置

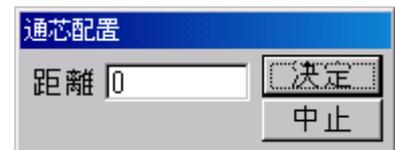
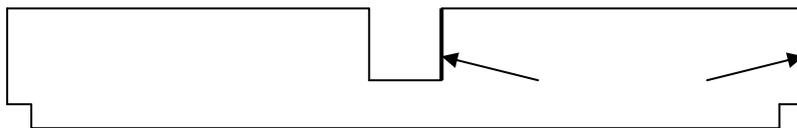
スラブは端から端まで梁と同一傾斜で厚み一定なら一面スラブで入力します。

ここでは段差スラブや梁をまたいで下端レベルの違うスラブなどを配置するのに使います。

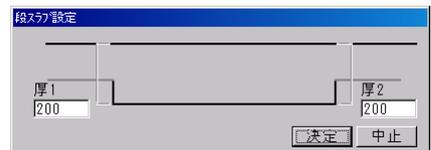
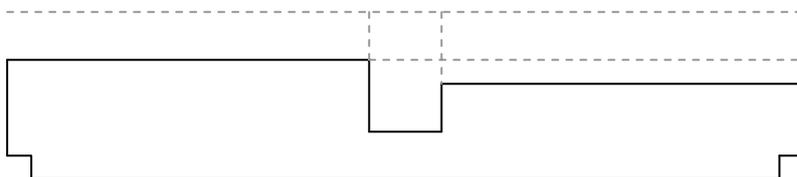
スラブ両端の躯体線を2本選びます。躯体と型枠にずれがある時は距離の入力で調整します。

下の例は厚さ150の一面スラブが配置されており、小梁の右側に厚さ200のスラブを配置しています。

矢印の2本をクリックして左右とも距離0です。

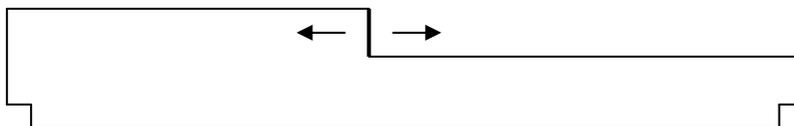


厚みは両端とも200です。



移動

配置してあるスラブの端部を移動します。クリックの位置が移動する端部より右か左かによって移動方向が変わります。



削除

配置してあるスラブを削除できます。一面スラブは削除できませんのでその場合は一面スラブの厚みを0にします。

変更

配置してあるスラブの内容を変更できます。

。

【梁加工帳】 図面データを使って作成する

梁加工帳メニューをクリックして梁設定ダイアログを表示

梁加工帳メニューをクリックして梁設定ダイアログを表示します。

最上部にある**名称**に作成する梁の固有名を入力します。(例:Y1-X2X3、3-BC)

【梁加工帳】 図面データを使って作成する

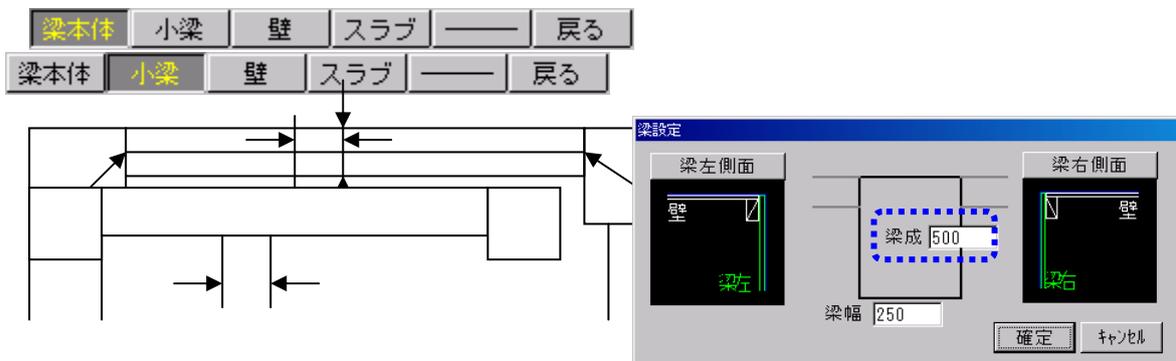
図面から読み込んで梁加工帳を作成する

梁設定ダイアログ内の「図面読込」をクリックします。

- ① サブメニュー左端が「左右芯」になります。加工帳にしたときに左側に来る通り芯、右の通り芯の順に選択してそれぞれの通り芯名を入力します。



- ② サブメニューは「梁本体」に変わります。梁底の形を作る感じで梁の長手方向の線を 2 本、妻面の線を 2 本、計4本を順に指示します。梁天端レベルと梁成を入力して「確定」します。線分が画面上で消えたら「F11」キーで再表示します。



「梁本体」で指示した梁に接する「小梁」がなければ「壁」を、壁もなければ「スラブ」をクリックします。もしもスラブも無ければ「戻る」をクリックします。つまり接する部材をすべて指示し終わったら「戻る」で梁設定画面に戻ります。

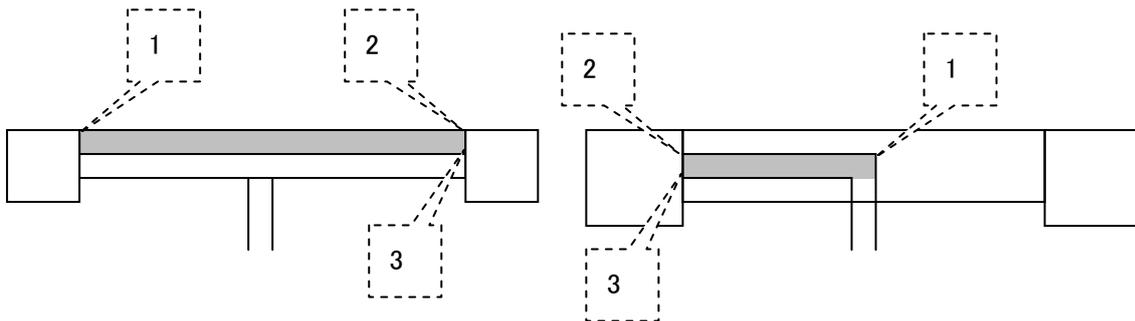
取り合う小梁があれば側の2本の線をクリックして梁設定画面を表示します。左右にある取り合い形状の絵が違えばクリックして変更します。梁幅が表示されていますので梁成を入力して「確定」します。選択した梁の厚みが表示されます。梁幅が違う場合は図面で数字のみ訂正されている可能性がありますので注意して下さい。小梁が複数本ある場合は繰り返します。

【梁加工帳】 図面データを使って作成する

- ③ 梁に接する壁を入力します。サブメニューの「壁」をクリックして切替ます。壁のパターンは「梁底」・「片面」・「突抜」の3種類に分類されています。



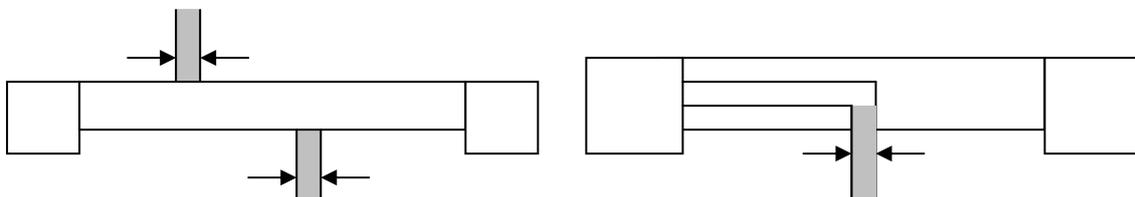
「梁底」壁の長手方向の両端2点と厚さがわかるように反対側の端部1点、計3点で指示します。



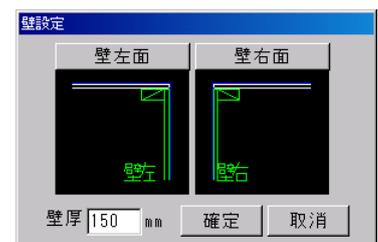
右と同様のダイアログが表示されます。



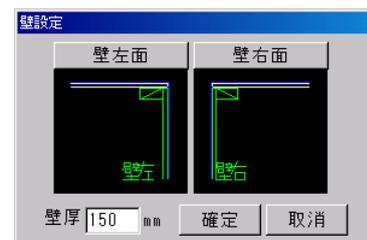
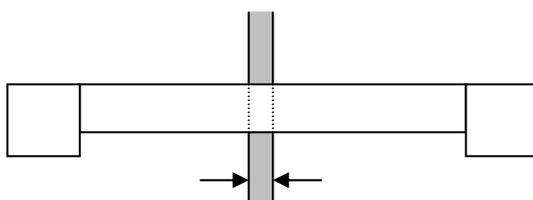
「片面」壁の線を2本で指示します。順番はどちらからでもかまいません。



右と様のダイアログが表示されます。ここで取り合いの変更も出来ます。選択した壁の厚みが表示されます。壁厚が違う場合は図面で数字のみ訂正されている可能性がありますので注意して下さい。



「突抜」指示の仕方等は片面と同様です。梁のどちら側で指示してもかまいません。



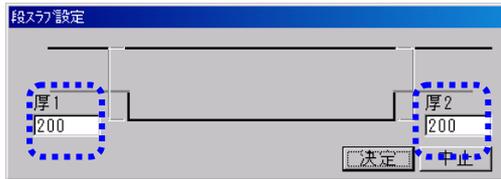
【梁加工帳】 図面データを使って作成する

- ④ スラブの情報を入力するときはサブメニューの「スラブ」をクリックします。

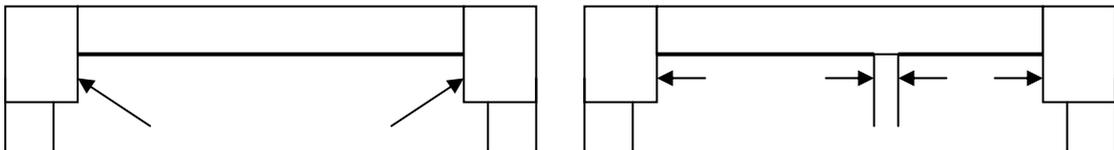


下の図では太く表示されている線が接しているスラブの線ですが、マークスラブの両端の線をクリックして下さい。

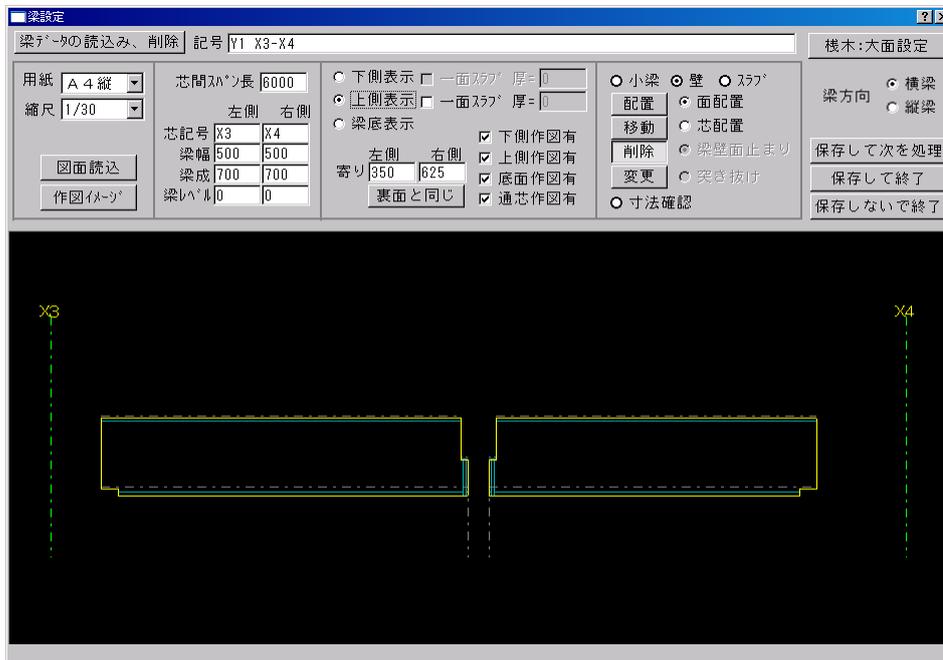
両端の厚みを入力しますが上基準からの距離を入力してください。レベルが-50、スラブ厚が 150 ならば 200になります。



下の右側の例ではスラブ下のレベルが同じであれば左同様1回(2点)の指示だけでOKです。



- ⑤ すべて接する部材の入力が終わったら「戻る」をクリックして梁設定画面へ戻ります。
図面から読み取った情報がセットされています。



【梁加工帳】 図面データを使って作成する

- ⑥ 表示項目を変更するとその部分の型枠表示に切り替わります。
壁面と同一の側等、作成不要な面は**作図有**のチェックを外しておきます。

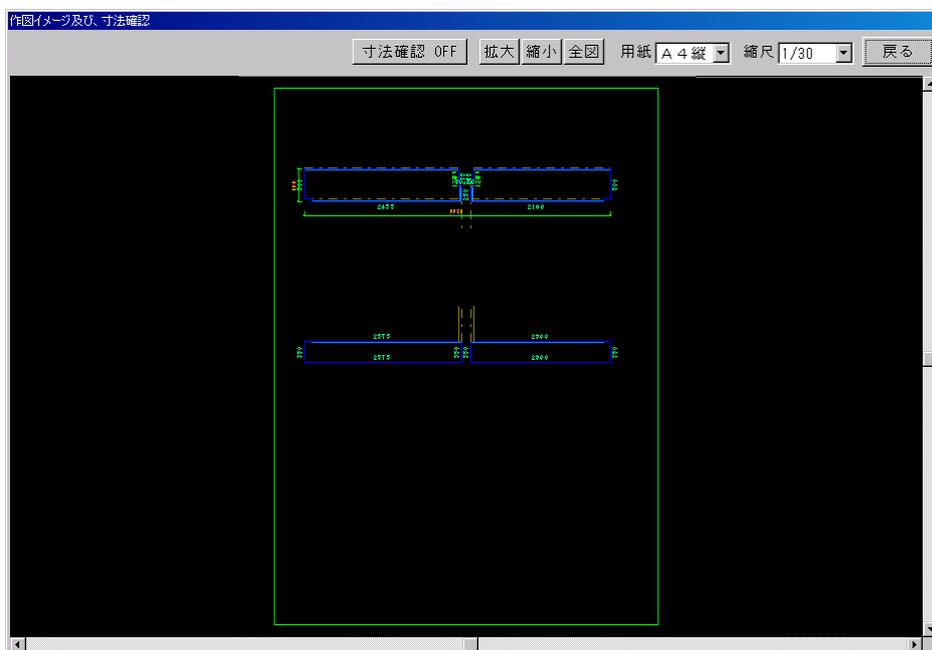
○ 下側表示 一面スラブ 厚= 0
○ 上側表示 一面スラブ 厚= 0
○ 梁底表示

左側 右側
寄り 350 625

裏面と同じ

下側作図有
 上側作図有
 底面作図有
 通芯作図有

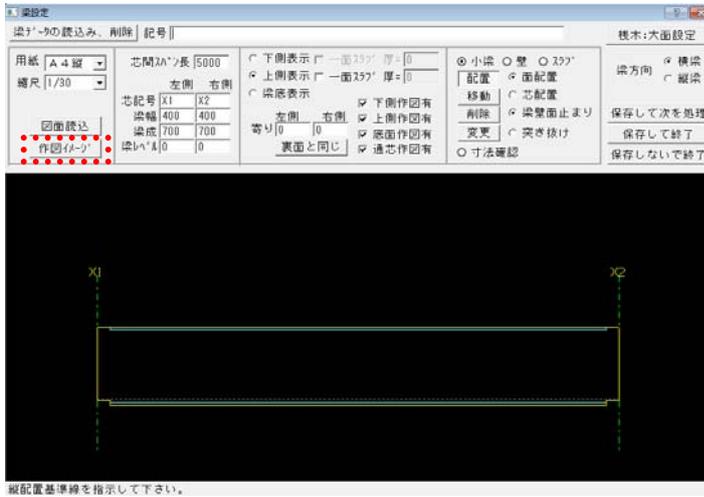
- ⑦ **作図イメージ**をクリックして確認します。



【梁加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

梁加工帳の作図イメージ確認

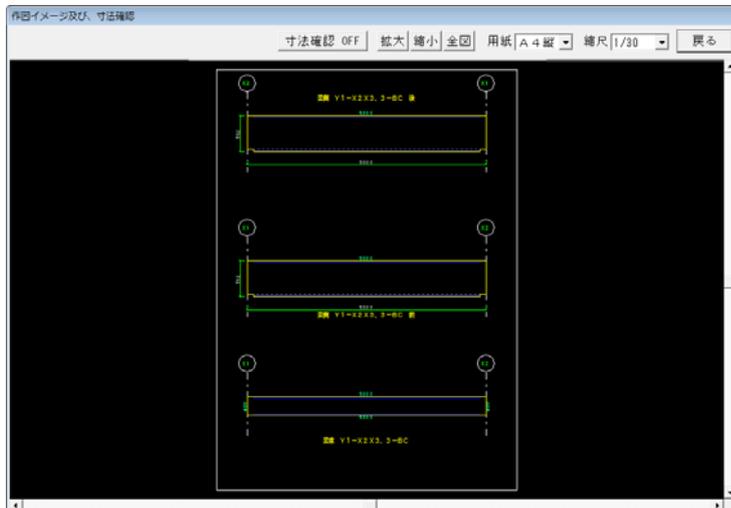
データ入力後に梁加工帳の作図イメージ確認、用紙縮尺変更ができます。



作図イメージ

寸法・文字が表示され作図状態を確認出来ます。用紙・縮尺を変更しながら完成イメージを見ることが出来ます。

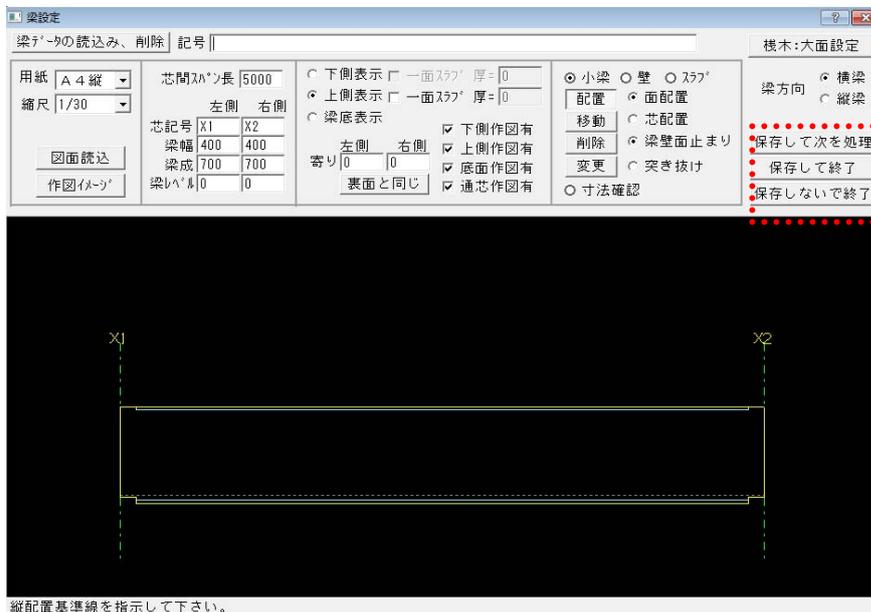
作図イメージ、をクリックすると、下記の画面が表示されます。用紙や縮尺を変更したり、拡大縮小等ボタンをクリックして確認することができます。



【梁加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

梁加工帳のデータ保存

データ入力後は、データを保存します。



保存して次を処理

作成した梁加工帳を保存します。画面はそのまま次の梁を作成できます。

保存して終了

作成した梁加工帳を保存してこのメニューを終了します。

保存しないで終了

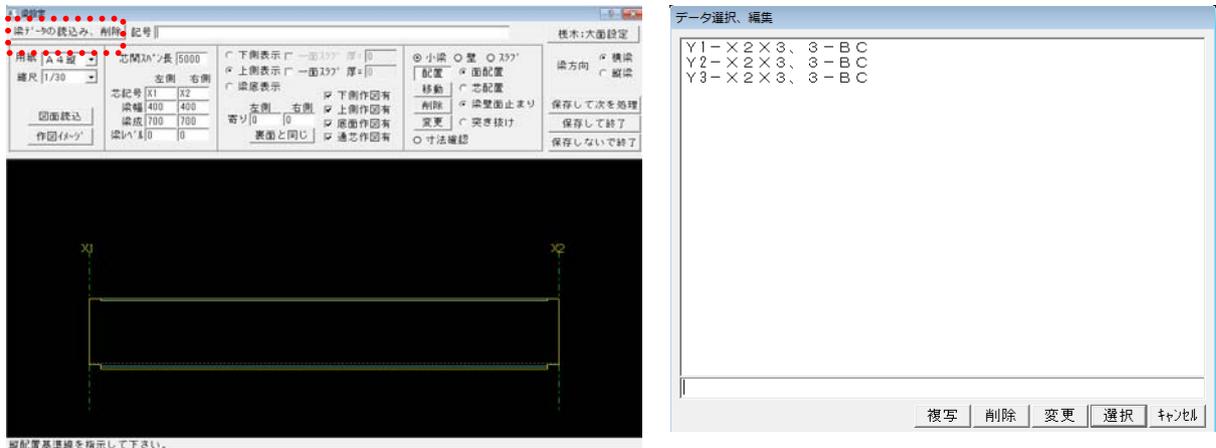
現在作業中の梁加工帳を保存しないで終了します。

【梁加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

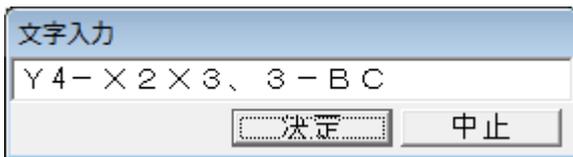
既存データを編集する（複写、削除、名称変更）

梁データの読み込み、削除 をクリックして、作成したデータを開いて、編集(再設定)することができます。

梁データの読み込み、削除 をクリックしてリストを表示させます。

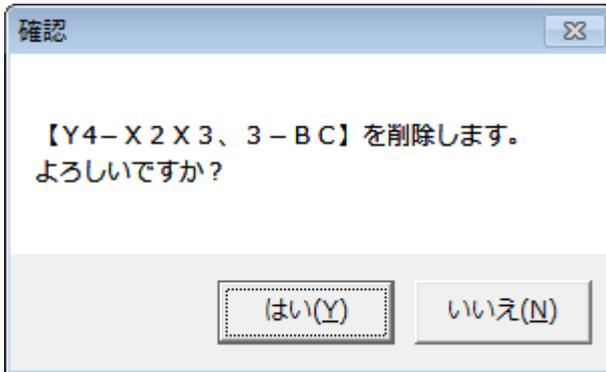


複写 リストから選び、**複製**をクリックすると複写する梁の名前を聞いてきます。



入力して**決定**をクリックします。

削除 リストから選び、**削除**をクリックすると確認メッセージが出ます。



はい(Y)をクリックすると選択した梁データが削除されます。

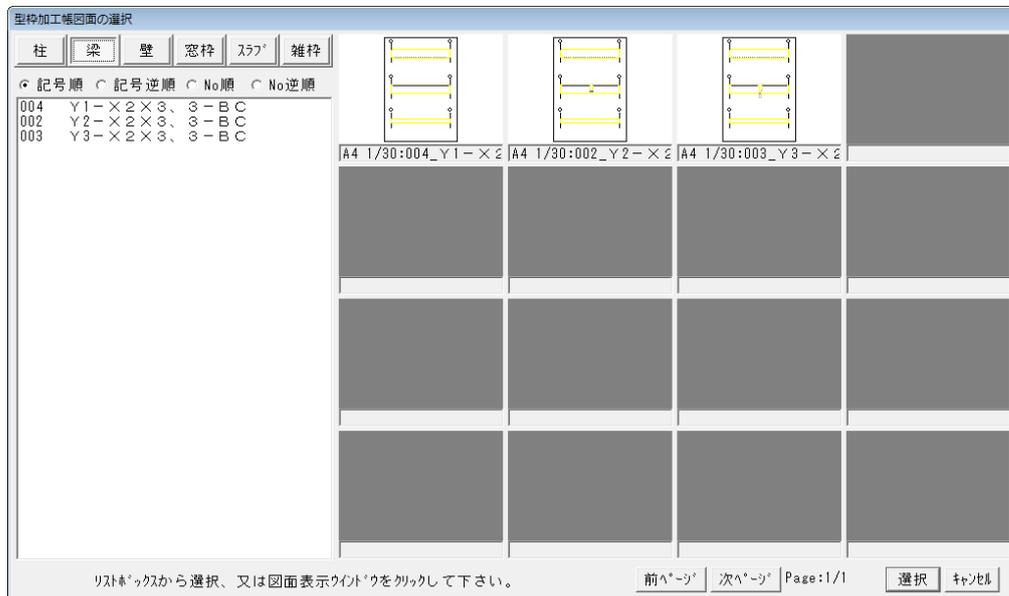
名称変更 リストから選び下段に表示されている名前を書き換えてから**変更**をクリックします。

【梁加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

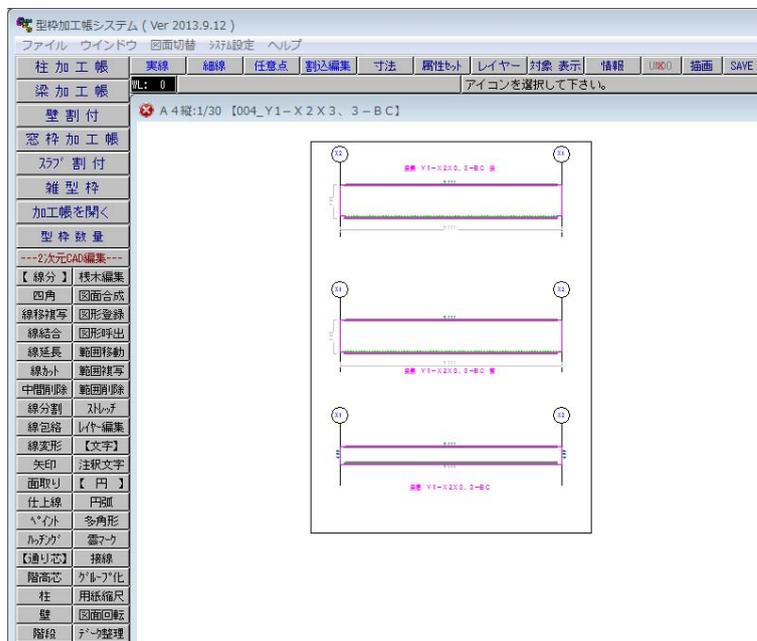
保存した加工帳データを開いて線分や文字等編集、印刷を行う

左メニューの加工帳を開く、で保存した梁加工帳データを開くことができます。

開いたデータは2次元データとして、線分や文字を編集したり、印刷することができます。



上記の加工帳イメージをクリックすると、加工帳が開きます。



加工帳が開きます。

開いたデータは2次元データとして、線分や文字を編集したり、印刷することができます。

※加工帳を開いて編集したデータを再度柱加工帳で編集すると、上書きされてしまいます。

ご注意ください。

【壁割付】 壁面設定

壁面設定

壁割付メニューをクリックして壁面設定ダイアログを表示します。

最初に最上部にある**記号**に作成する壁面の固有名を入力します。(例: Y1 通り外壁)

ひとつの図面に入れるスパン数を入力します。通り芯をまたいで割付の面が分かれていなければ1スパンでよいのですが、柱で区切られた内側はスパンを分割して作業する方法がおすすめです。

これはCAD図面から入力でも数値から入力でもここまでの考え方は同じです。

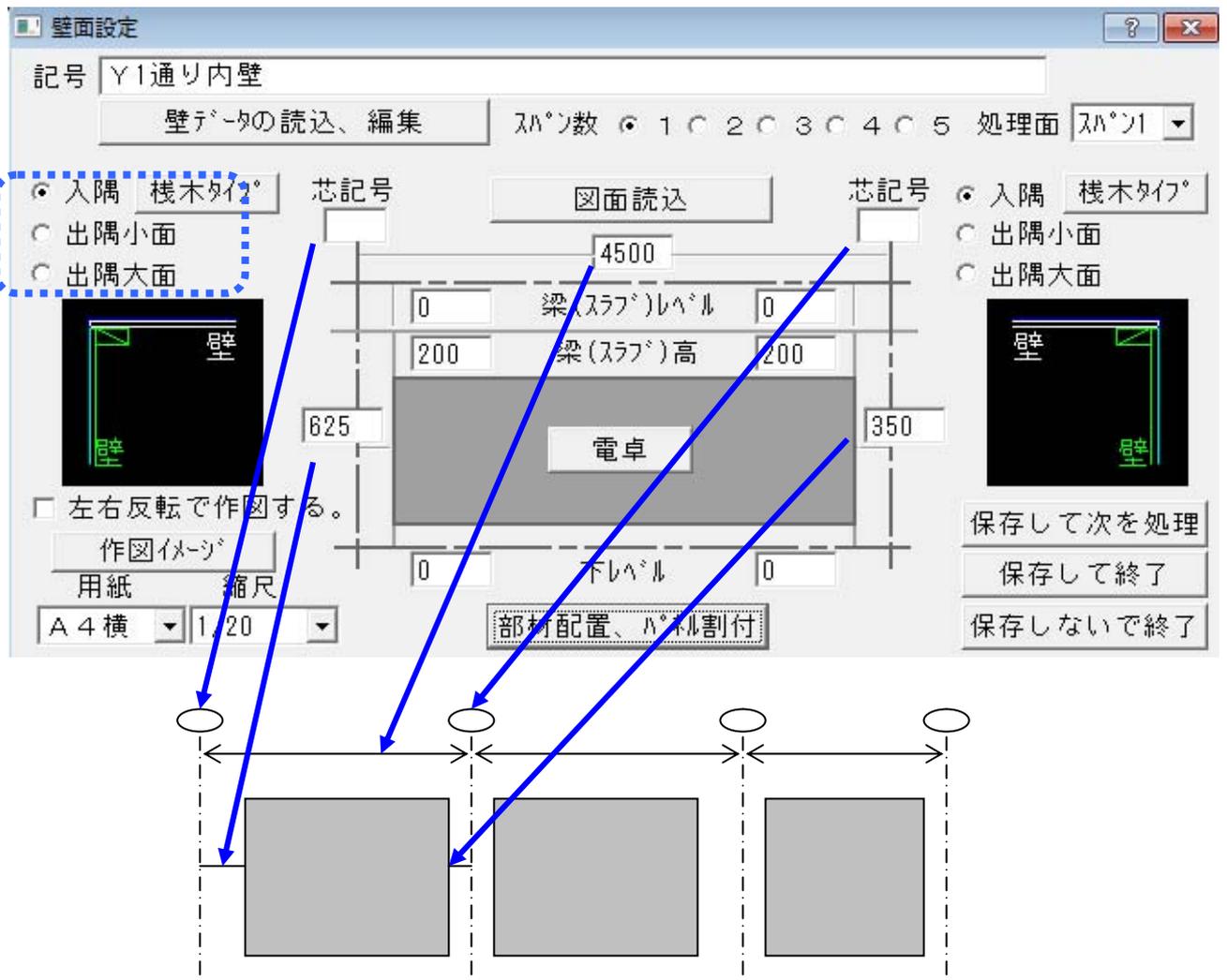


【壁割付】 壁面設定

スパン数について

スパン数を3にした例

スパン数で3を選択した場合は処理面のプルダウンメニューにスパン1～スパン3までを選択できるようになり、各スパンをプルダウンで切替えて入力します。下はスパン1の入力をしている画面です。この面が終わったら処理面をスパン2に切替えて入力し、同様にスパン3も入力します。



また、点線で囲った各面の両端の取り合いも各スパンごとに選択して下さい。

すべてのスパンの基本データ入力が終わったら「部材配置、パネル割付」をクリックします。

壁面設定に代わって壁割付設定画面が表示されます。

躯体図CADデータから作成するか、図面を見ながら数字を打ち込むかは状況により選択できます。

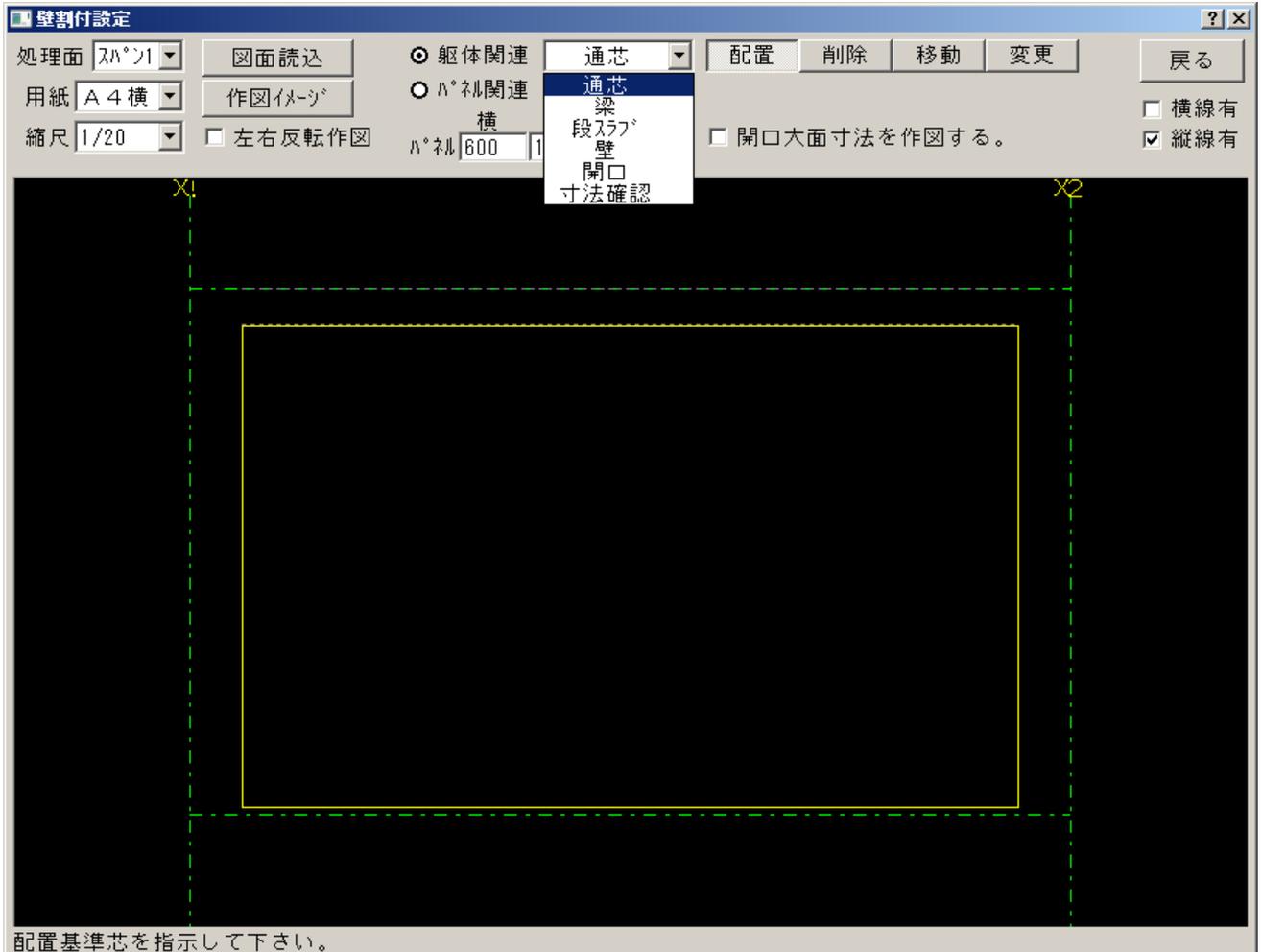
また、二つを併用して作成することも可能ですので自分に合った方法で作成して下さい。

【壁割付】 躯体部材を数値で入力する

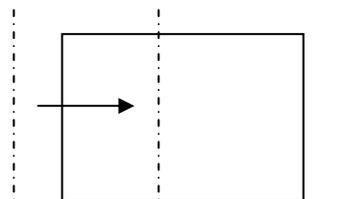
1. 躯体関連部材配置

通り芯を配置する場合

躯体関連をクリックして、下記のように**通芯**、**配置**を選択します。



左右にある通り芯を内側でクリックしてそこからの距離と通り芯記号を入力します。補助芯の場合は記号は入力せずに決定します。



通芯の追加設定が不要な場合は、次へ進みます。

【壁割付】 躯体部材を数値で入力する

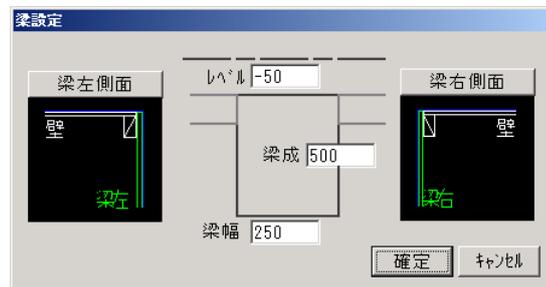
梁を配置する

梁と配置を選択します。

梁の配置基準を芯配置と面配置から選びます。

通り芯、または躯体の点線をクリックしてから距離を入力します。

梁の情報を入力して**確定**します。

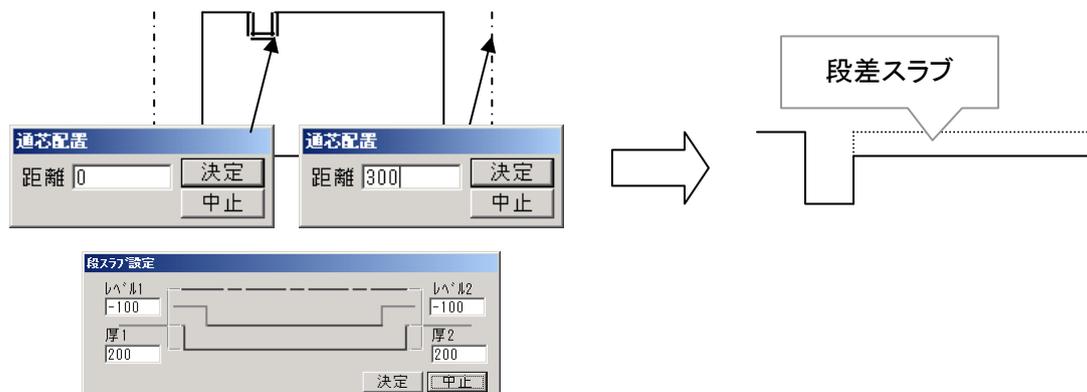


段スラブを配置する

段スラブと配置を選択します。

上スラブか下スラブかを選びます。

通り芯からの距離入力か梁等の躯体線を2点指示して配置します。



【壁割付】 躯体部材を数値で入力する

壁を配置する

壁と配置を選択します。



壁の配置基準を芯配置と面配置から選びます。

通り芯、または躯体の点線をクリックしてから距離を入力します。

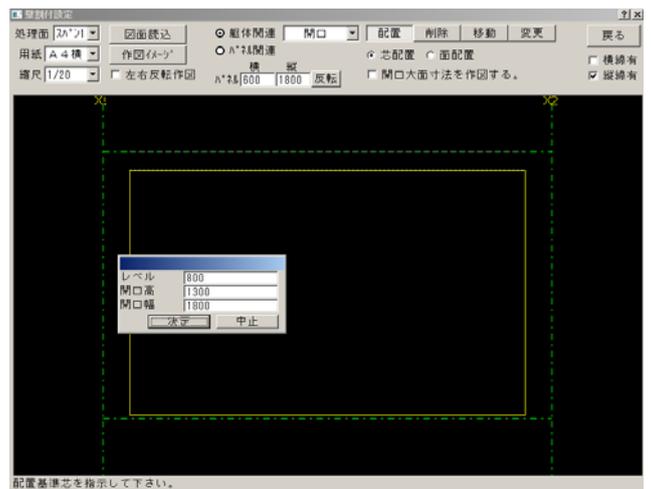
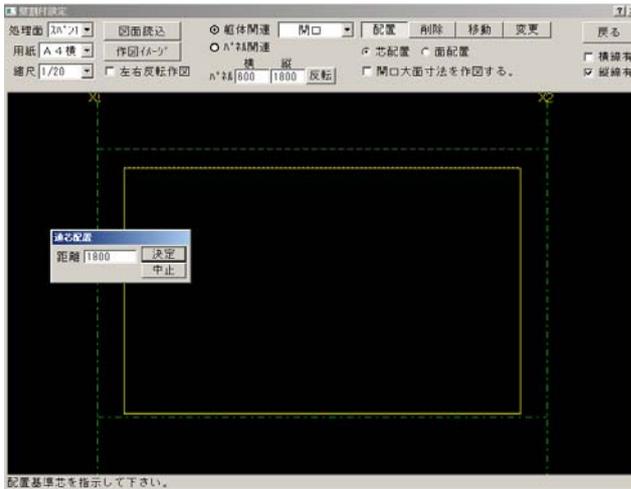
壁の情報を入力して**確定**します。



【壁割付】 躯体部材を数値で入力する

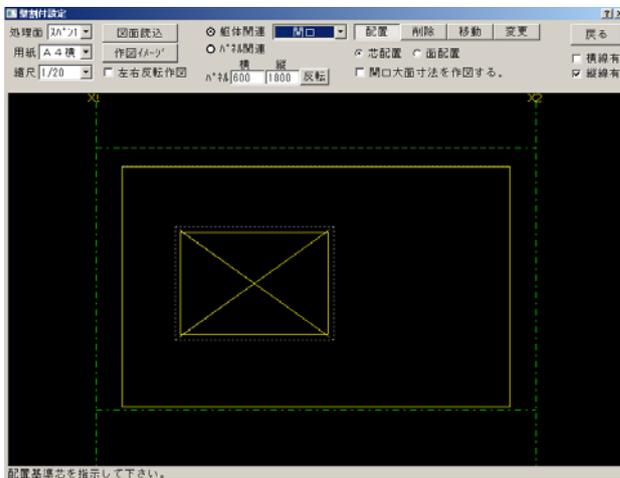
開口を配置する

開口と配置を選択します。



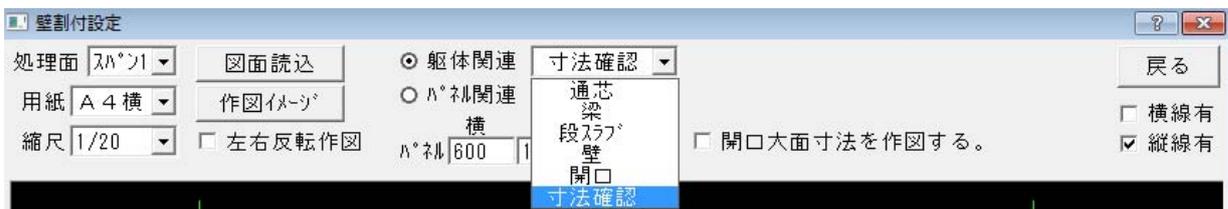
通り芯、または配置済みの開口躯体の点線をクリックしてから距離を入力します。

開口のレベル・高さ・幅を入力して**決定**すると開口が配置されます。



部材配置した寸法を確認する

寸法確認を選択します。画面上の平行な線分間の寸法をクリックすると、確認できます。

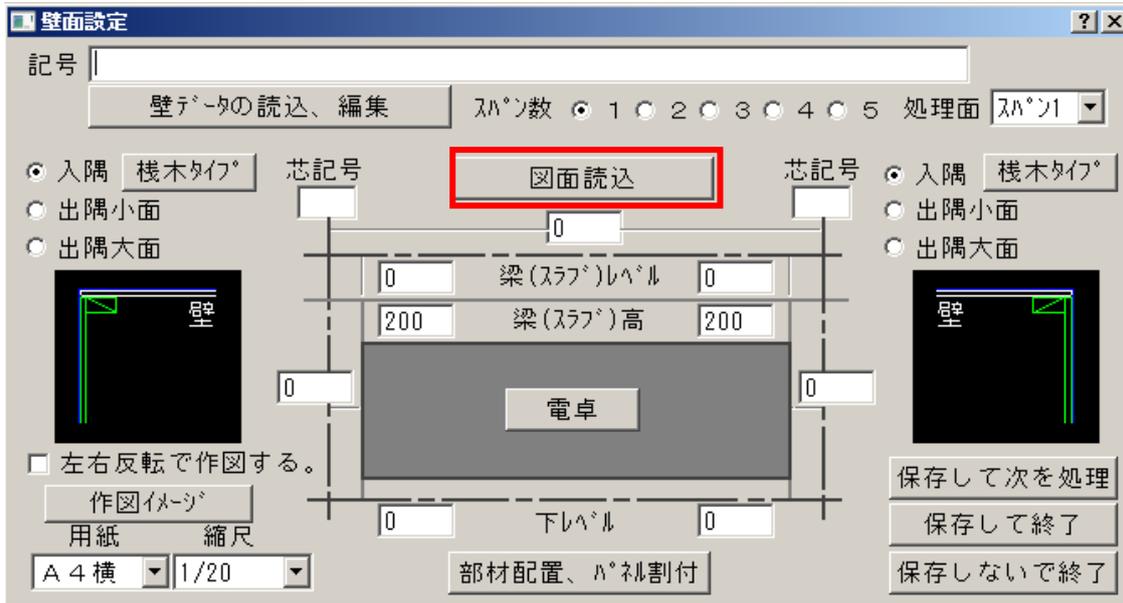


【壁割付】 図面データから躯体データを入力して作成する

通り芯スパン、壁面の設定を行う

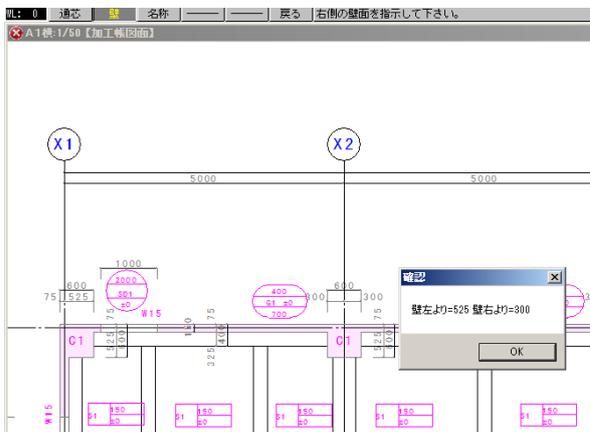
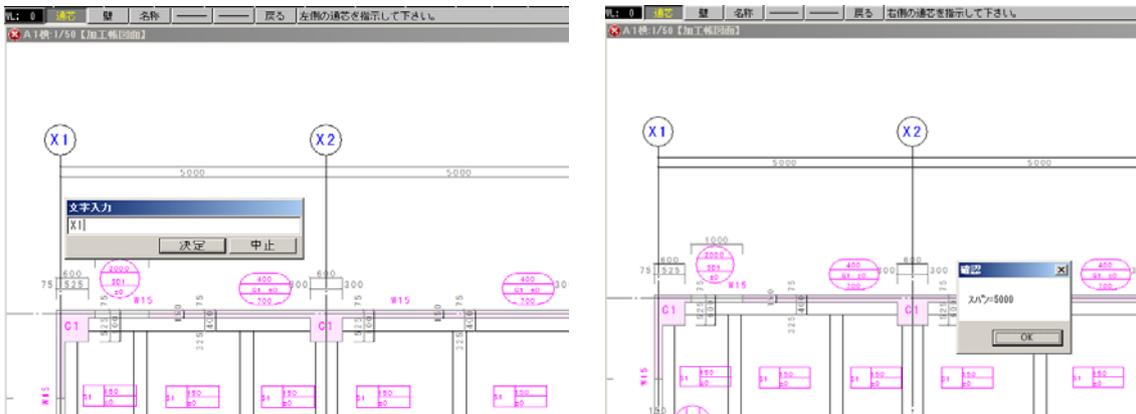
通り芯スパンや壁の長さ(範囲)を図面から指示します。

壁面設定ダイアログのスパン数設定後、**図面読込**をクリックします。



画面が切り替わり、サブメニュー表示が下記のように、通芯、壁、名称 となります。

画面上の左側の通芯(例 X1)をクリックし、X1 と入力し決定します。次に右側の通芯(例 X2)をクリックし X2 と入力し決定します。スパンが表示されます。



【壁割付】 図面データから躯体データを入力して作成する

下記の点線の赤枠部分に数値が自動で入ります。数値で入力された場合は、図面読込をクリックする必要はありません。

壁面設定

記号 Y1通り外壁

壁データの読込、編集

梁°数 1 2 3 4 5 処理面 梁°1

入隅 棧木タイプ° 出隅小面 出隅大面

芯記号

図面読込

芯記号

0

0

200

200

0

0

電卓

下レベル

0

0

部材配置、ハ°礼割付

左右反転で作図する。

作図イメージ

用紙 縮尺

A 4 横 1/20

保存して次を処理

保存して終了

保存しないで終了

壁面設定

記号

壁データの読込、編集

梁°数 1 2 3 4 5 処理面 梁°1

入隅 棧木タイプ° 出隅小面 出隅大面

芯記号

図面読込

芯記号

X1

X2

5000

0

200

200

0

0

電卓

下レベル

0

0

部材配置、ハ°礼割付

左右反転で作図する。

作図イメージ

用紙 縮尺

A 4 横 1/20

保存して次を処理

保存して終了

保存しないで終了

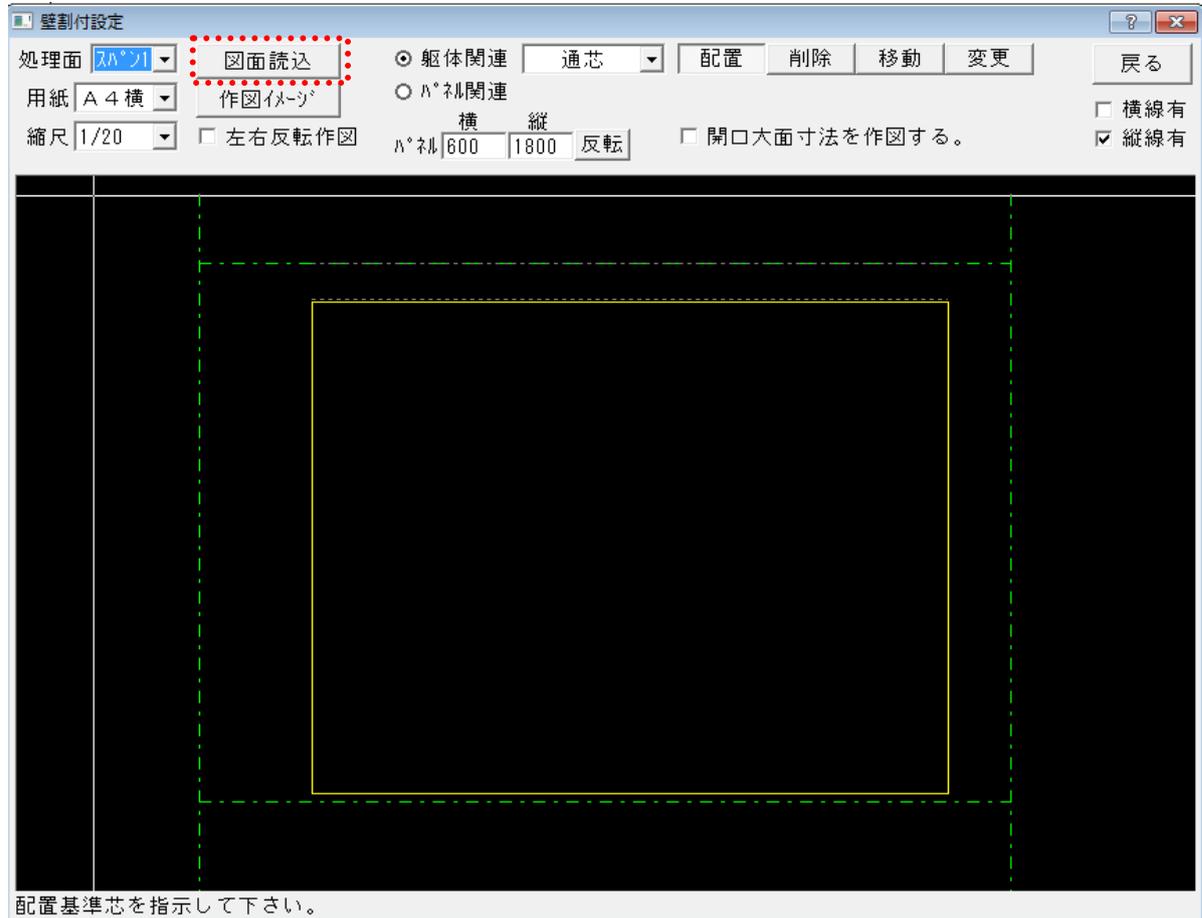
【壁割付】 図面データから躯体データを入力して作成する

部材配置（梁・壁・スラブの配置）

壁面設定の部材配置、パネル割付をクリックします。

壁割付設定画面が表示されます。

図面読込をクリックします。



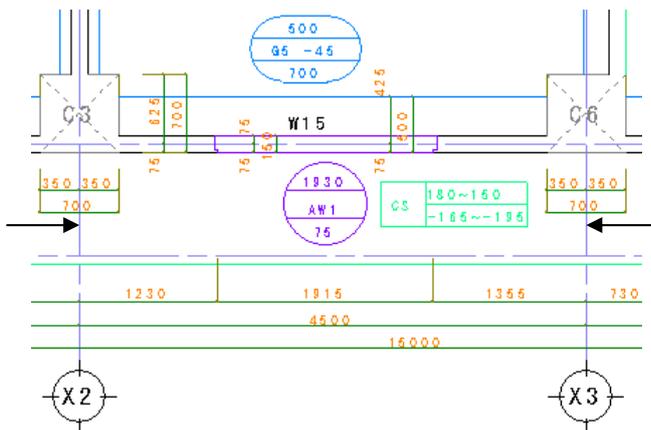
配置基準芯を指示して下さい。

下記のサブメニューが表示されます。



躯体図面から現在作業している両端の通り芯2本を左、右の順でクリックします。下記の図面の場合、X2通りとX3通りをクリックします。この作業で位置を再度認識させます。

確認メッセージが出ますので「はい」をクリックします。



【壁割付】 図面データから躯体データを入力して作成する

最初はサブメニューが通り芯になっていますが壁の割付に関連する部材のみを登録しますので関連しない部材は飛ばして次々と進んでください。選択する部材が無くなったら「戻る」をクリックします。

通り芯



両端の通り芯の間にある通り芯または補助芯を拾いたい場合はその芯をクリックします。文字入力ダイアログが出てきます。通り芯の場合はその名前を入力します。補助芯の場合はそのまま決定します。



梁



梁を入力するときはサブメニューの「梁」をクリックします。

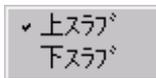
梁側の線分2本をクリックします。レベルと梁成をセットします。

他に梁があれば繰り返して入力します。

無ければ次に進みます。



スラブ

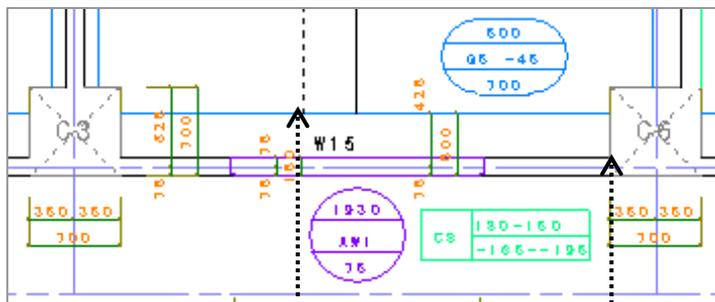


段差スラブの入力がある時は3番目のメニューから「上スラブ」の段差か「下スラブ」の段差かを選択します。

上スラブの例で説明しますが下スラブも考え方は同じです。

段差の範囲を2本の線で指示します。1本目を選んでスラブレベルとスラブ厚を入力します。

もうひとつの端も同様に入力しますが1本目と数値を変えると傾斜付になります。



【壁割付】 図面データから躯体データを入力して作成する

壁



サブメニューの「壁」をクリックします。

壁の2本の線分をクリックすると壁設定の画面が出てきます。

壁厚が正しいかを確認します。図面と違う場合は数字のみを修正している可能性がありますので確認してください。

4パターンを設定を書いていますので参照してください。



開口



サブメニューの「開口」をクリックします。

開口のW方向、内々の線分2本をクリックします。

幅は線分間でわかりますがレベルと開口高さは入力します。



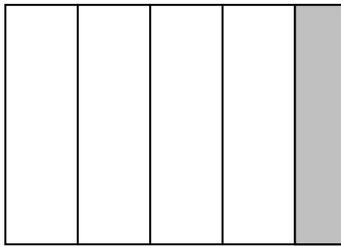
【壁割付】 パネル割付方法

2. パネル割付方法例

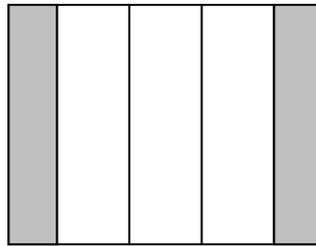
下記は、全て横線無し状態で配置したものです。



割付方向



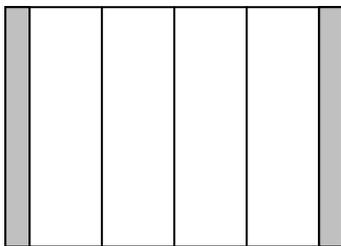
片追



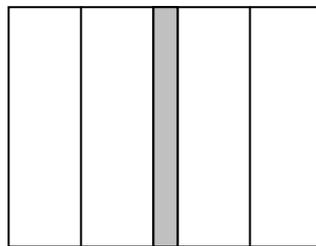
中心板



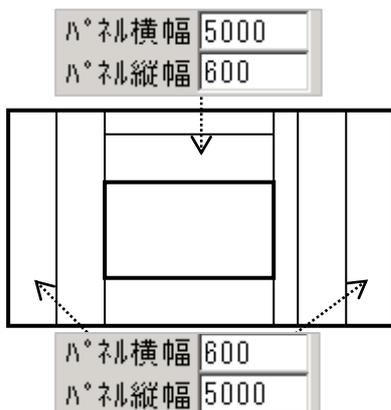
片追+補助を1枚内へ



中心目地



中心補助



左図のように、横張りと縦張りが両方ある場合は、縦線・横線ともに有でパネル割付を行い、目地を入れたくない方のサイズが割付長以上になる数値を入れてください。例えば横 5000 縦 6000 とその反転サイズという感じです。

【壁割付】 パネル割付方法

3. パネル編集



割付処理後のパネルの変更をする機能です。

割付削除

割付を行ったパネルの削除ができます。

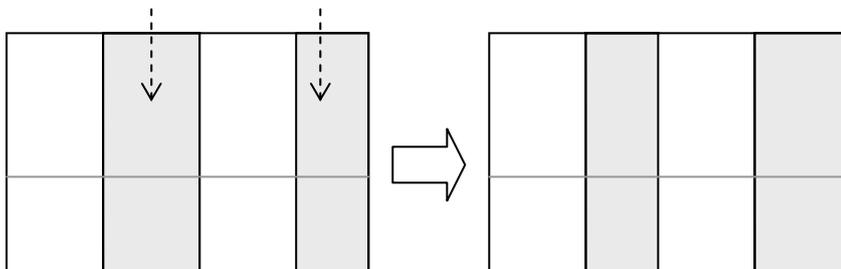
パネル入替



① **縦目地編集**か**横目地編集**かを選択します。編集可能な方向の線がピンク、不可の方向は青線で表示になります。

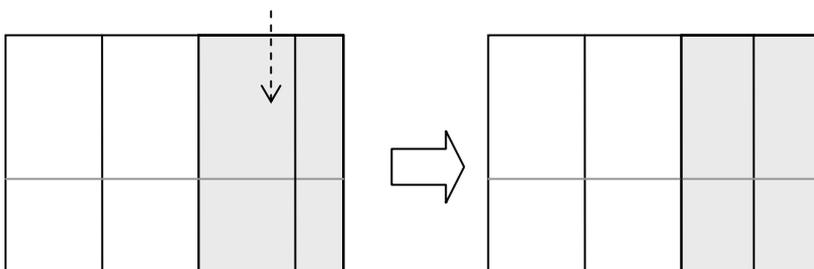
② 変更の種類を選択します。

パネル入替 割付の中からパネル2箇所を選択して入れ替えます。



パネル均等

パネル均等 隣り合う2枚を1クリックで選択して均等に割り直します。

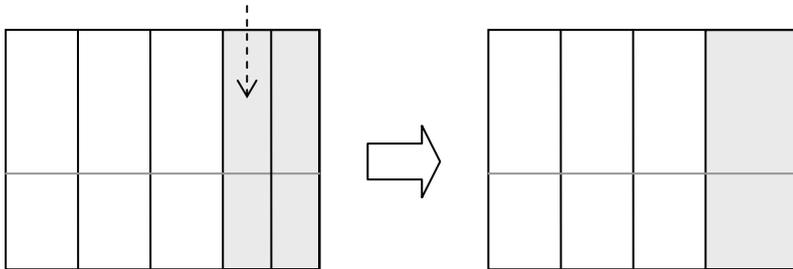


【壁割付】 パネル割付方法

パネル合成

パネル合成

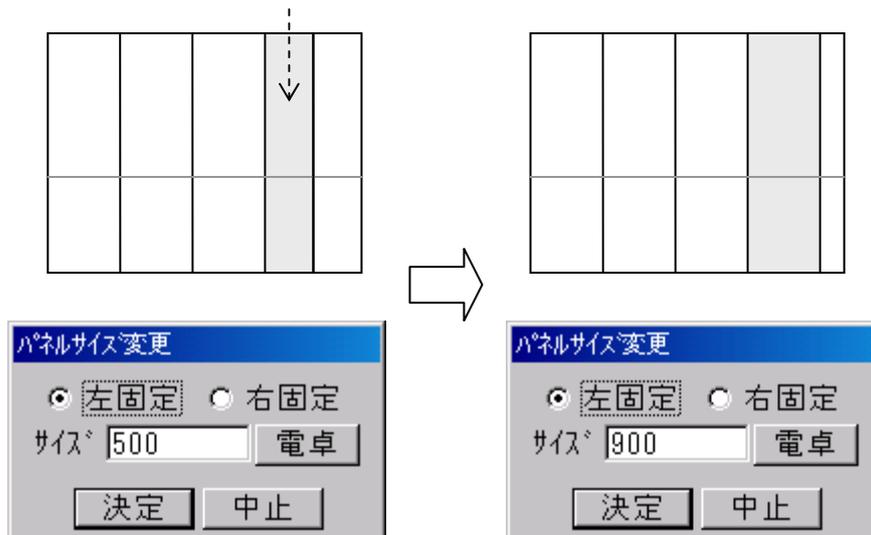
隣り合う2枚を1クリックで選択して合成します。合成後のサイズに注意する必要があります。



サイズ変更

サイズ変更

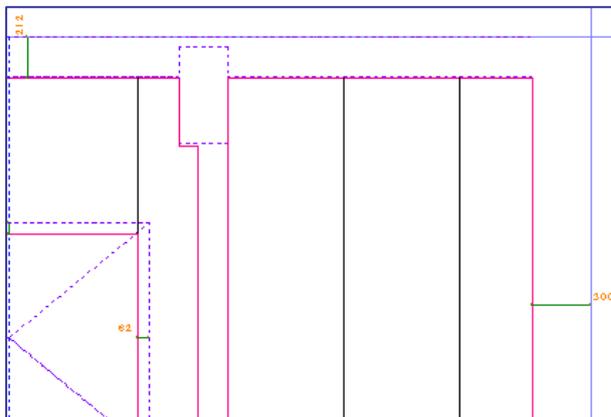
サイズを変更したいパネルをクリックします。変更時の基準が右か左かを選択して変更後のサイズを入力します。



【壁割付】 パネル割付方法 棧木表示

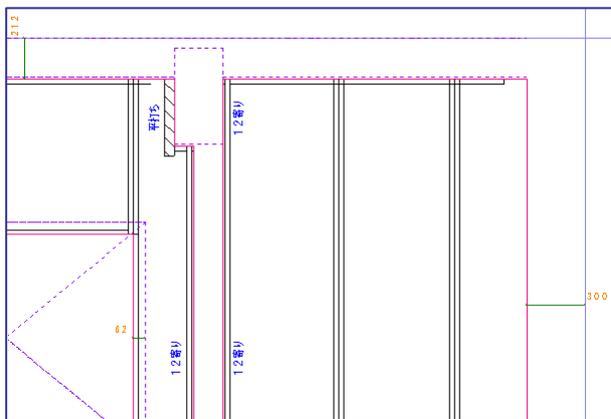
壁の棧木表示

棧木表示パターンはシステム設定で選択します。



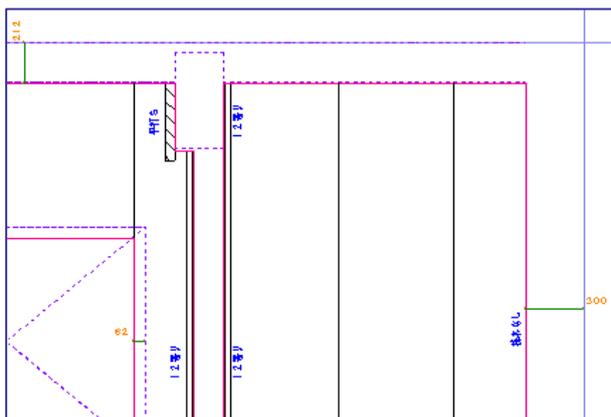
無

すべての棧木表記なし



有

すべての棧木を表記



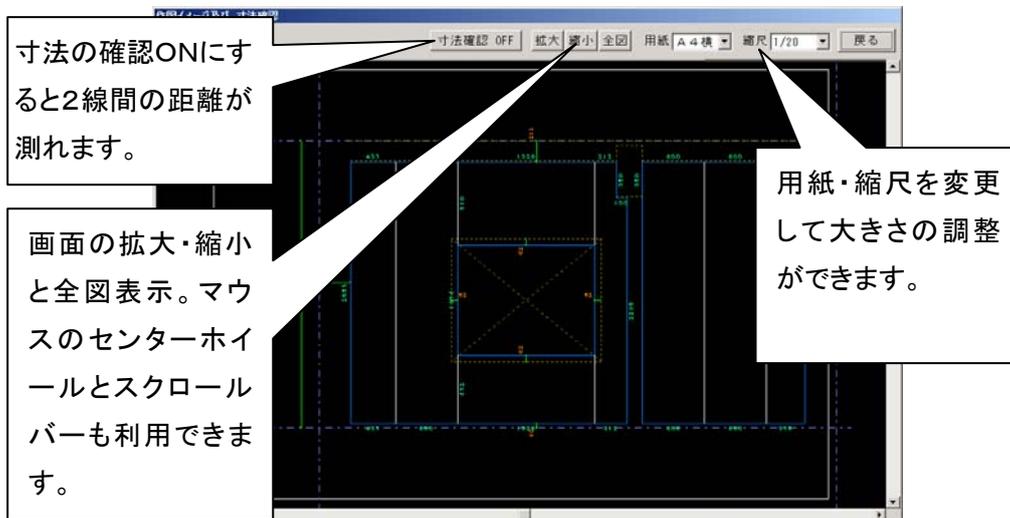
特殊

通常のコバ打ち以外を表記
棧木の無いところには棧木なし
を表記

【壁割付】パネル割付方法 棧木表示

作図イメージの確認

作図イメージをクリックすると下の画面を表示します。



保存と終了

保存と終了には次の3種類があります。

保存して次を処理

現在画面に出ている壁割付を保存し画面をクリアにして次の壁割付を処理できるようにします。

保存して終了

現在画面に出ている割付を保存して壁割付機能を終了します。

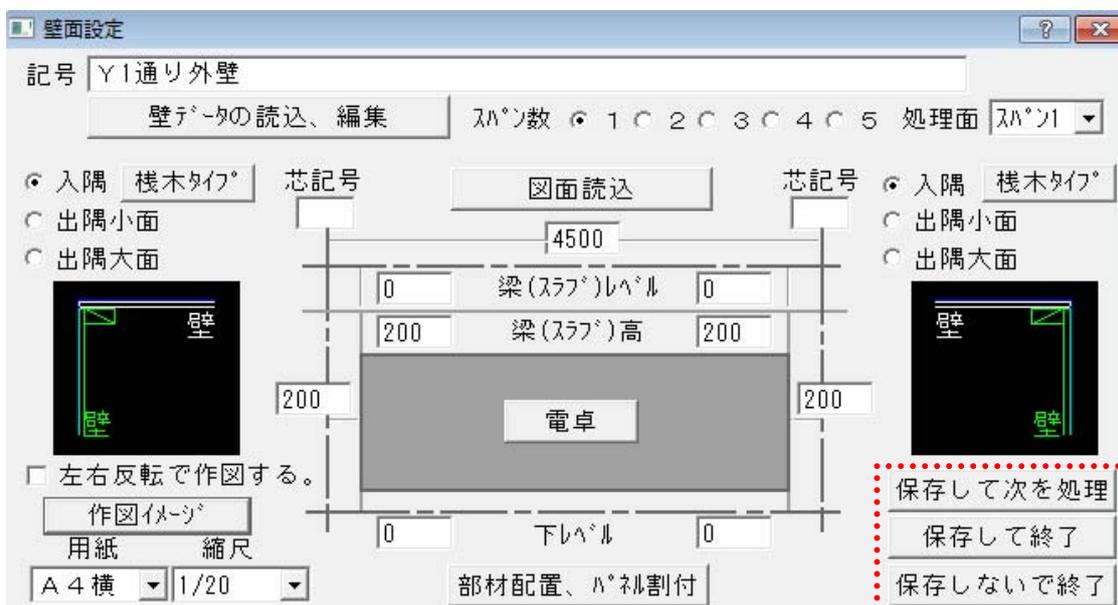
保存しないで終了

現在画面に出ている壁割付を保存しないで終了します。

【壁割付】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

壁割付のデータ保存

データ入力後は、データを保存します。



保存して次を処理

作成した壁割付データを保存します。画面はそのまま次で柱を作成できます。

保存して終了

作成した壁割付データを保存してこのメニューを終了します。

保存しないで終了

現在作業中の壁割付データを保存しないで終了します。

【壁割付】 イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

既存データを編集する（複写、削除、名称変更）

以前に作って保存してある壁割付の呼び出し、名前の変更、複写、削除が行えます。

壁データの読み込み、削除をクリックしてリストを表示させます。

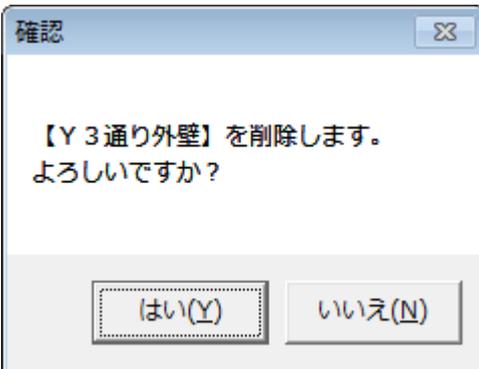


複写 リストから選び、**複写**をクリックすると複写する壁割付の名前を聞いてきます。



入力して**決定**をクリックします。その後、**選択**で呼び出して編集した後、保存して下さい。

削除 リストから選び、**削除**をクリックすると確認メッセージが出ます。



はい(Y)をクリックすると選択した壁割付データが削除されます。

名称変更 リストから選び下段に表示されている名前を書き換えてから**変更**をクリックします。

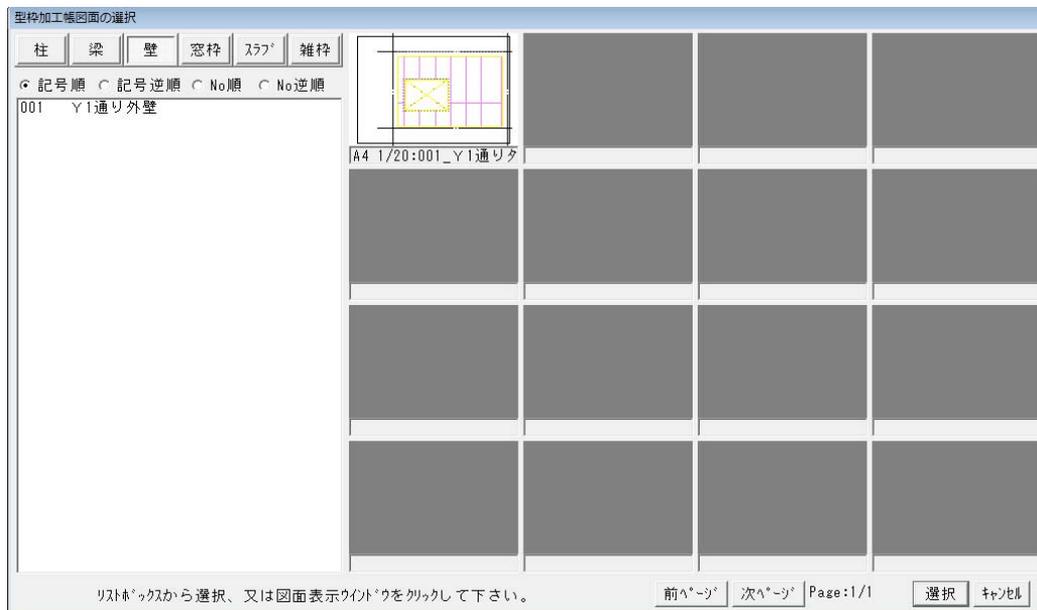
【壁割付】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

保存した壁割付データを開く方法（編集、印刷）

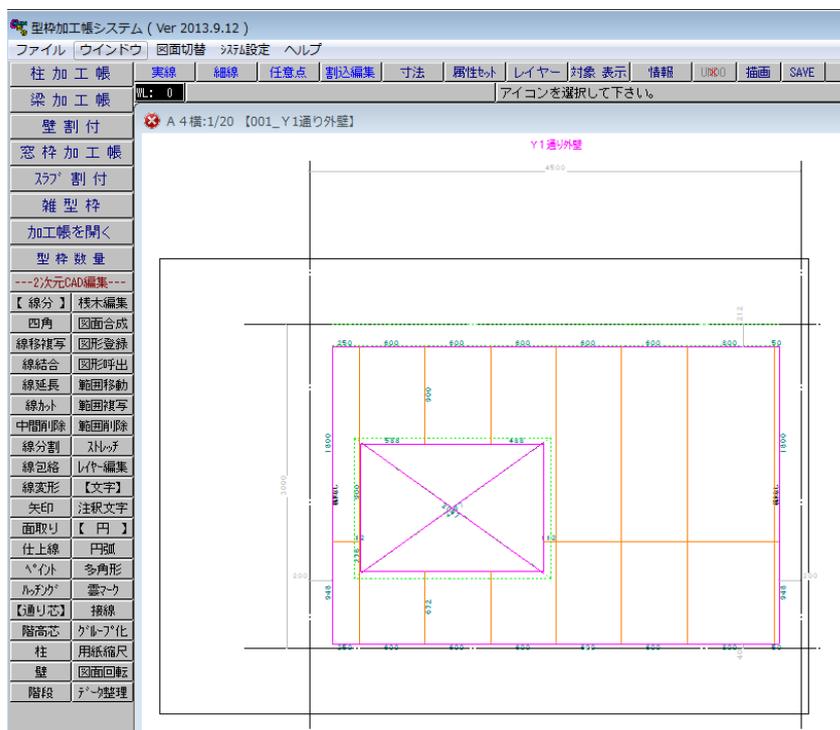
左メニューの加工帳を開く、で保存した壁割付データを開くことができます。

型枠加工帳図面の選択画面が開きます。

壁のボタンをクリックすると、下の枠内に加工帳名称、右に作成した壁割付イメージが表示されます。



画面に表示させたい壁割付データをクリックします。



加工帳が開きます。

開いたデータは2次元データとして、線分や文字を編集したり、印刷することができます。

※加工帳を開いて編集したデータを再度壁割付で編集すると、上書きされてしまいます。

ご注意ください。

【窓枠加工帳】 窓枠加工帳の作成

窓枠加工帳メニュー面の作成

窓・ドアなどの開口部の枠を作成します。

躯体図のCADデータから作成する方法と紙の図面を見ながら数値を入力して作成する2通りがありますが、数値を入力して作成する方法を説明します。

1. 窓枠加工帳メニューの起動

窓枠加工帳メニューをクリックして窓枠設定ダイアログを表示します。

窓枠設定画面が表示されます。

2. 名前の作成

記号に作成する窓枠の固有名を入力します。(例:AW-1)

3. タイプの選択

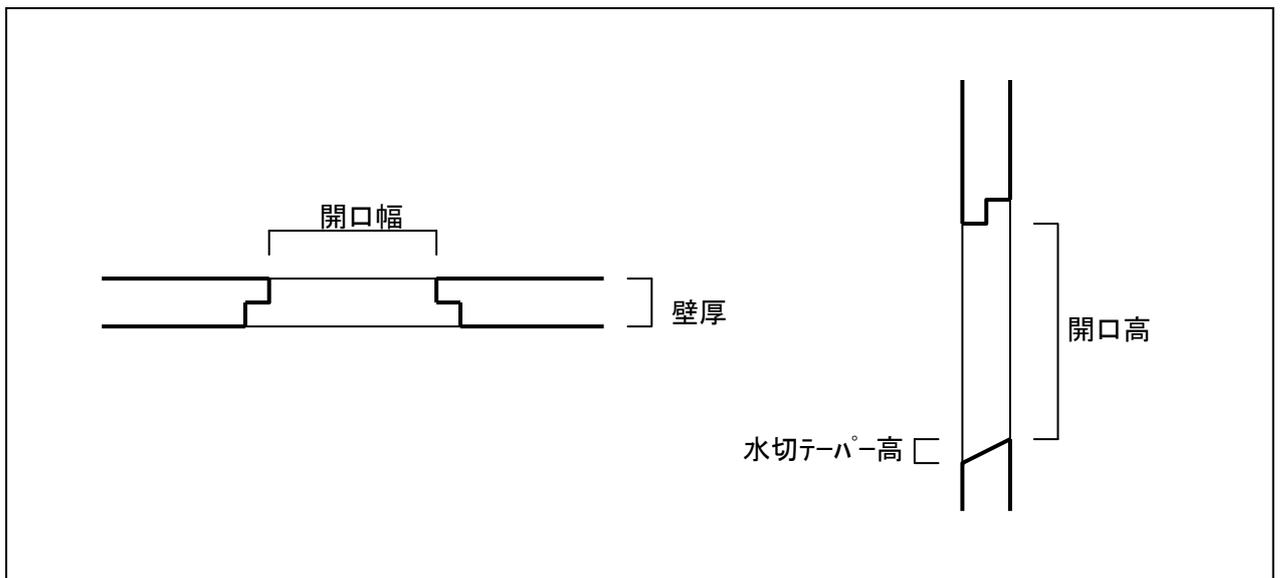
作成するタイプ1～6の中から選択します。

【窓枠加工帳】 窓枠加工帳の作成

4. サイズの入力

作成する窓枠の開口幅・開口高・壁厚・水切テーパー高、ダキ幅を入力します。

記号	X1 Y1 AW1				
窓枠データの読み込み、削除		開口幅	1800	mm	作図イメージ
図面から指示		開口高	1800	mm	
用紙	縮尺	壁厚	150	mm	
A 4 縦	1/20	水切テーパー高	20	mm	
		ダキ幅	50	mm	
保存して次を処理					
保存して終了					
保存しないで終了					



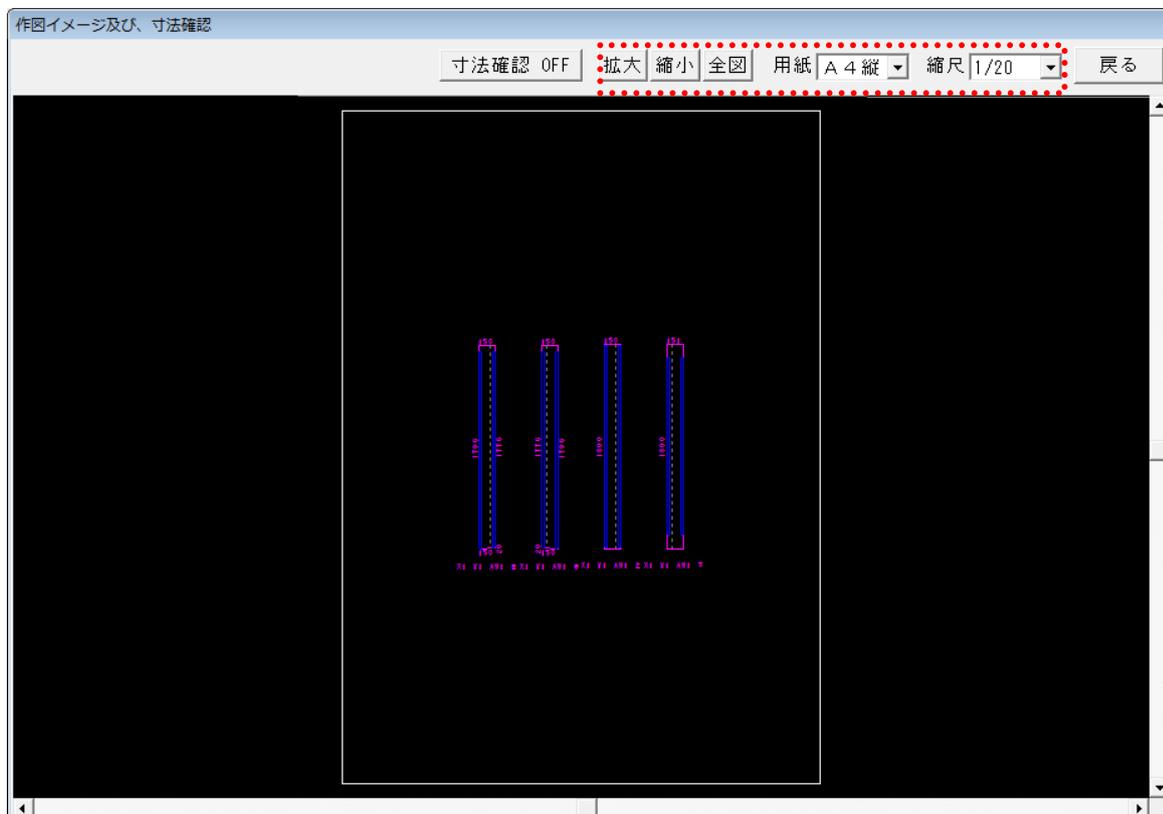
【窓枠加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

窓枠加工帳の作図イメージ確認

データ入力後に窓枠設定の作図イメージ確認、用紙縮尺変更ができます。



作図イメージ、をクリックすると、下記の画面が表示されます。用紙や縮尺を変更したり、拡大縮小等ボタンをクリックして確認することができます。



【窓枠加工帳】 イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

窓枠加工帳のデータ保存

データ入力後は、データを保存します。



保存して次を処理

作成したデータを保存します。画面はそのまま次でデータを作成できます。

保存して終了

作成したデータを保存してこのメニューを終了します。

保存しないで終了

現在作業中のデータを保存しないで終了します。

【窓枠加工帳】 イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

既存データを編集する（複写、削除、名称変更）

以前に作って保存してある窓枠設定の呼び出し、名前の変更、複写、削除が行えます。

窓枠データの読み込み、削除をクリックしてリストを表示させます。

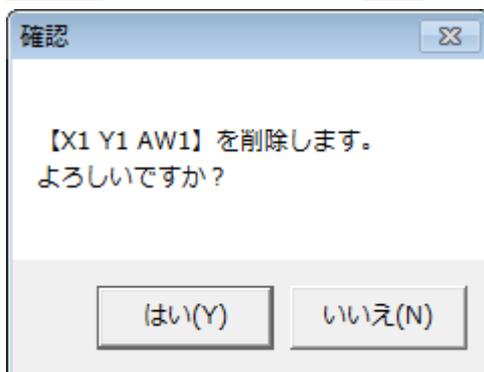


複写 リストから選び、**複写**をクリックすると複写する窓枠設定の名前を聞いてきます。



入力して**決定**をクリックします。その後、**選択**で呼び出して編集した後、保存して下さい。

削除 リストから選び、**削除**をクリックすると確認メッセージが出ます。



はい(Y)をクリックすると選択した窓枠設定データが削除されます。

名称変更 リストから選び下段に表示されている名前を書き換えてから**変更**をクリックします。

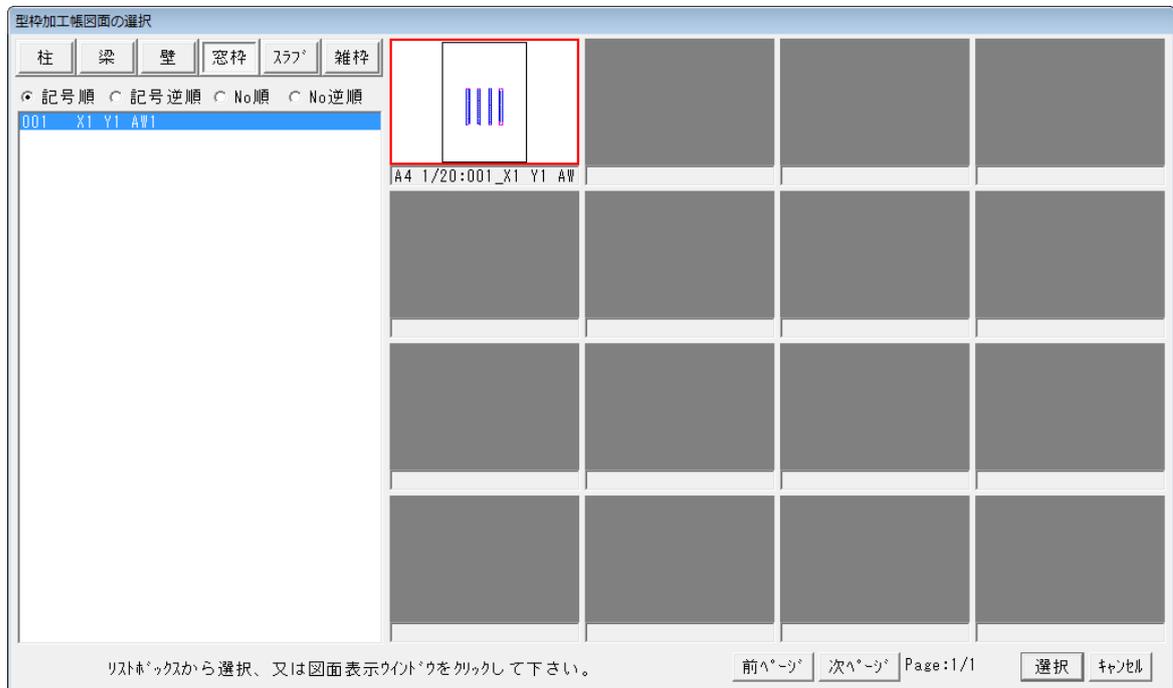
【窓枠加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

保存したデータを開く方法（編集、印刷）

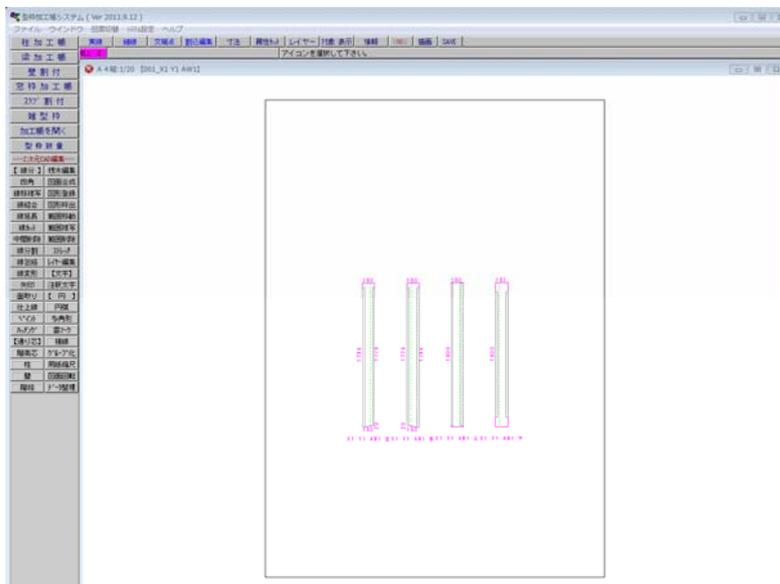
左メニューの加工帳を開く、で保存した窓枠設定データを開くことができます。

型枠加工帳図面の選択画面が開きます。

窓枠のボタンをクリックすると、下の枠内に加工帳名称、右に作成したイメージが表示されます。



画面に表示させたい窓枠設定データをクリックします。



加工帳が開きます。

開いたデータは2次元データとして、線分や文字を編集したり、印刷することができます。

※加工帳を開いて編集したデータを再度窓枠設定で編集すると、上書きされてしまいます。

ご注意ください。

【スラブ加工帳】スラブ外形線作成

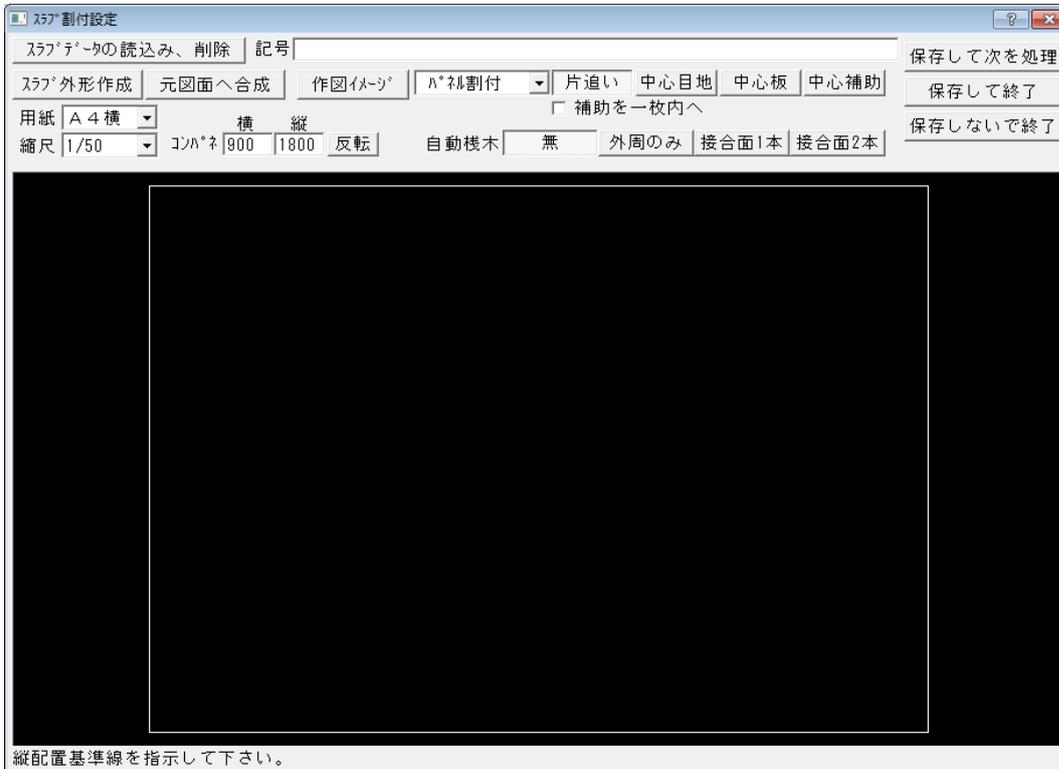
スラブ外形作成

スラブ加工帳を作成します。

あらかじめ、躯体図を画面に表示させるか、スラブの外形線を作図してから作業を行います。

スラブ割付メニューをクリックすると、スラブ割付設定ダイアログが表示されます。

最上部にある**記号**に作成する図面の固有名を入力します。



【スラブ加工帳】スラブ外形線作成

スラブ型枠外形を作成する

スラブ外形作成をクリックして躯体図よりスラブの外形を取得します。割付結果を元図面に書き込む場合は書き込みレイヤをここで指定して下さい。サブメニューの左端で指示するモードが選択できます。

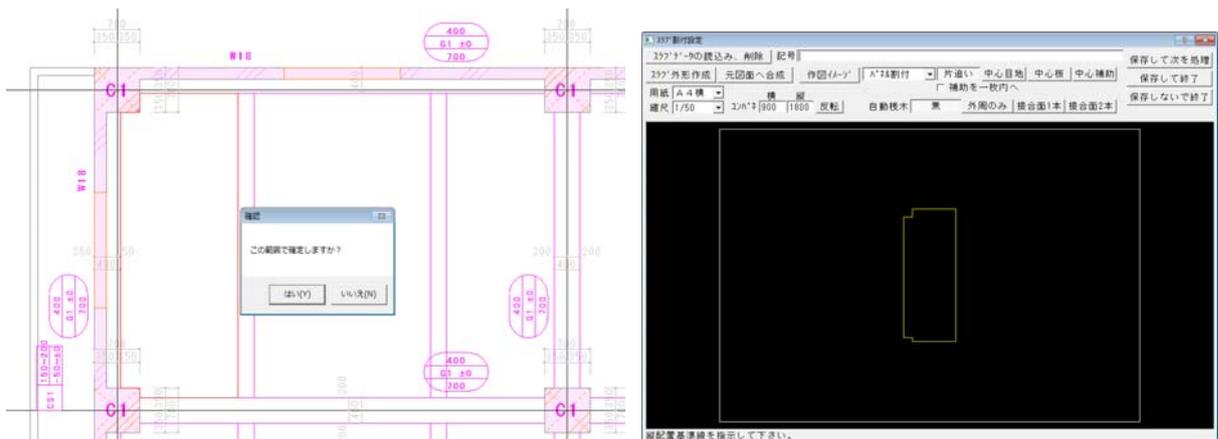
画面で取得するスラブのエリアを大きく表示します。

閉指示は閉領域を一回で指示します。取得したいエリアの内側で線分の近くをクリックしてください。他の線分によって意図するエリアと違う結果になる場合や正しく認識出来ない場合はレイヤ表示のコントロールで余計な線分を非表示にします。

それでも出来ない場合は線指示または点指示でエリアを反時計回りに囲みます。



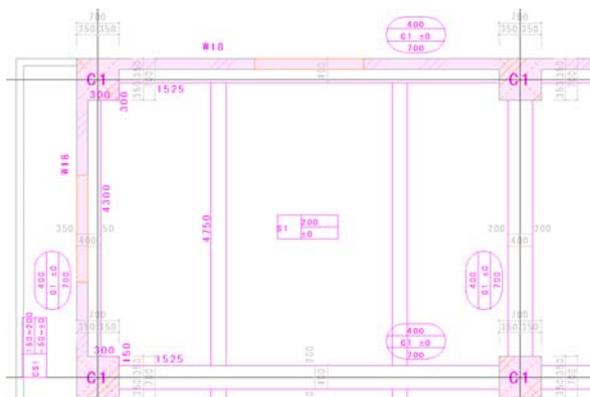
閉指示で、画面上のスラブの内側をクリックします。範囲が赤く表示されます。うまく指示できない場合は、線指示、もしくは点指示(交 endpoint 等での指示)で再度外形を指示してください。



範囲確定後、スラブ割付設定画面に、スラブ外形が作成されます。エリアが大きく見えるように用紙・縮尺を調整することも可能です。

スラブ外形を元図面で合成する

スラブ外形作成後、元図面へ合成 をクリックするち、躯体図へスラブ加工帳寸法を合成する事ができます。



【スラブ加工帳】 パネル割付

パネル割付

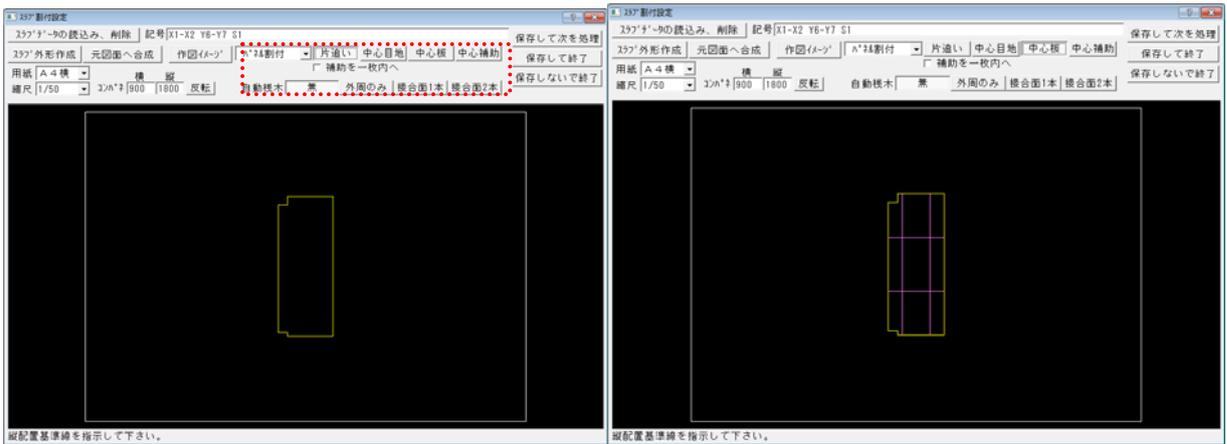
スラブの外形作成後、パネルの割付を行います。

パネル割付 をクリックして、方追い、中心目地、中心板、中心補助より選択します。補助を一枚内へにチェックをしてから割付を行うと、補助を端部ではなく一枚内側へ割り付けることができます。

スラブ割付設定画面内のスラブの外形線をパネルを割り付ける範囲を割り付ける順に上下左右の線を選択します。

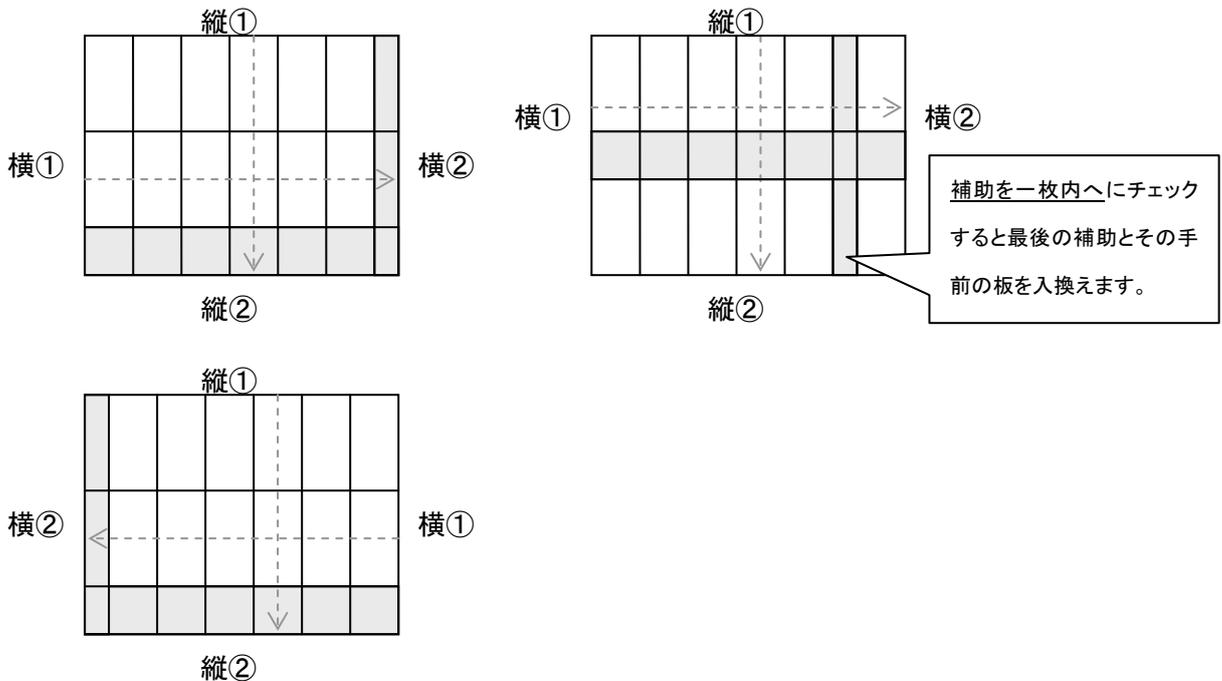
栈木も自動で配置されますので、外周のみ、接合面1本、接合面2本より選択します。

コンパネのサイズも横、縦の寸法を入力、反転することが可能です。



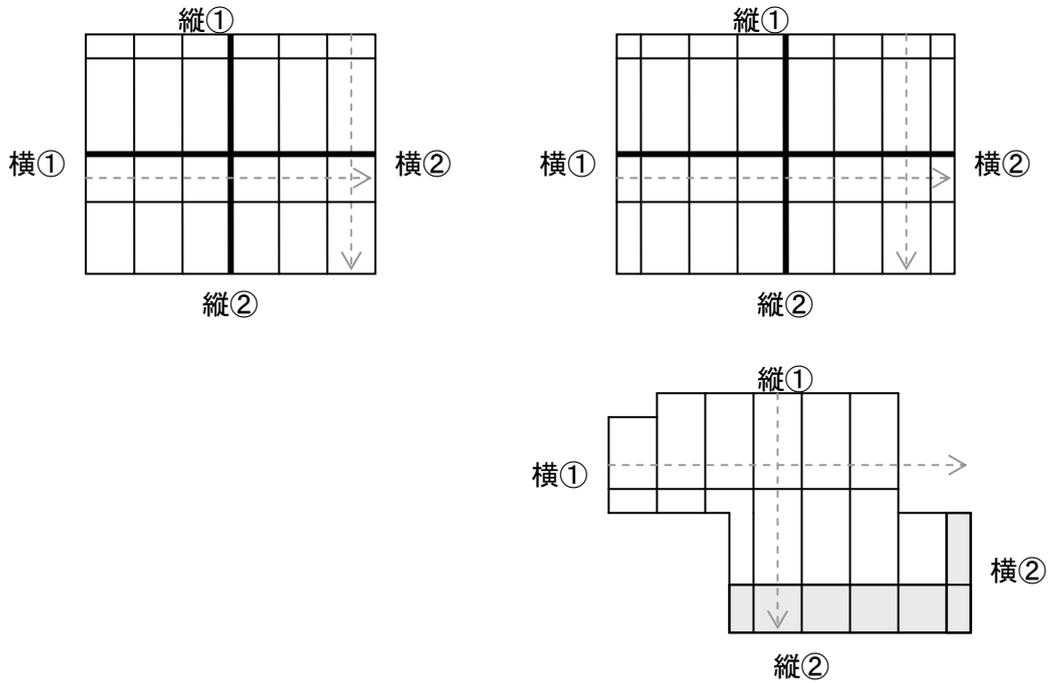
パネル割付パターン

片追い①側から割付けを始めて②側に補助がきます。右の例は端部の補助を嫌う場合の設定です。

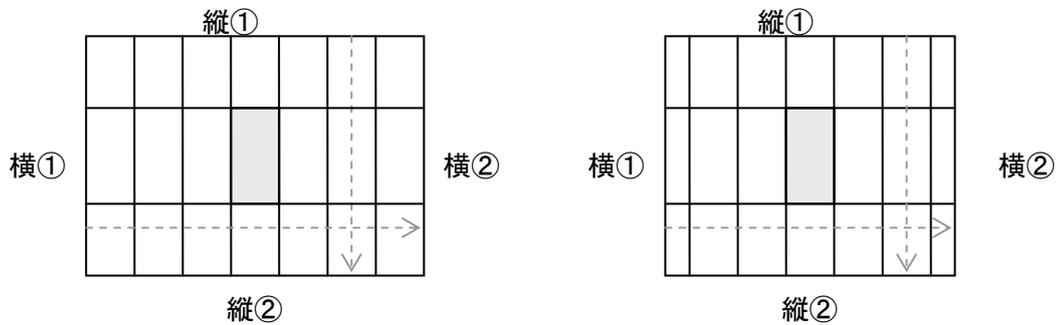


【スラブ加工帳】 パネル割付

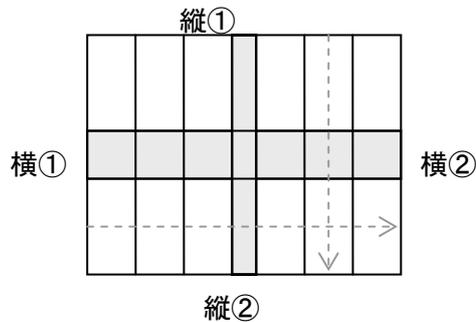
中心目地 ①側から割付けを始めて②側に補助がきます。右の例は端部の補助を嫌う場合の設定です。



中心板 縦・横とも中心に真板がくる割付です。余りが出る場合は左右に補助を作ります。



中心補助 割付中央に補助を持ってきます。

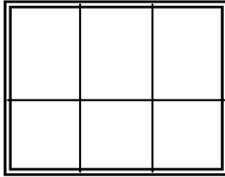


【スラブ加工帳】 パネル割付

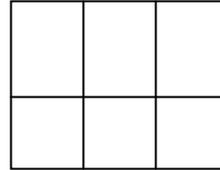
自動棧木（棧木表示の選択）

割付時に棧木の作図選択が可能です。下記を参照して下さい。

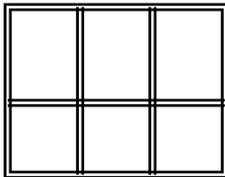
無



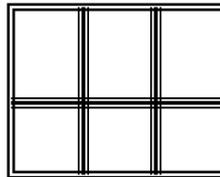
外周のみ



接合部1本



接合部2本



【スラブ加工帳】 パネル割付

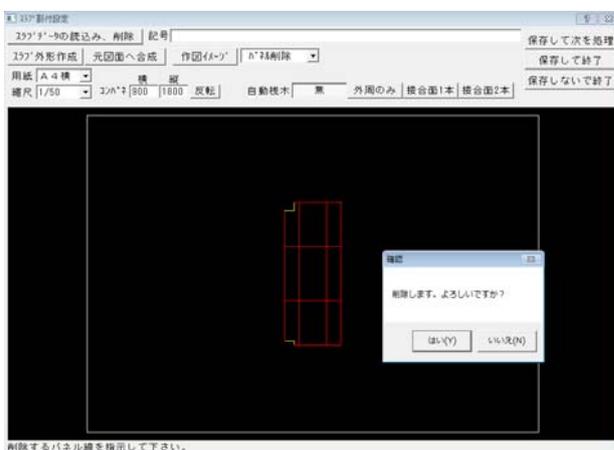
パネル割付後の編集（削除、入替、合成、変更）



パネル割付後、パネル削除、入替、均等、合成、変更を行う事が可能です。
スラブ外形線のサイズを調整することも可能です。

パネル削除

割付した線分をクリックすると選択した割付が赤い線表示になり、確認メッセージが出ます。



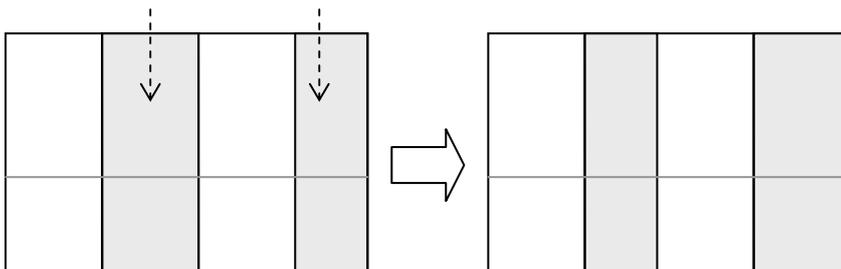
はいをクリックで選択した割付が削除されます。

パネル入替

割付処理後のパネルの変更をする機能です。

パネル編集を行うときは自動積木を **無** にしておく方が見やすくなります。

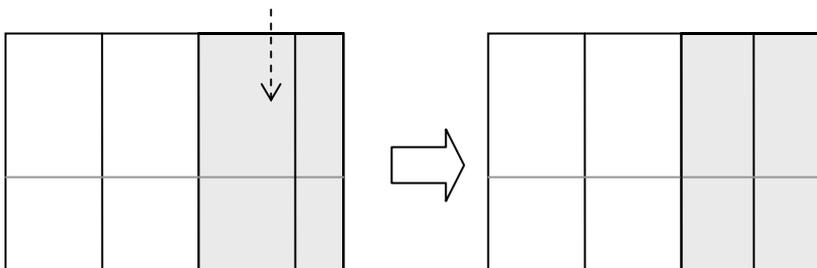
- ① **縦目地編集**か**横目地編集**かを選択します。編集可能な方向の線がピンク、不可の方向は青線表示になります。
- ② 割付の中からパネル2箇所を選択して入れ替えます。



【スラブ加工帳】 パネル割付

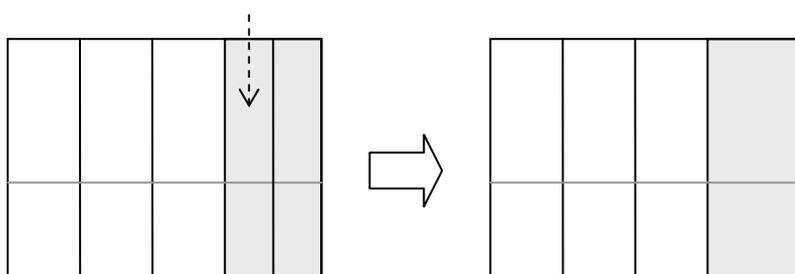
パネル均等

隣り合う2枚を1クリックで選択して均等に割り直します。



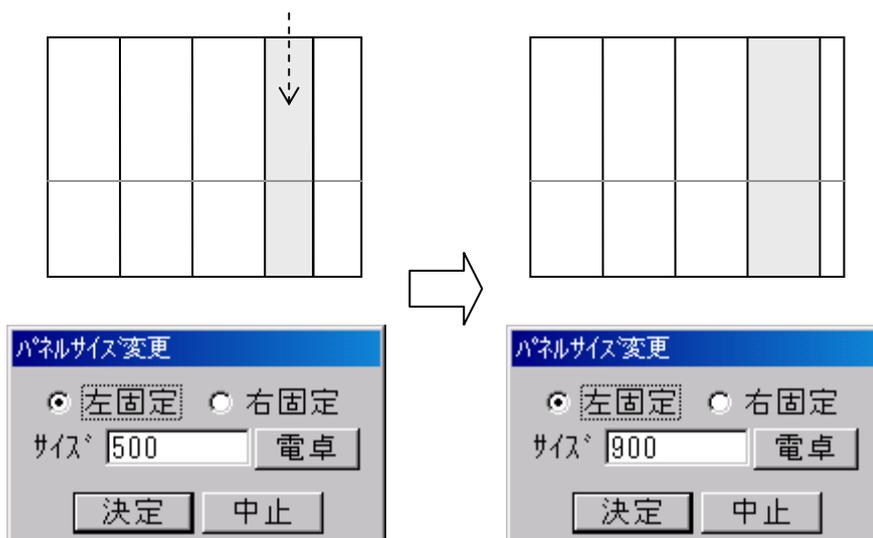
パネル合成

隣り合う2枚を1クリックで選択して合成します。合成後のサイズに注意する必要があります。



パネル変更

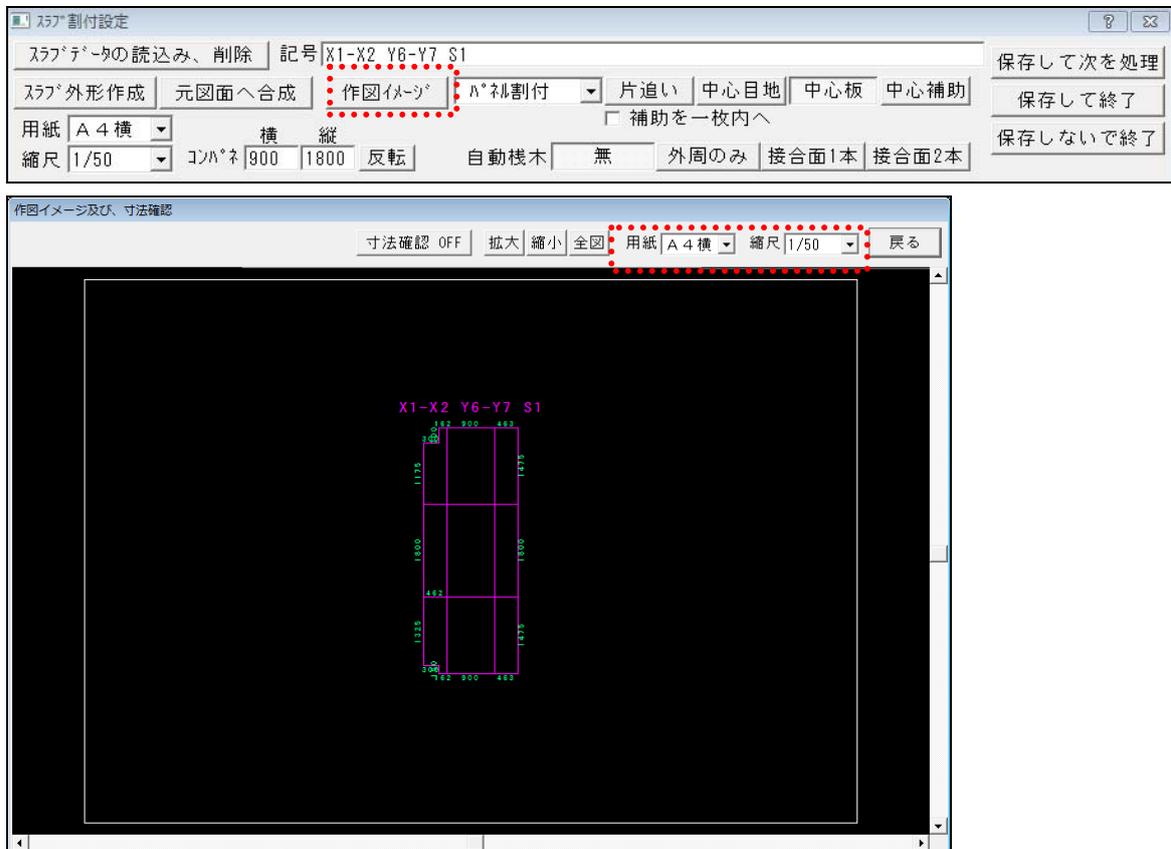
パネルサイズを変更したいパネルをクリックします。変更時の基準が右か左かを選択して変更後のサイズを入力します。



【スラブ加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

スラブ加工帳の作図イメージ確認

データ入力後にスラブ加工帳のイメージ確認、用紙縮尺変更ができます。

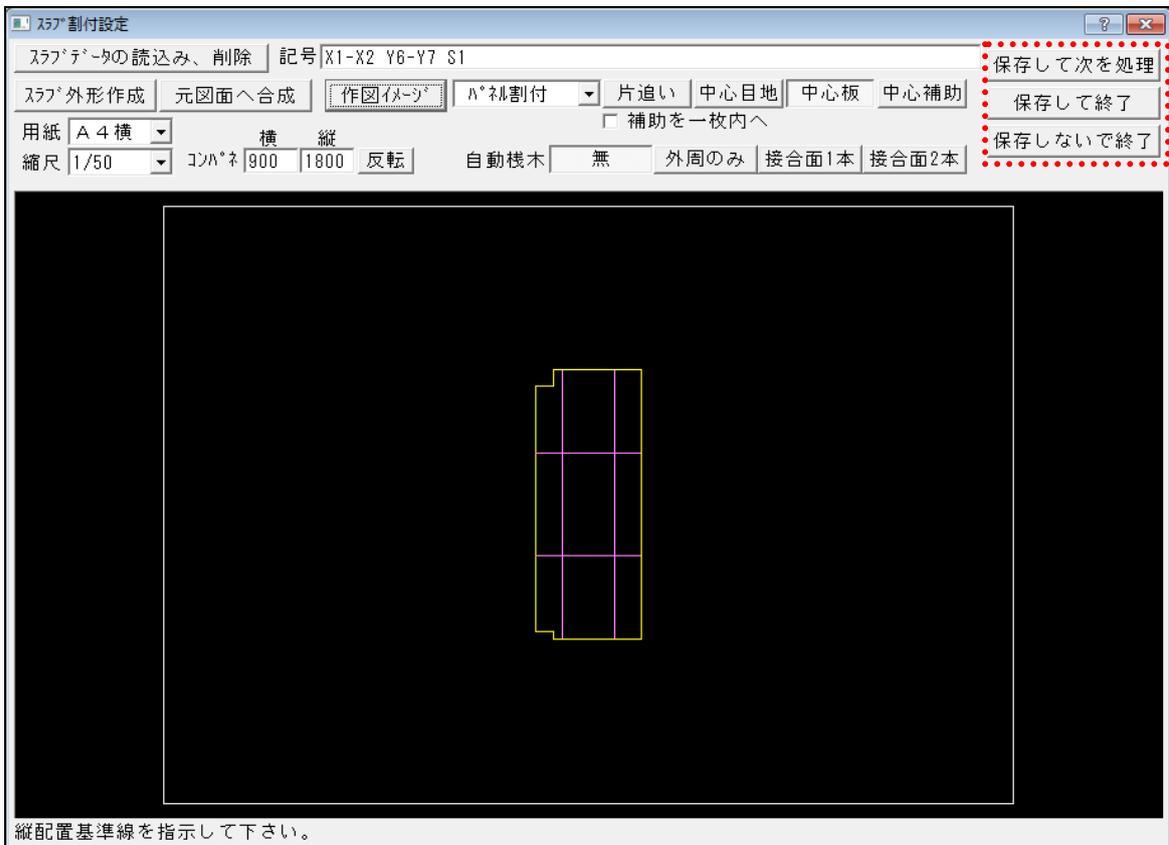


作図イメージ、をクリックすると、下記の画面が表示されます。用紙や縮尺を変更したり、拡大縮小等ボタンをクリックして確認することができます。

【スラブ加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

スラブ加工帳データ保存

データ入力後は、データを保存します。



保存して次を処理

作成したデータを保存します。画面はそのまま次で柱を作成できます。

保存して終了

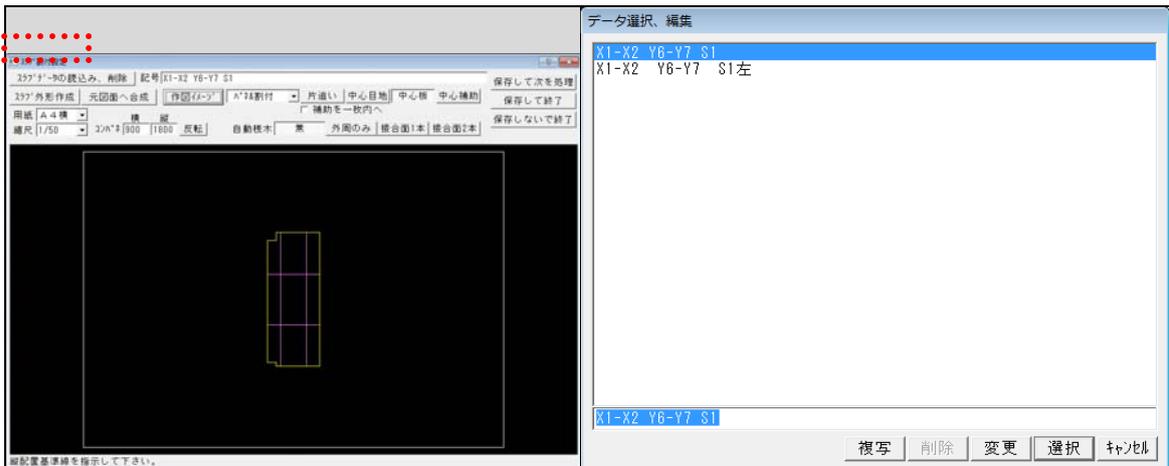
作成したデータを保存してこのメニューを終了します。

保存しないで終了

現在作業中のデータを保存しないで終了します。

【スラブ加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

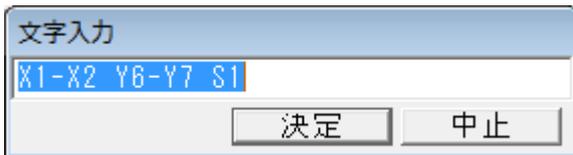
既存データを編集する（複写、削除、名称変更）



以前に作って保存してあるデータの呼び出し、名前の変更、複写、削除が行えます。

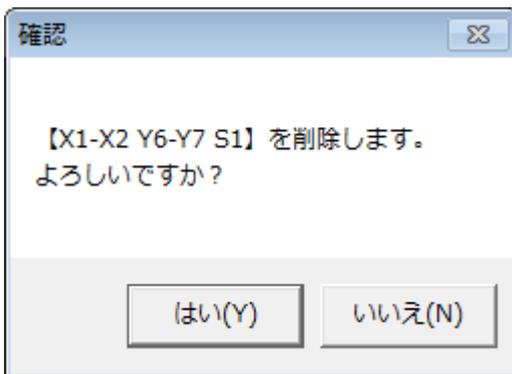
スラブデータの読み込み、削除をクリックしてリストを表示させます。

複写 リストから選び、**複写**をクリックするとスラブデータの名前を聞いてきます。



入力して**決定**をクリックします。その後、**選択**で呼び出して編集した後、保存して下さい。

削除 リストから選び、**削除**をクリックすると確認メッセージが出ます。



はい(Y)をクリックすると選択したスラブデータが削除されます。

名称変更 リストから選び下段に表示されている名前を書き換えてから**変更**をクリックします。

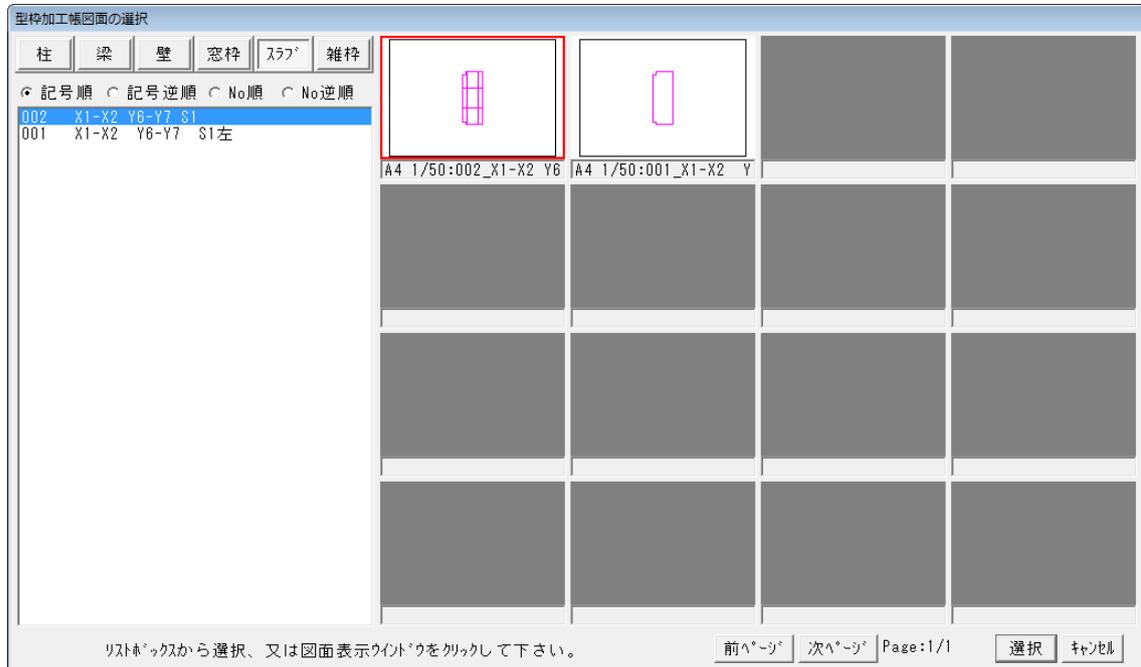
【スラブ加工帳】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

保存したスラブデータを開く方法（編集、印刷）

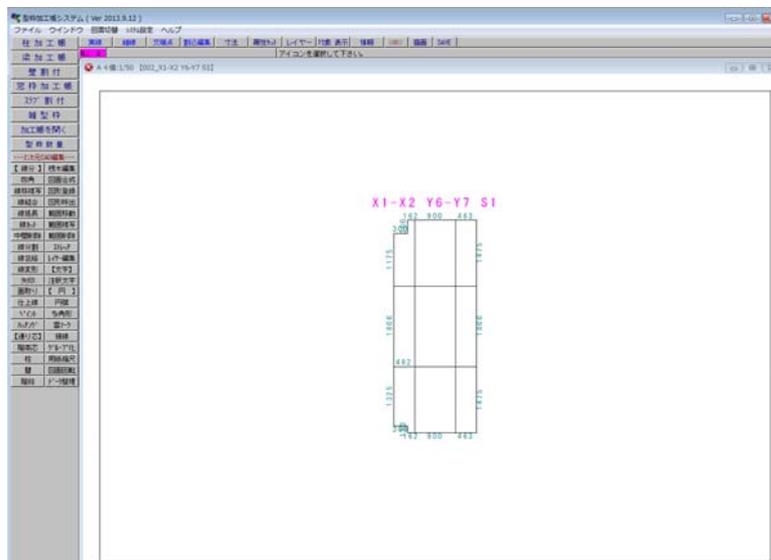
左メニューの加工帳を開く、で保存したスラブ割付データを開くことができます。

型枠加工帳図面の選択画面が開きます。

スラブのボタンをクリックすると、下の枠内に加工帳名称、右に作成したスラブイメージが表示されます。



画面に表示させたいスラブデータをクリックします。



加工帳が開きます。

開いたデータは2次元データとして、線分や文字を編集したり、印刷することができます。

※加工帳を開いて編集したデータを再度壁割付で編集すると、上書きされてしまいます。

ご注意ください。

【雑型枠】パネル割付編集

パネル割付



割付に使用するパネルサイズの横幅・縦幅を入力します。

反転をクリックすると横幅と縦幅が入れ替わります。

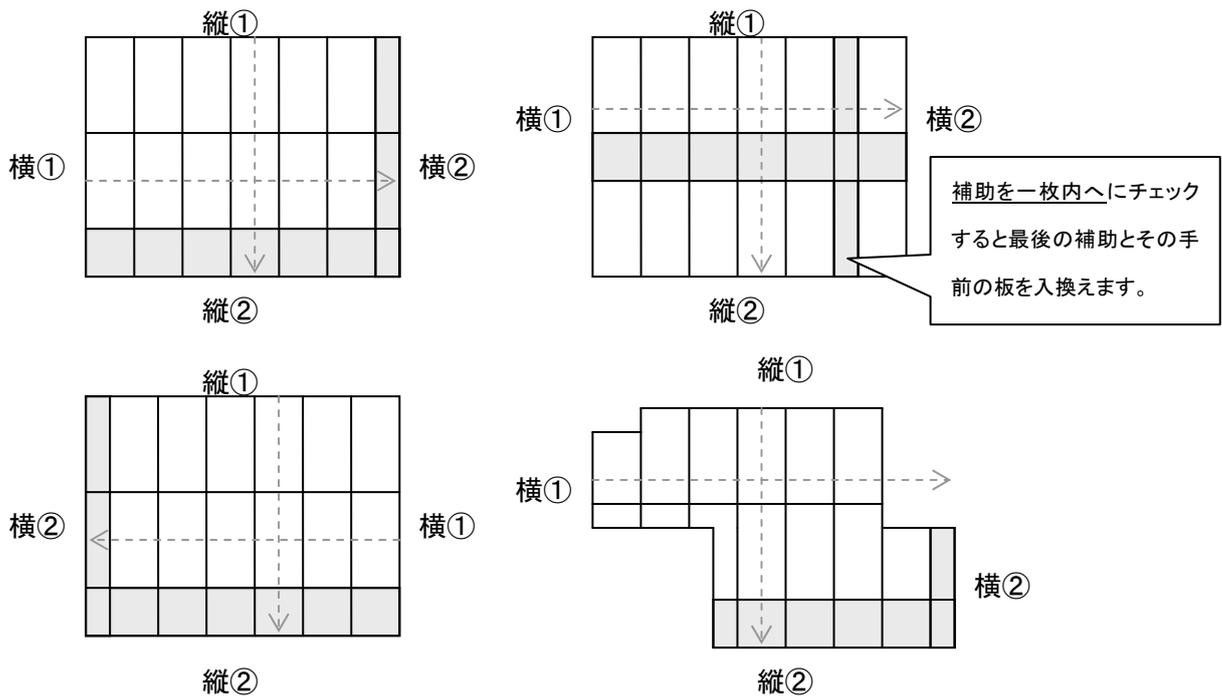
パネル割付方法

最初に割付の法則を選択します。

縦線有または横線有のチェックを外すとその方向の割付ラインがなくなります。たとえば縦割りだけしたい場合は横線有のチェックをはずします。

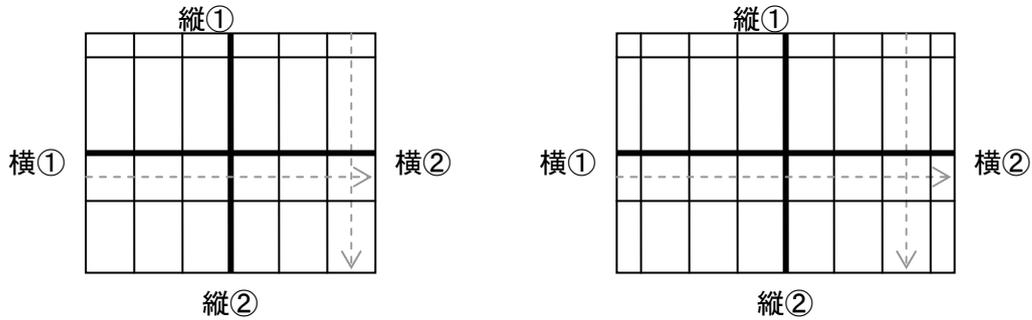
割付範囲の横①・横②・縦①・縦②の順に選択します。

片追い ①側から割付けを始めて②側に補助がきます。右の例は端部の補助を嫌う場合の設定です。

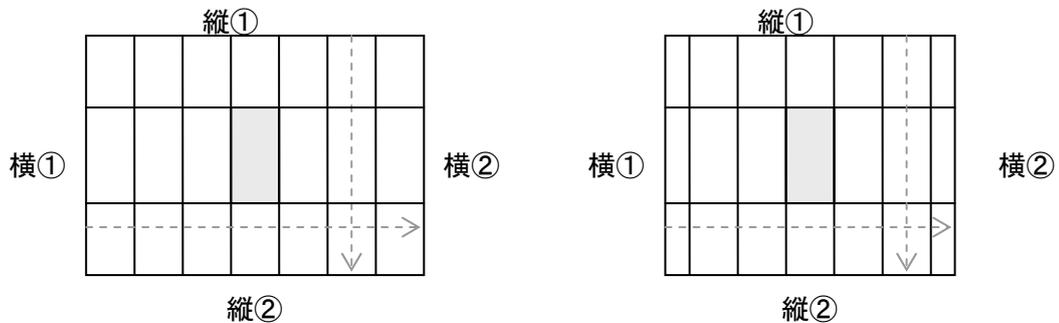


【雑型枠】パネル割付編集

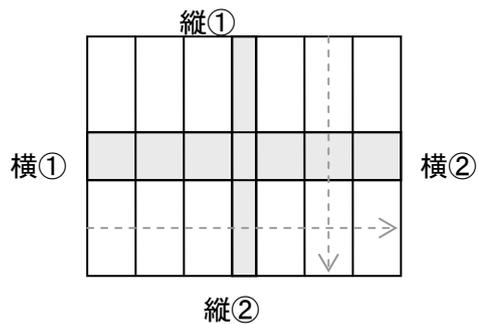
中心目地 ①側から割付けを始めて②側に補助がきます。右の例は端部の補助を嫌う場合の設定です。



中心板 縦・横とも中心に真板がくる割付です。余りが出る場合は左右に補助を作ります。



中心補助 割付中央に補助を持ってきます。



【雑型枠】パネル割付編集

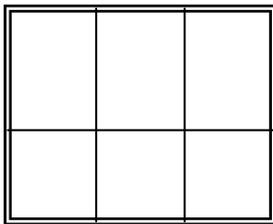
棧木表示の選択



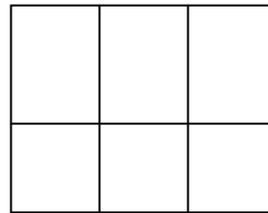
棧木表示の作図選択が可能です。割付の時には表示されないほうが見やすいので「無」にして作図イメージ・保存終了時に設定することをお勧めします。

表記のイメージは下記を参照して下さい。

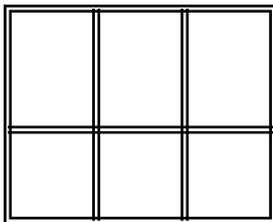
無



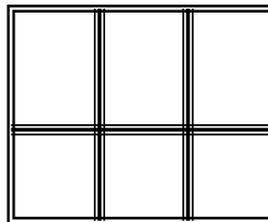
外周のみ



接合部1本



接合部2本



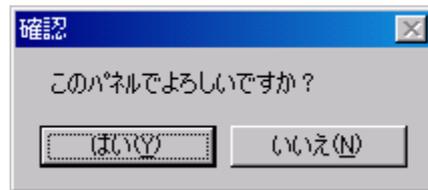
【雑型枠】パネル割付編集

パネル削除

割付した線分をクリックすると選択した割付が赤い線表示になり、確認メッセージが出ます。



はいをクリックで選択した割付が削除されます。

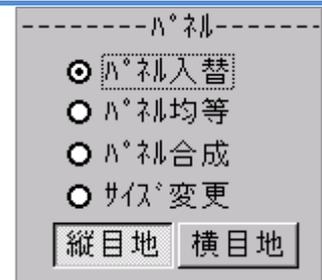


パネル編集（入替、均等、合成、サイズ変更）

割付処理後のパネルの変更をする機能です。

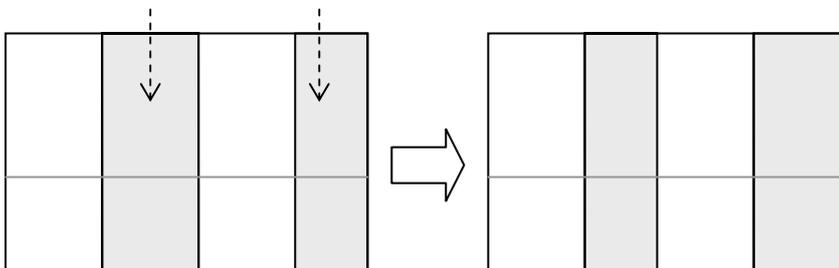
画面右側にあるパネルの項目で選択します。

パネル編集を行うときは自動棧木を **無** にしておく方が見やすくなります。



- ① **縦目地**か**横目地**かを選択します。編集可能な方向の線がピンク、不可の方向は青線表示になります。
- ② 変更の種類を選択します。

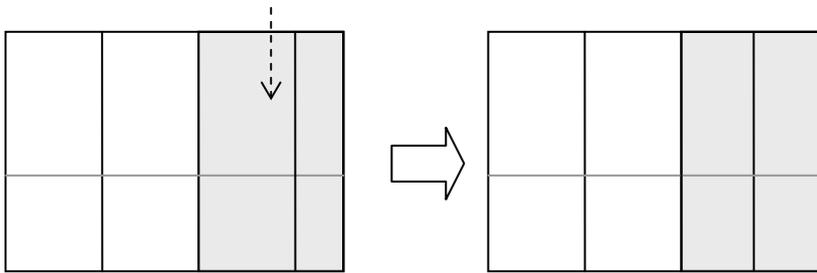
パネル入替 割付の中からパネル2箇所を選択して入れ替えます。



【雑型枠】 パネル割付編集

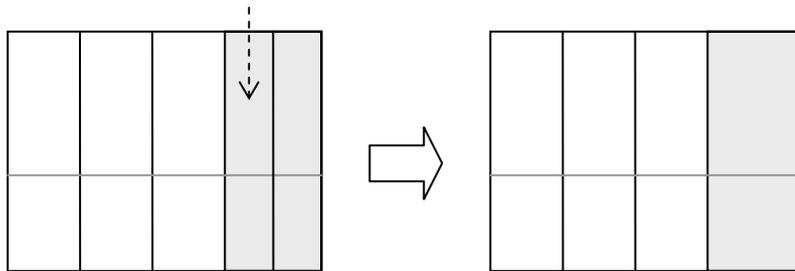
パネル均等

隣り合う2枚を1クリックで選択して均等に割り直します。



パネル合成

隣り合う2枚を1クリックで選択して合成します。合成後のサイズに注意する必要があります。



サイズ変更

サイズを変更したいパネルをクリックします。変更時の基準が右か左かを選択して変更後のサイズを入力します。

パネルサイズ変更

左固定 右固定

サイズ 500 電卓

決定 中止

パネルサイズ変更

左固定 右固定

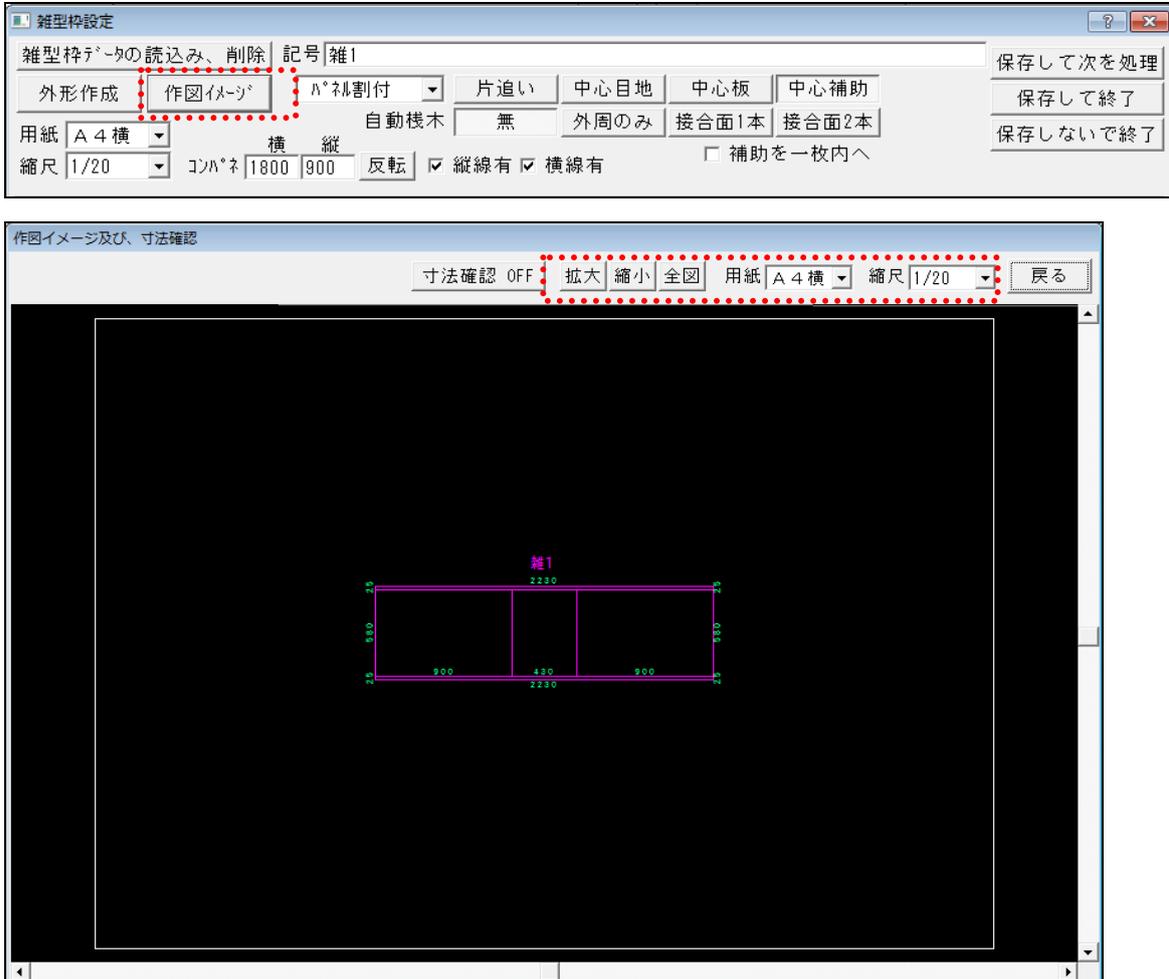
サイズ 900 電卓

決定 中止

【雑型枠】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

雑型枠の作図イメージ確認

データ入力後に雑型枠のイメージ確認、用紙縮尺変更ができます。

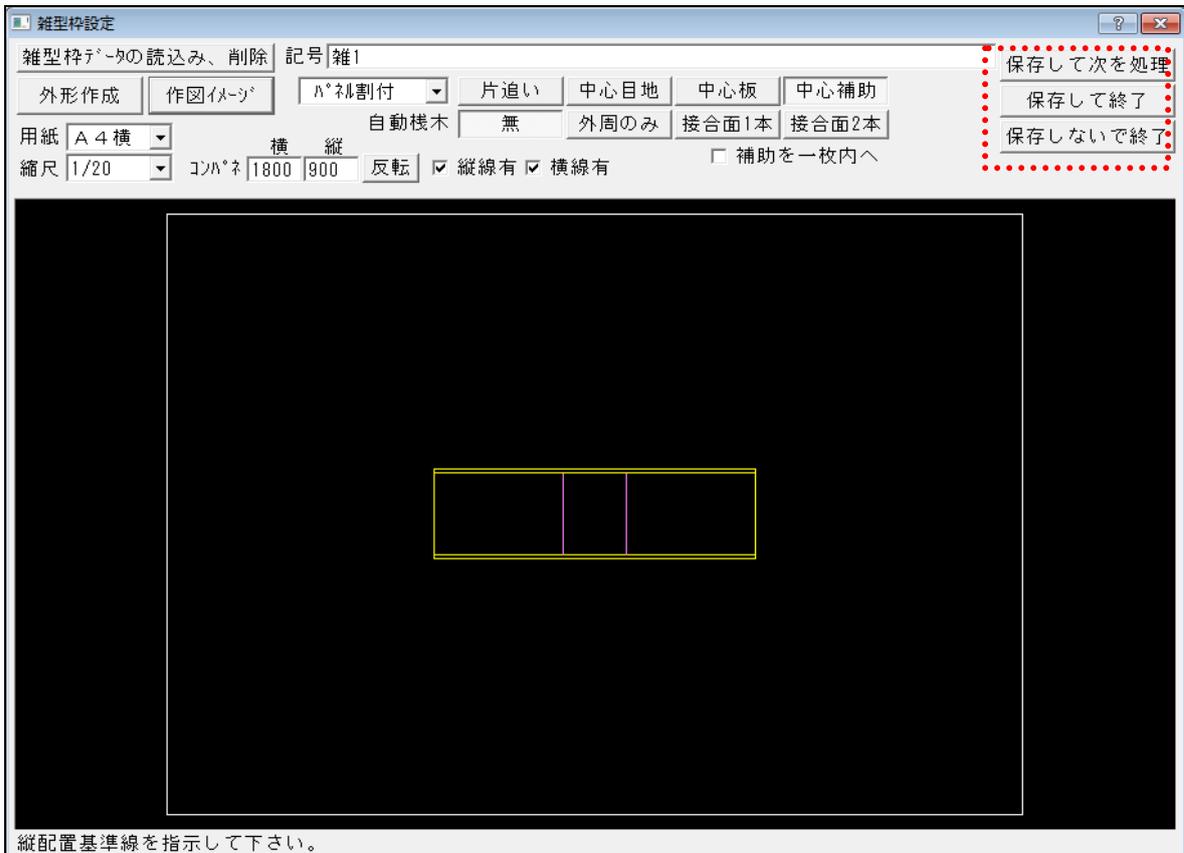


作図イメージ、をクリックすると、下記の画面が表示されます。用紙や縮尺を変更したり、拡大縮小等ボタンをクリックして確認することができます。

【雑型枠】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

雑型枠データ保存

データ入力後は、データを保存します。



保存して次を処理

作成したデータを保存します。画面はそのまま次でデータを作成できます。

保存して終了

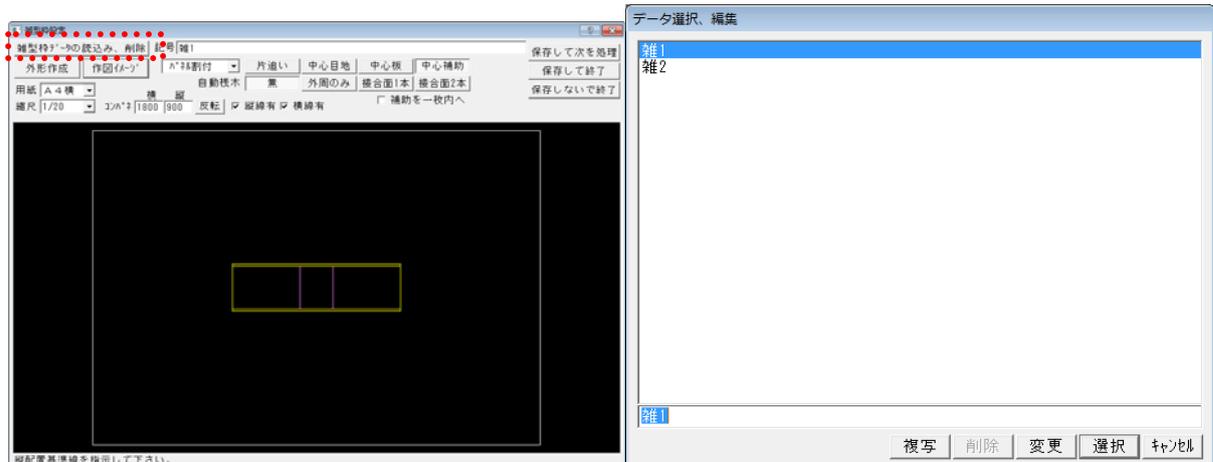
作成したデータを保存してこのメニューを終了します。

保存しないで終了

現在作業中のデータを保存しないで終了します。

【雑型枠】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

既存データを編集する（複写、削除、名称変更）



以前に作って保存してあるデータの呼び出し、名前の変更、複写、削除が行えます。

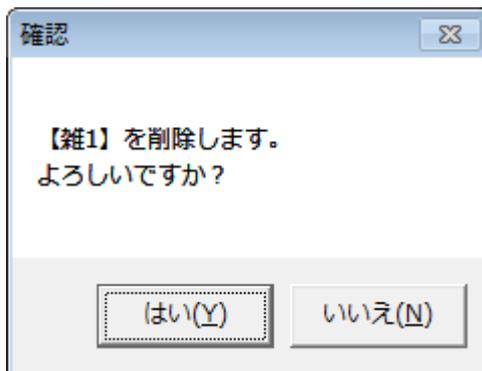
雑型枠データの読み込み、削除をクリックしてリストを表示させます。

複写 リストから選び、**複写**をクリックすると雑型枠データの名前を聞いてきます。



入力して**決定**をクリックします。その後、**選択**で呼び出して編集した後、保存して下さい。

削除 リストから選び、**削除**をクリックすると確認メッセージが出ます。



はい(Y)をクリックすると選択した雑型枠データが削除されます。

名称変更 リストから選び下段に表示されている名前を書き換えてから**変更**をクリックします。

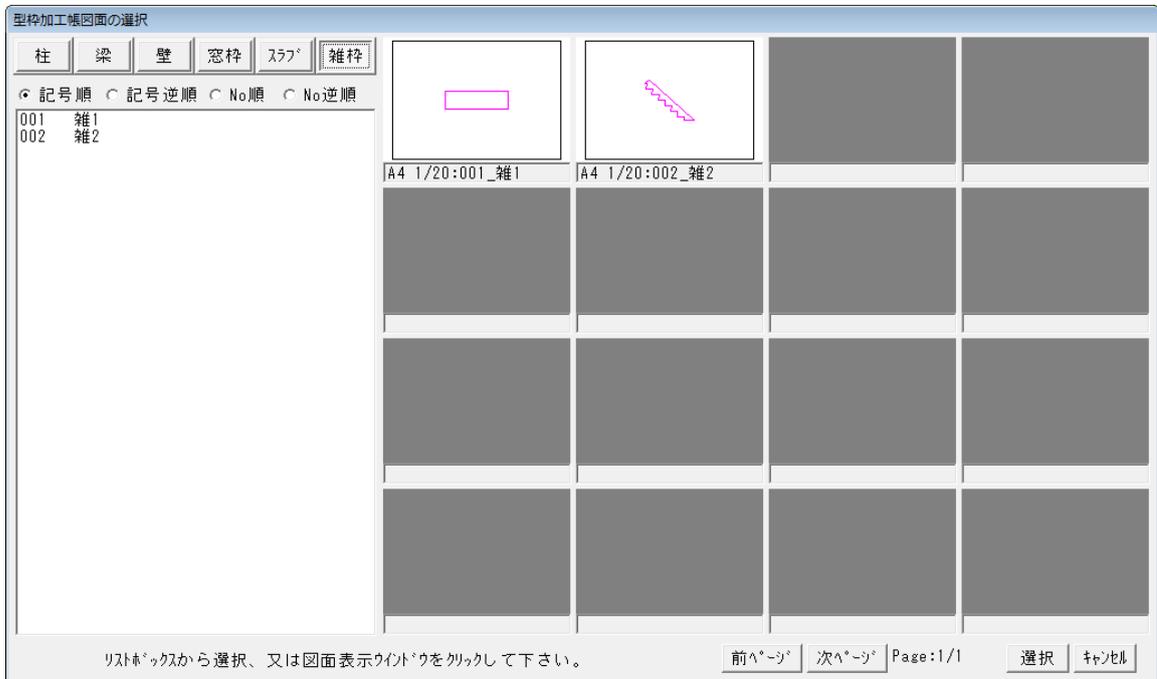
【雑型枠】イメージ確認・保存・編集・データを開く方法

保存した雑型枠データを開く方法（編集、印刷）

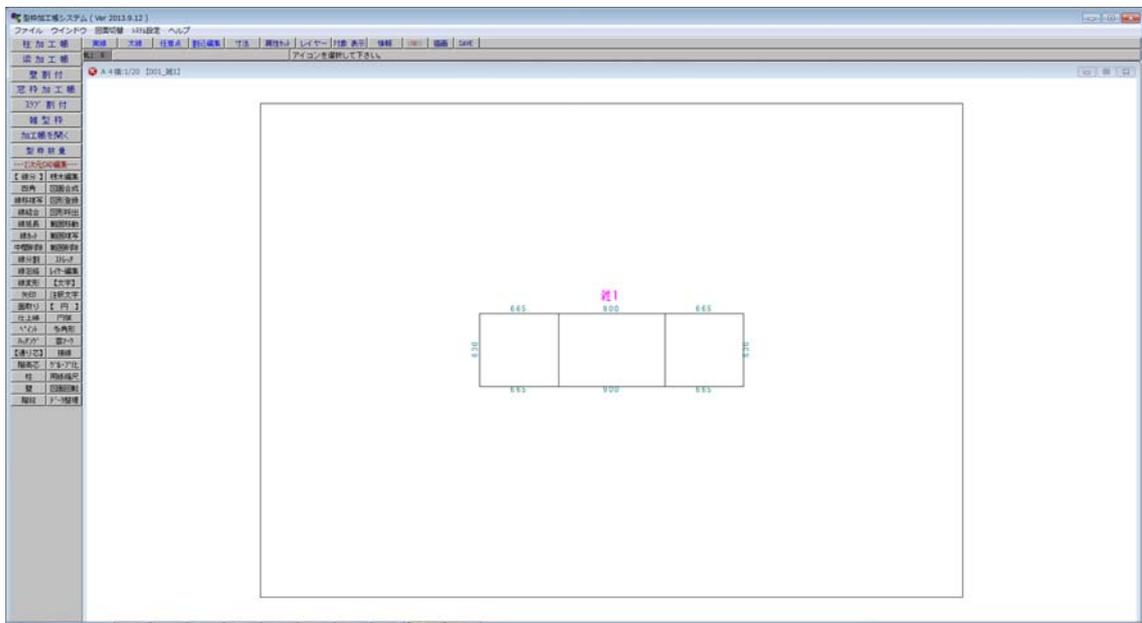
左メニューの加工帳を開く、で保存した雑型枠データを開くことができます。

型枠加工帳図面の選択画面が開きます。

雑枠のボタンをクリックすると、下の枠内に加工帳名称、右に作成したスラブイメージが表示されます。



画面に表示させたい雑型枠データをクリックします。



加工帳が開きます。

開いたデータは2次元データとして、線分や文字を編集したり、印刷することができます。

※加工帳を開いて編集したデータを再度、雑型枠で編集すると、上書きされてしまいます。

ご注意ください。